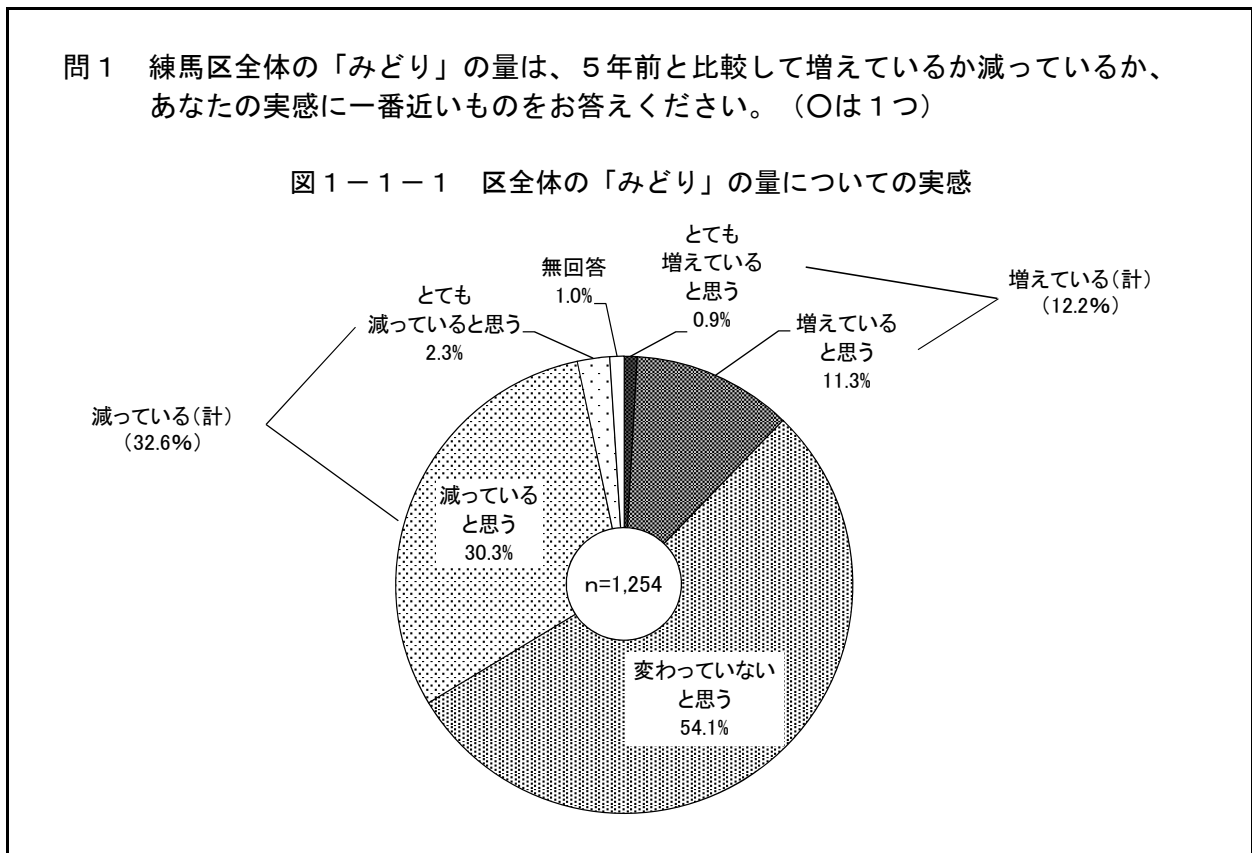


3 調査結果 無作為抽出調査（3,000人調査）

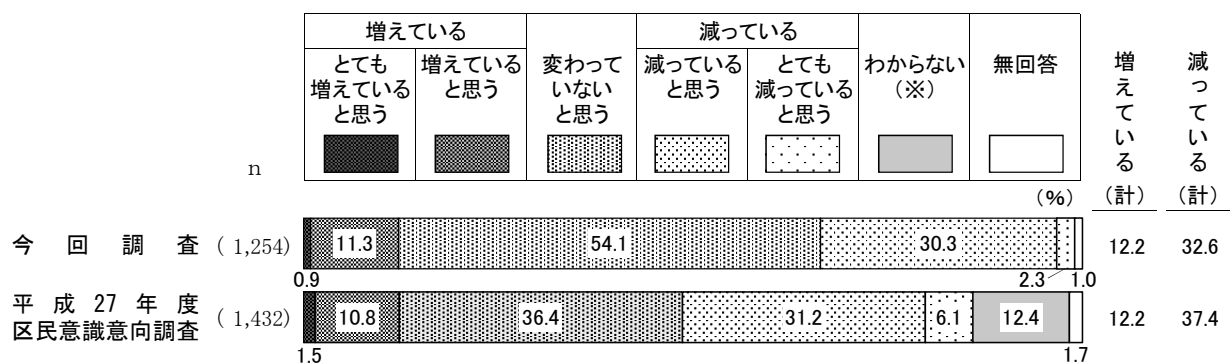
(1) 区全体の「みどり」の量についての実感

◇「あまり変わっていないと思う」が5割台半ば、『減っている』が3割台前半



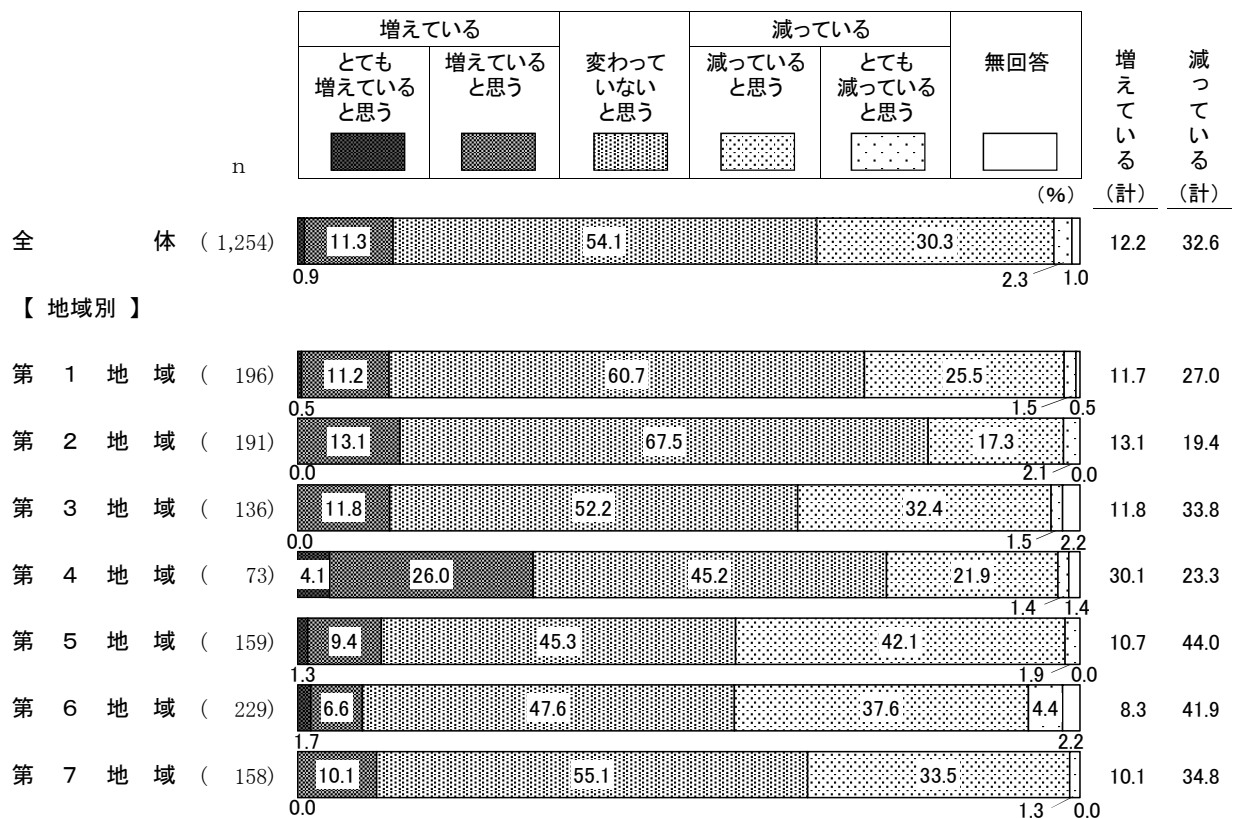
区全体の「みどり」の量についての実感聞いたところ、「とても増えていると思う」（0.9%）と「増えていると思う」（11.3%）を合わせた『増えている』（12.2%）が1割を超えている。一方、「減っていると思う」（30.3%）と「とても減っていると思う」（2.3%）を合わせた『減っている』（32.6%）が3割台前半となっている。「変わらないと思う」（54.1%）が5割台半ばとなっている。（図1-1-1）

図1-1-2 区全体の「みどり」の量についての実感—過去調査との比較



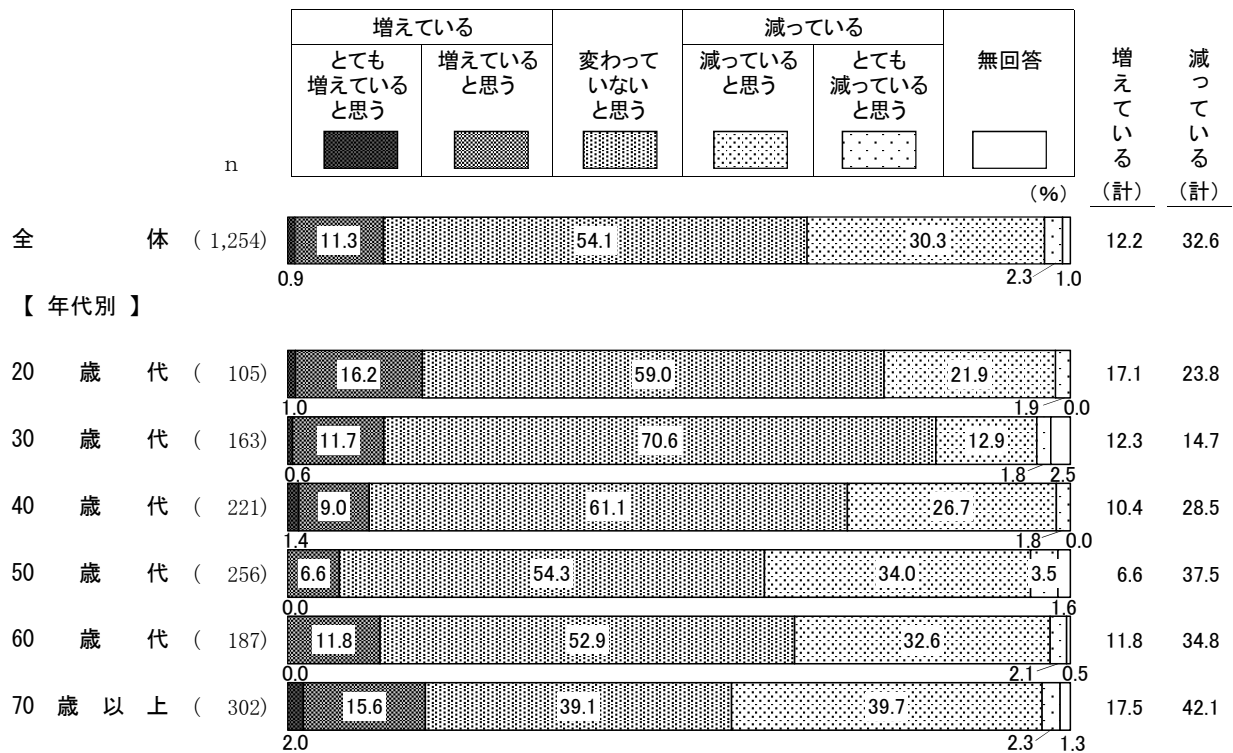
平成27年度区民意識意向調査と比較すると、『増えている』は同率、『減っている』は4.8ポイント減少している。（図1-1-2）

図1-1-3 区全体の「みどり」の量についての実感—地域別



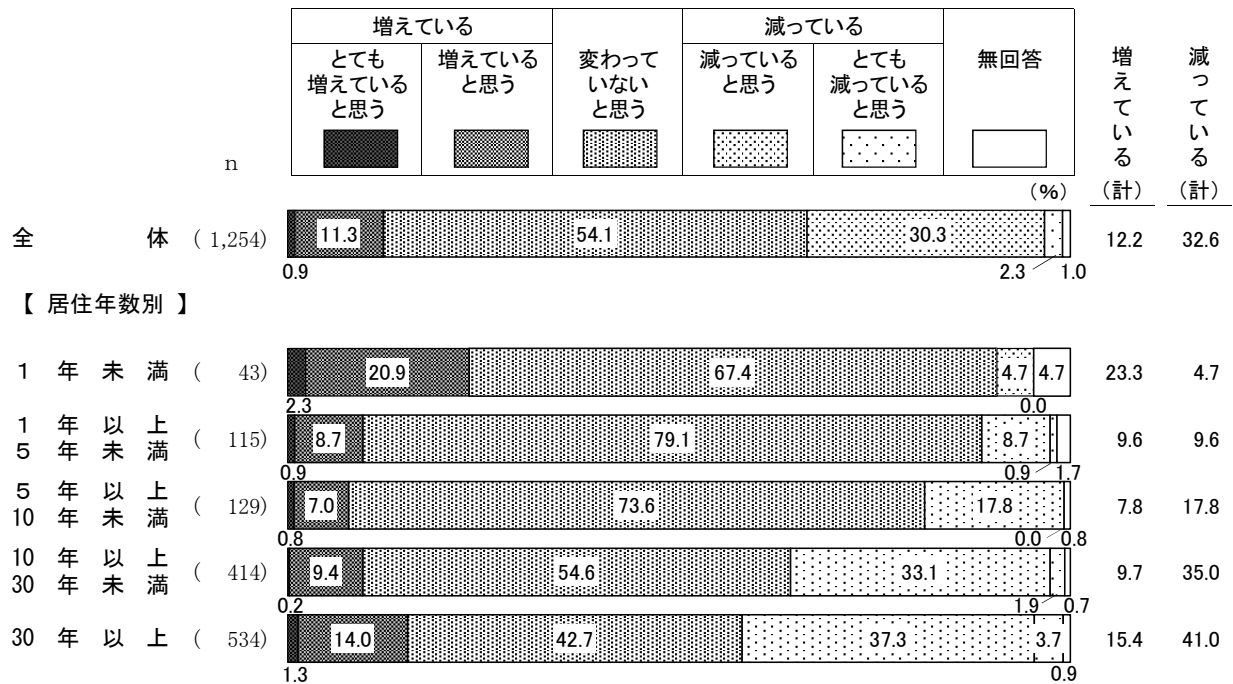
地域別にみると、『増えている』は第4地域で約3割と多くなっている。『減っている』は第5地域で4割台半ば、第6地域で4割を超えて多くなっている。「変わっていないと思う」は第2地域で7割近くと多くなっている。(図1-1-3)

図1-1-4 区全体の「みどり」の量についての実感—年代別



年代別にみると、『増えている』は20歳代、70歳以上で2割近くとなっている。『減っている』は70歳以上で4割を超えている。(図1-1-4)

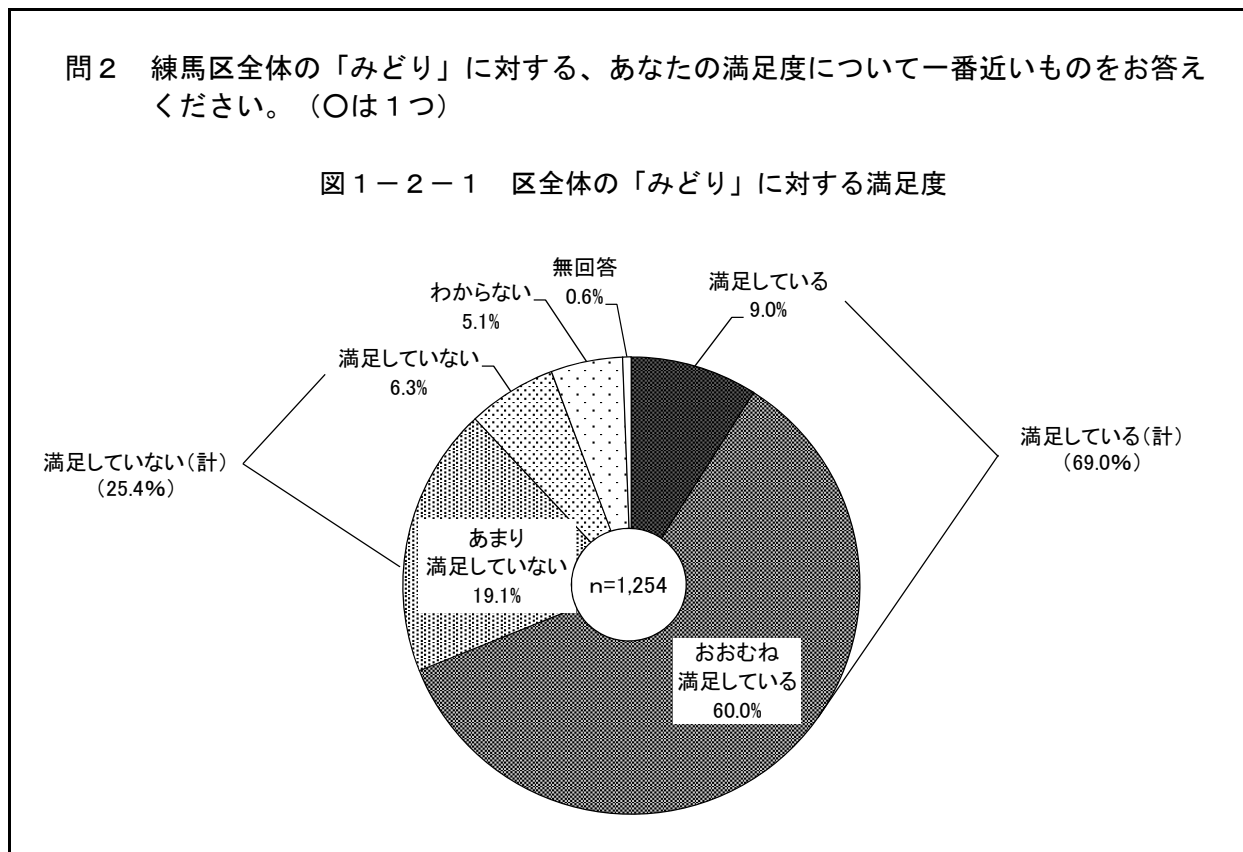
図1-1-5 区全体の「みどり」の量についての実感—居住年数別



居住年数別にみると、『増えている』は1年未満の居住者で2割を超えている。『減っている』は30年以上の居住者で4割を超えて多くなっている。(図1-1-5)

(2) 区全体の「みどり」に対する満足度

◇『満足している』が約7割



区全体の「みどり」に対する満足度を聞いたところ、「満足している」(9.0%)が約1割、「おおむね満足している」(60.0%)が6割、この2つを合わせた『満足している』(69.0%)が約7割となっている。一方、「あまり満足していない」(19.1%)と「満足していない」(6.3%)を合わせた『満足していない』(25.4%)が2割台半ばとなっている。

(図1-2-1)

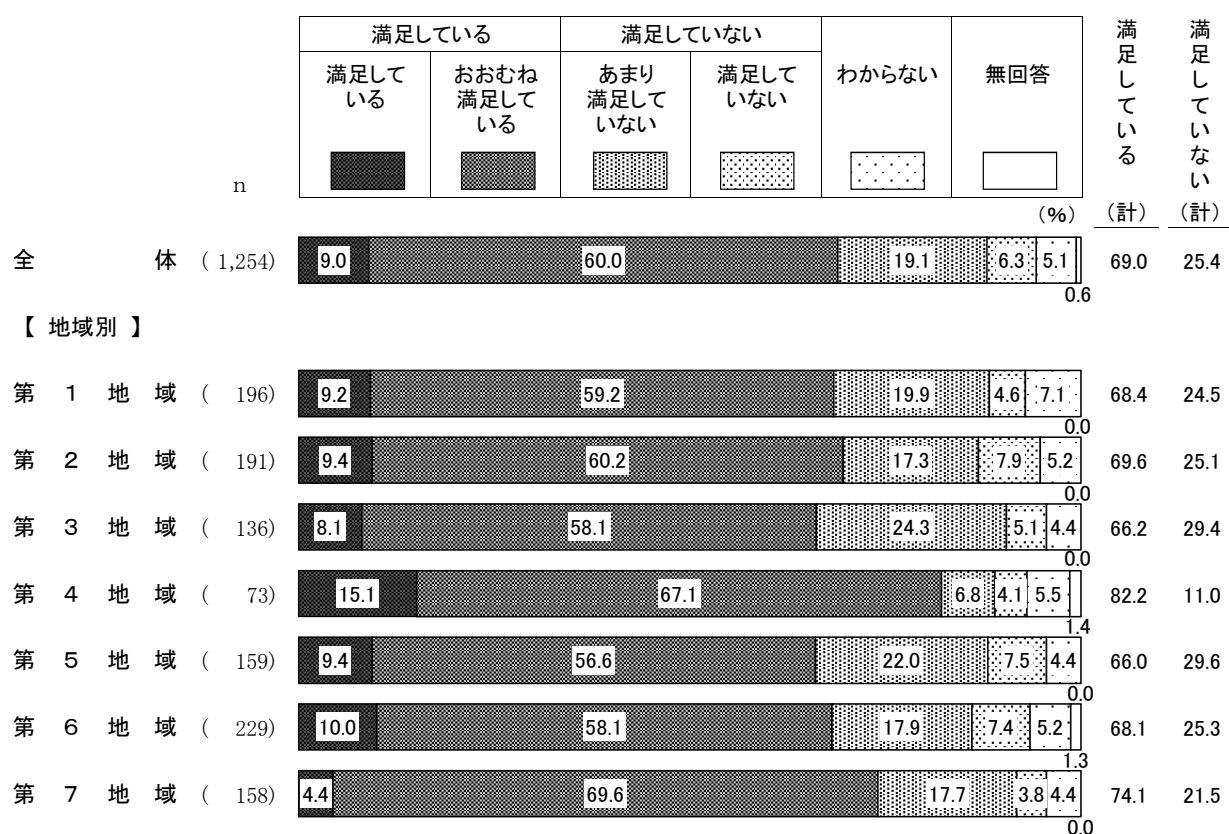
図1-2-2 区全体の「みどり」に対する満足度—過去調査との比較

n	満足している		満足していない		わからない	無回答	満足している(計)	満足していない(計)
	満足している	おおむね満足している	あまり満足していない	満足していない/(*不満足である)				
今回調査 (1,254)	9.0	60.0	19.1	6.3	5.1	0.6	69.0	25.4
平成27年度区民意識意向調査 (1,432)	12.4	57.3	16.3	4.7	7.5	1.7	69.8	20.9

※平成27年度区民意識意向調査の選択肢は「不満である」。

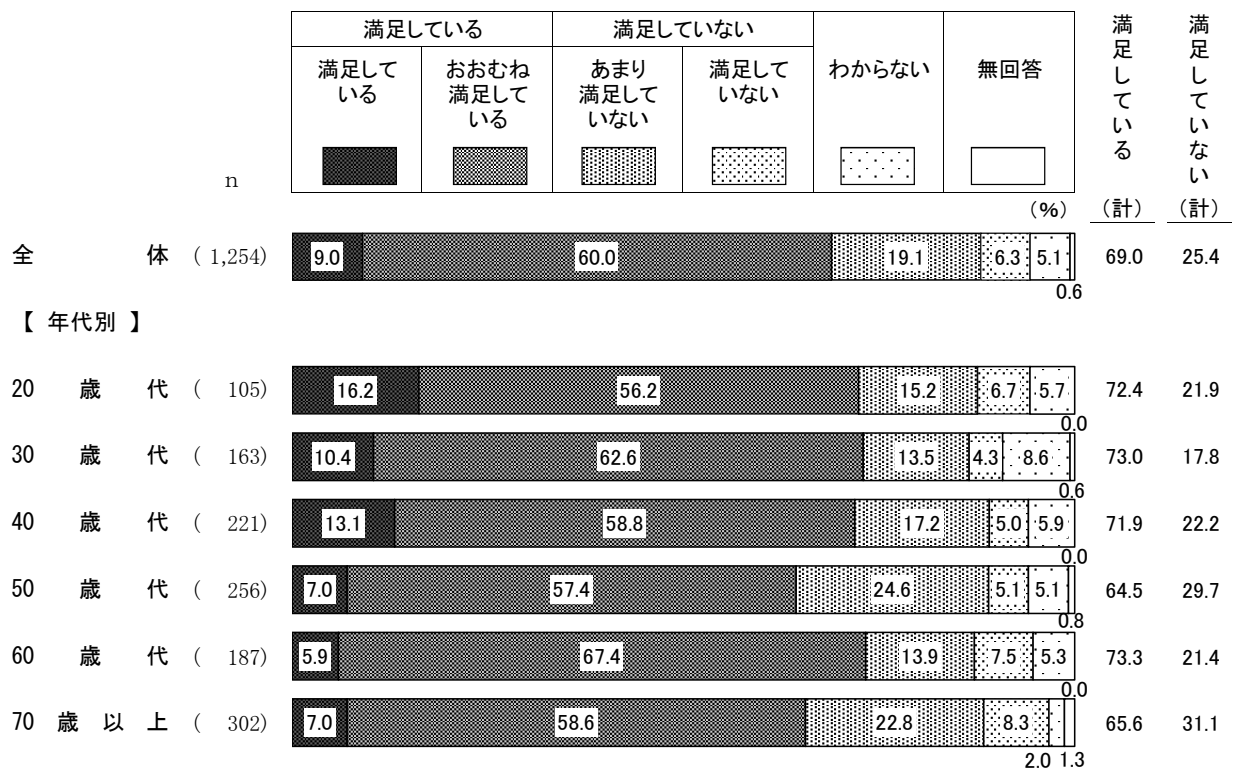
平成27年度区民意識意向調査と比較すると、『満足している』は横ばい、『満足していない』は4.5ポイント増加している。(図1-2-2)

図1-2-3 区全体の「みどり」に対する満足度—地域別



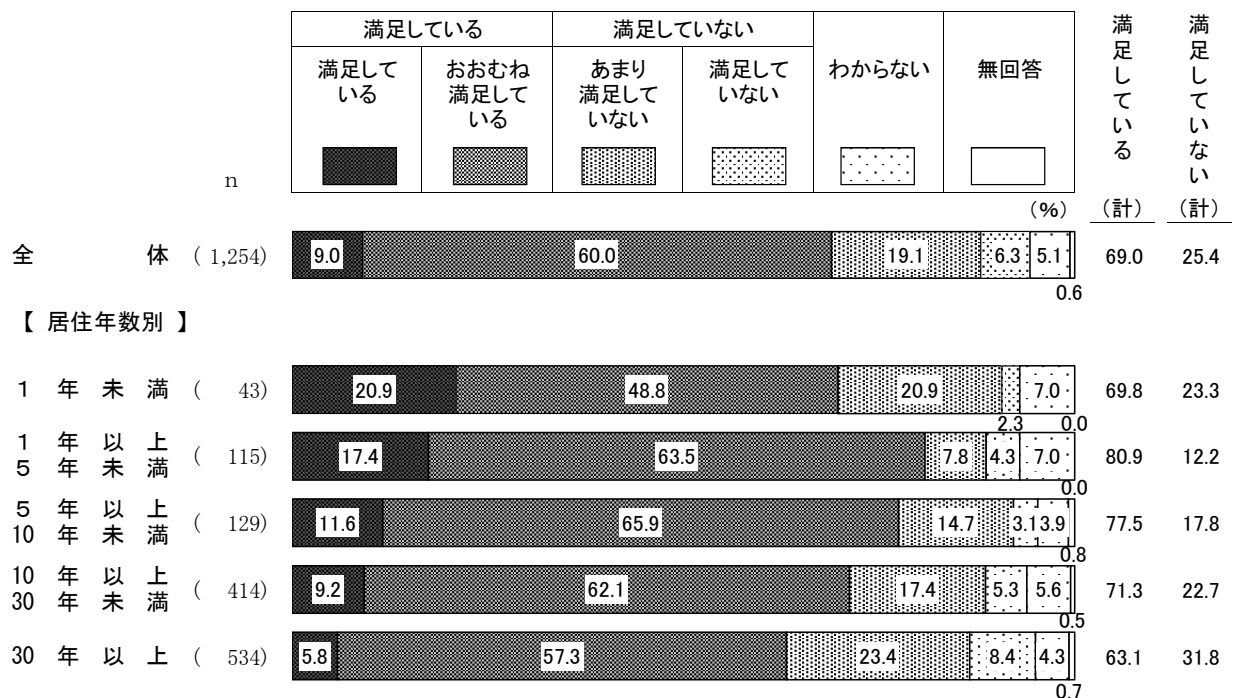
地域別にみると、『満足している』は第4地域で8割を超えて多くなっている。『満足していない』は第3地域、第5地域で約3割となっている。(図1-2-3)

図1-2-4 区全体の「みどり」に対する満足度—年代別



年代別にみると、『満足している』は20歳代、30歳代、40歳代、60歳代で7割を超えている。『満足していない』は50歳代、70歳以上で3割前後となっている。(図1-2-4)

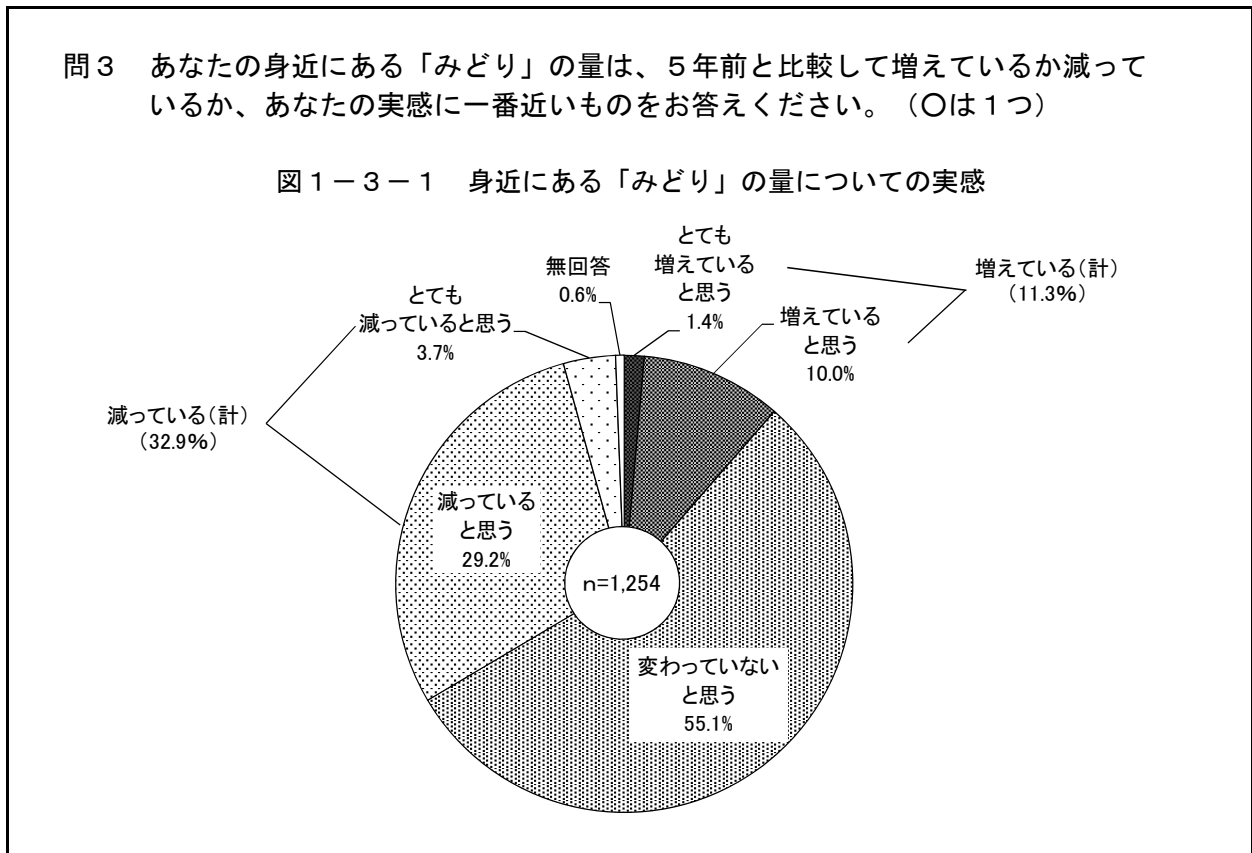
図1-2-5 区全体の「みどり」に対する満足度—居住年数別



居住年数別にみると、『満足している』は1年以上5年未満の居住者で約8割と多くなっている。『満足していない』は30年以上の居住者で3割を超えている。(図1-2-5)

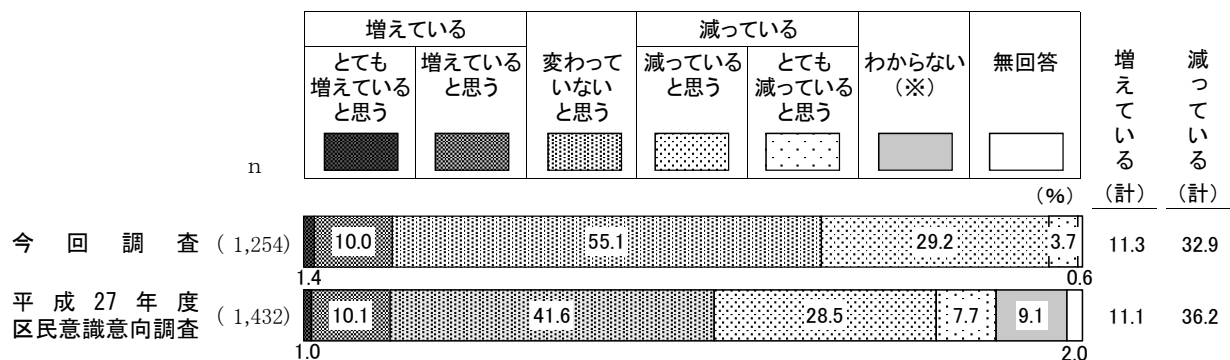
(3) 身近にある「みどり」の量についての実感

◇「あまり変わっていないと思う」が5割台半ば、『減っている』が3割台前半



身近にある「みどり」の量についての実感を聞いたところ、「とても増えていると思う」(1.4%)と「増えていると思う」(10.0%)を合わせた『増えている』(11.3%)が1割を超えている。一方、「減っていると思う」(29.2%)と「とても減っていると思う」(3.7%)を合わせた『減っている』(32.9%)が3割台前半となっている。「変わらないと思う」(55.1%)が5割台半ばとなっている。(図1-3-1)

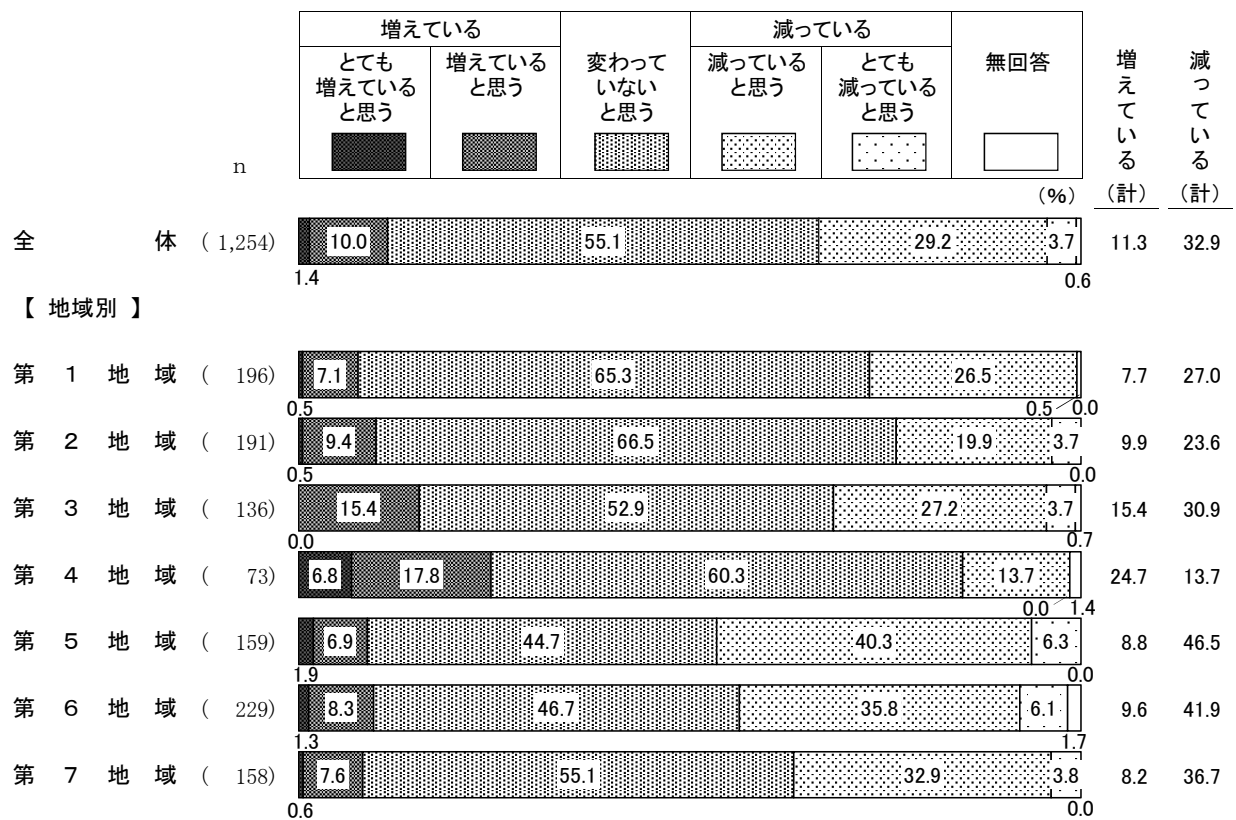
図1-3-2 身近にある「みどり」の量についての実感—過去調査との比較



※平成27年度区民意識意向調査の選択肢に「わからない」が含まれる。
 ※今回調査では「5年前と比較して」の実感を聞いている。

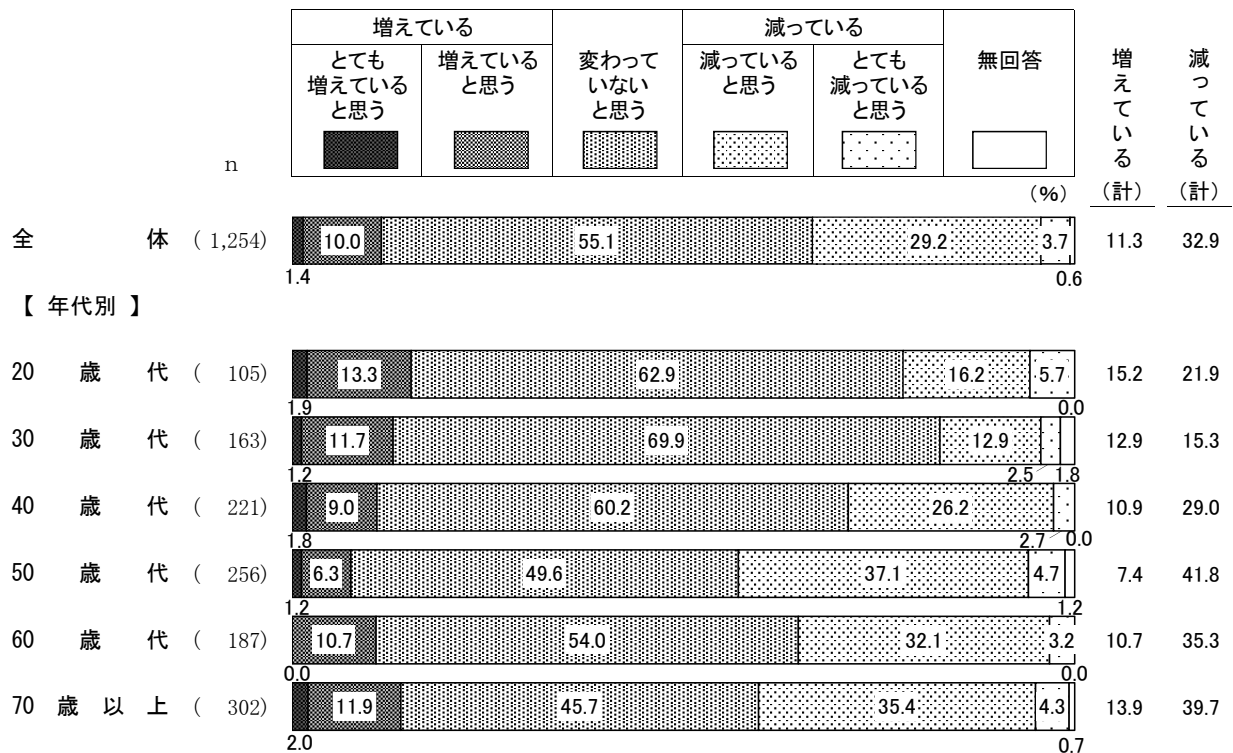
平成27年度区民意識意向調査と比較すると、『増えている』は横ばい、『減っている』は3.3ポイント減少している。(図1-3-2)

図1-3-3 身近にある「みどり」の量についての実感—地域別



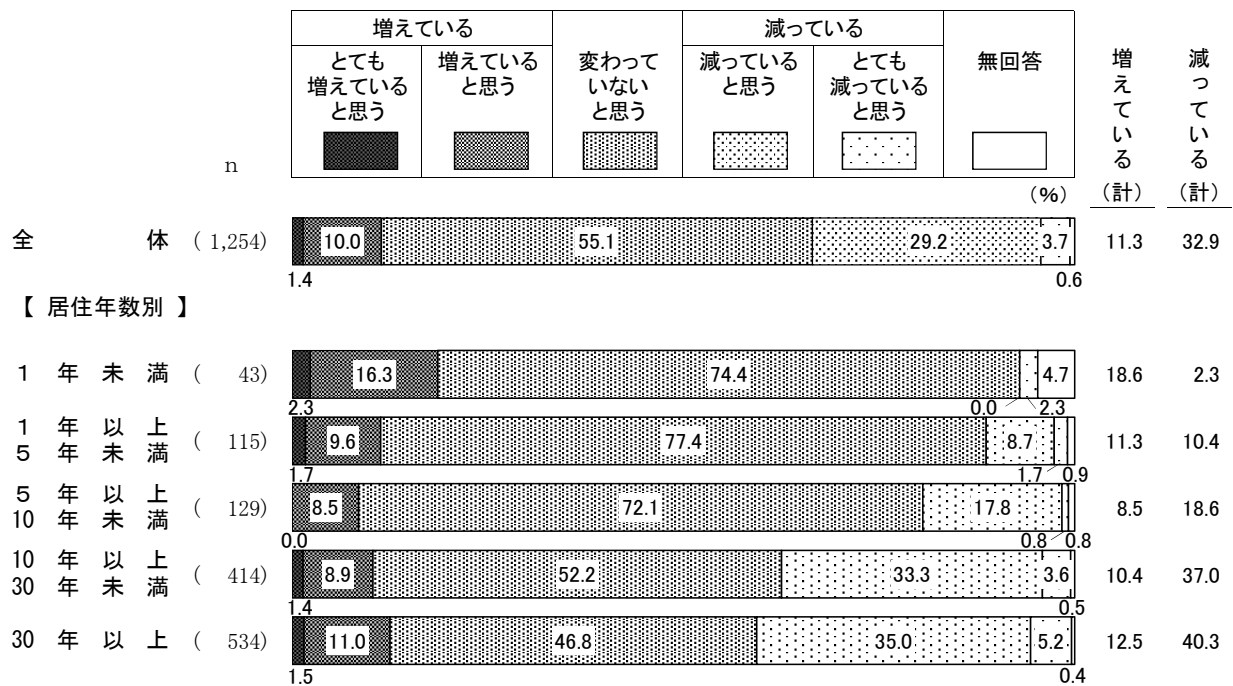
地域別にみると、『増えている』は第4地域で2割台半ばと多くなっている。『減っている』は第5地域で4割台半ばと多くなっている。「変わっていないと思う」は第2地域で6割台半ばと多くなっている。(図1-3-3)

図1-3-4 身近にある「みどり」の量についての実感—年代別



年代別にみると、『増えている』は20歳代で1割台半ばとなっている。『減っている』は50歳代、70歳以上で4割前後となっている。(図1-3-4)

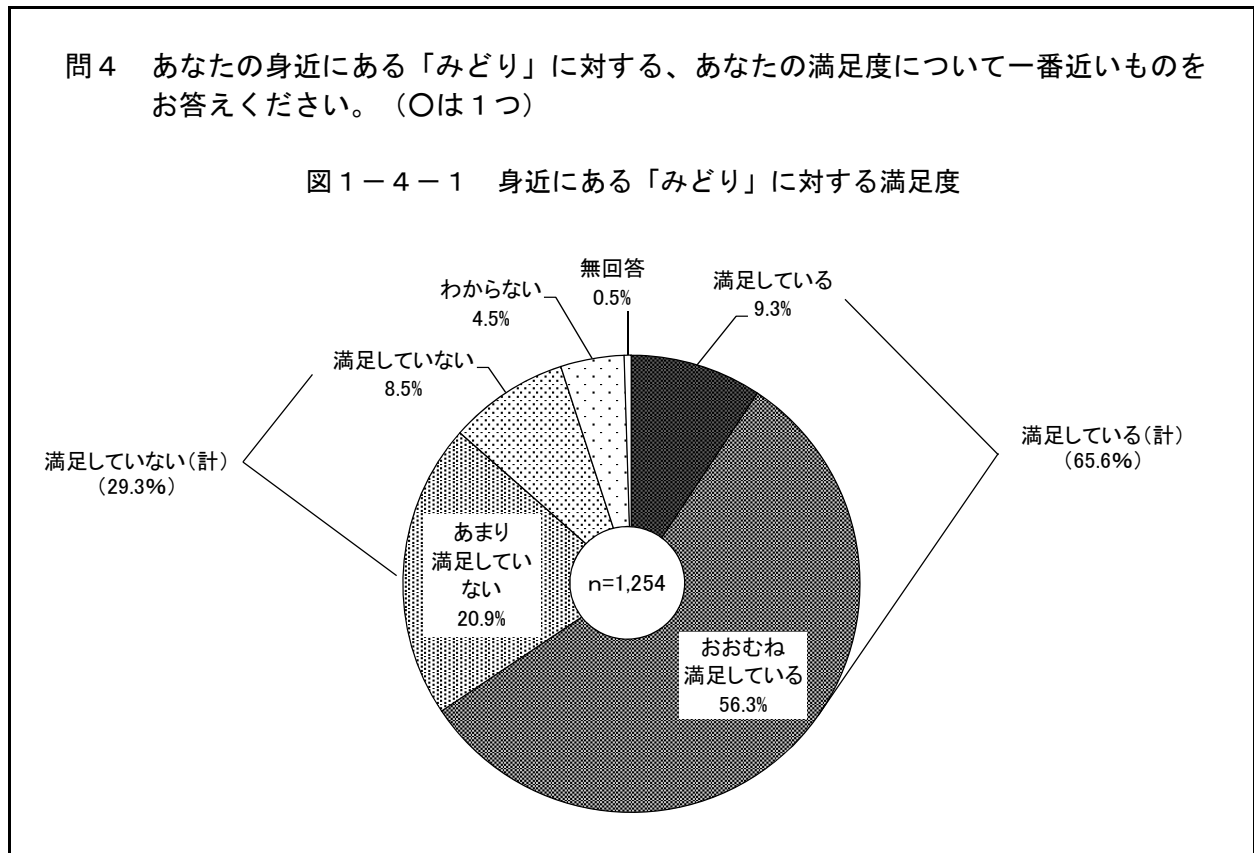
図1-3-5 身近にある「みどり」の量についての実感—居住年数別



居住年数別にみると、『増えている』は1年未満の居住者で2割近くとなっている。『減っている』は30年以上の居住者で約4割と多くなっている。(図1-3-5)

(4) 身近にある「みどり」に対する満足度

◇『満足している』が6割台半ば



身近にある「みどり」に対する満足度を聞いたところ、「満足している」(9.3%)が約1割、「おおむね満足している」(56.3%)が5割台半ば、この2つを合わせた『満足している』(65.6%)が6割台半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(20.9%)と「満足していない」(8.5%)を合わせた『満足していない』(29.3%)が約3割となっている。

(図1-4-1)

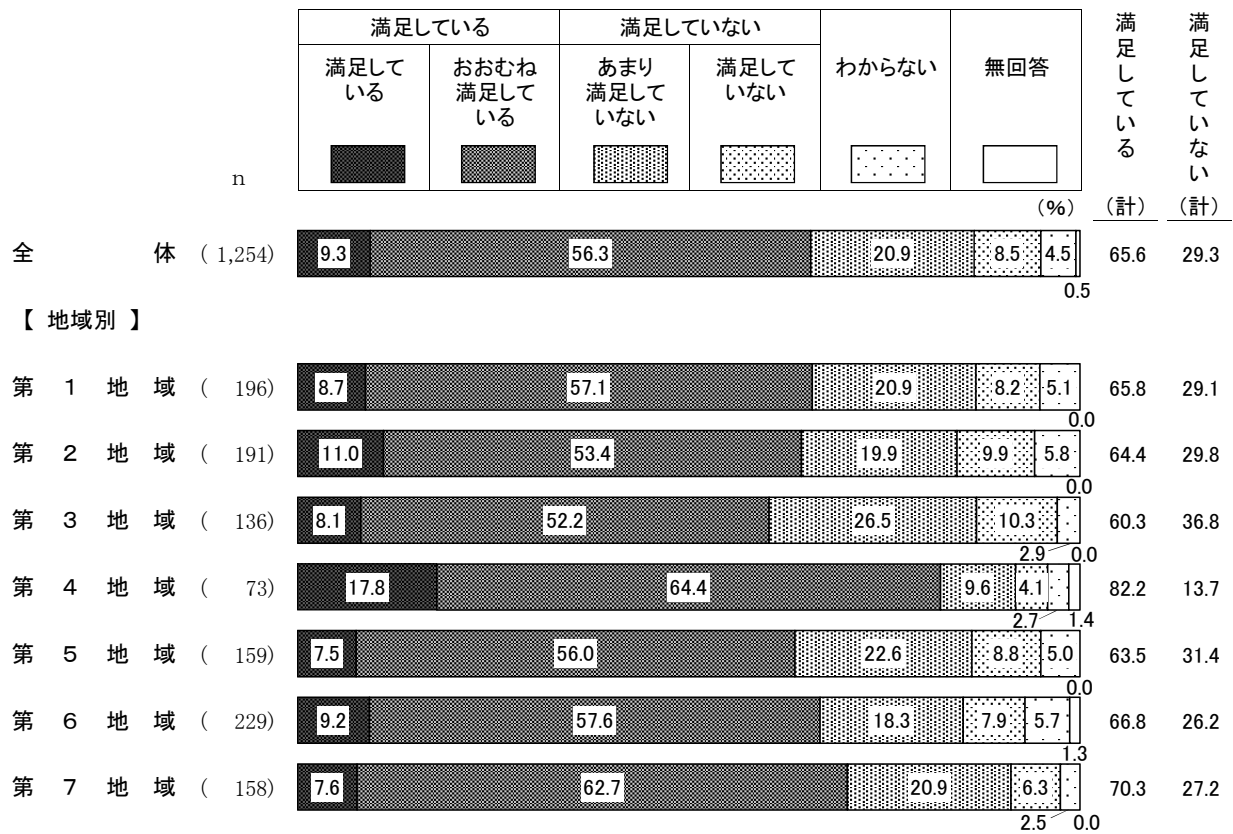
図1-4-2 身近にある「みどり」に対する満足度一過去調査との比較

n	満足している		満足していない		わからない	無回答	満足している(計)	満足していない(計)
	満足している	おおむね満足している	あまり満足していない	満足していない/(*不満足)				
今回調査 (1,254)	9.3	56.3	20.9	8.5	4.5	0.5	65.6	29.3
平成27年度区民意識意向調査 (1,432)	12.9	53.7	18.9	5.9	6.5	2.1	66.6	24.8

※平成27年度区民意識意向調査の選択肢は「不満である」。

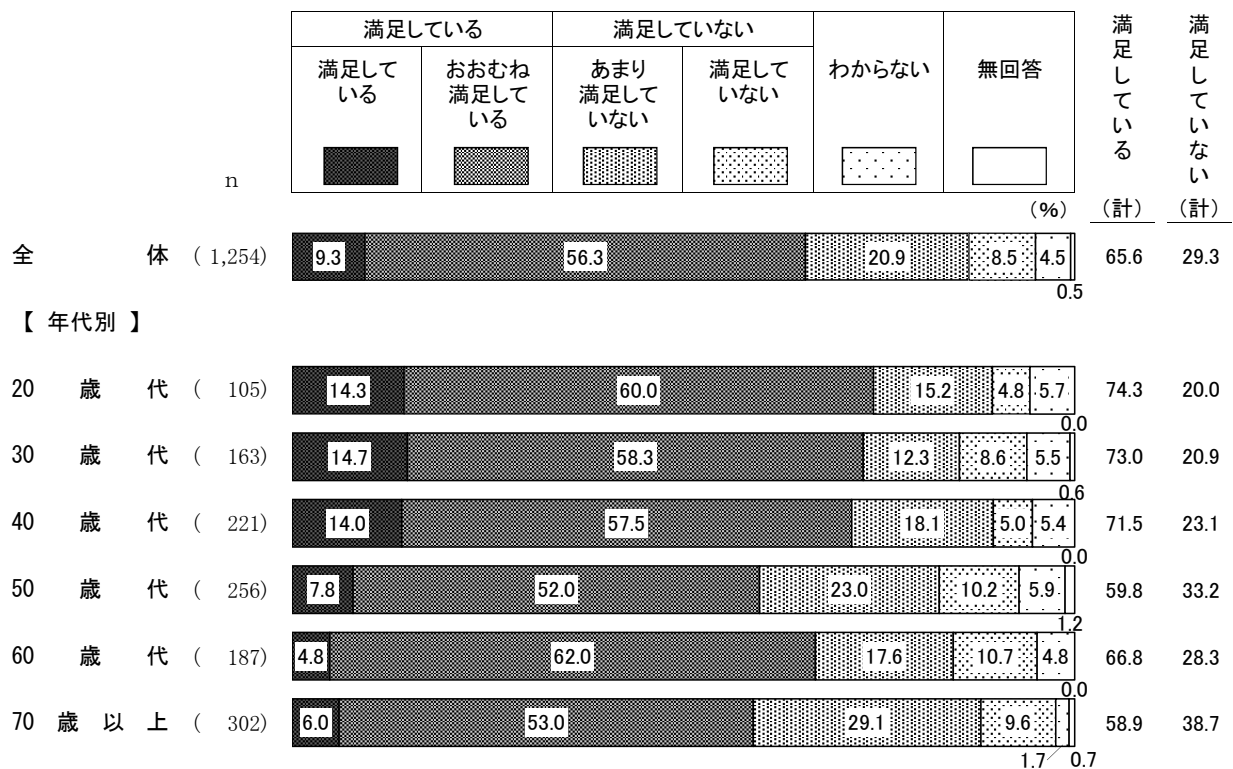
平成27年度区民意識意向調査と比較すると、『満足している』は横ばい、『満足していない』は4.5ポイント増加している。(図1-4-2)

図1-4-3 身近にある「みどり」に対する満足度—地域別



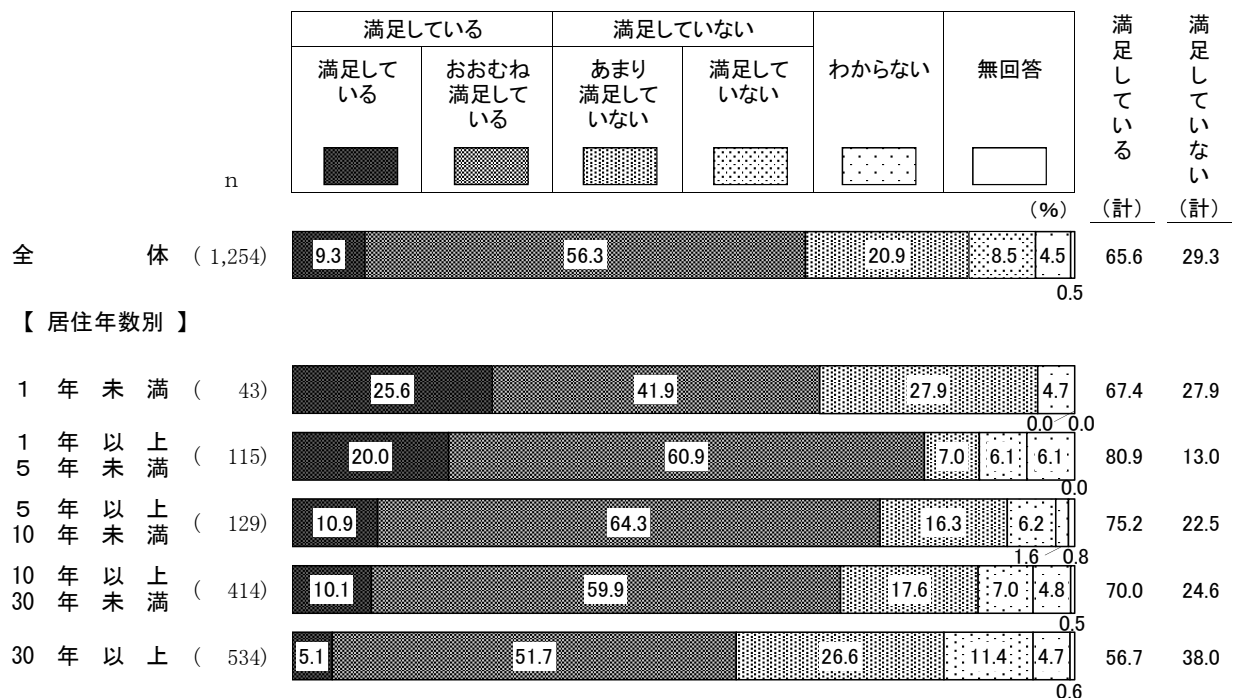
地域別にみると、『満足している』は第4地域で8割を超えて多くなっている。『満足していない』は第3地域で3割台半ばとなっている。(図1-4-3)

図1-4-4 身近にある「みどり」に対する満足度—年代別



年代別にみると、『満足している』は20歳代、30歳代、40歳代7割前半となっている。『満足していない』は70歳以上で4割近くと多くなっている。(図1-4-4)

図1-4-5 身近にある「みどり」に対する満足度—居住年数別



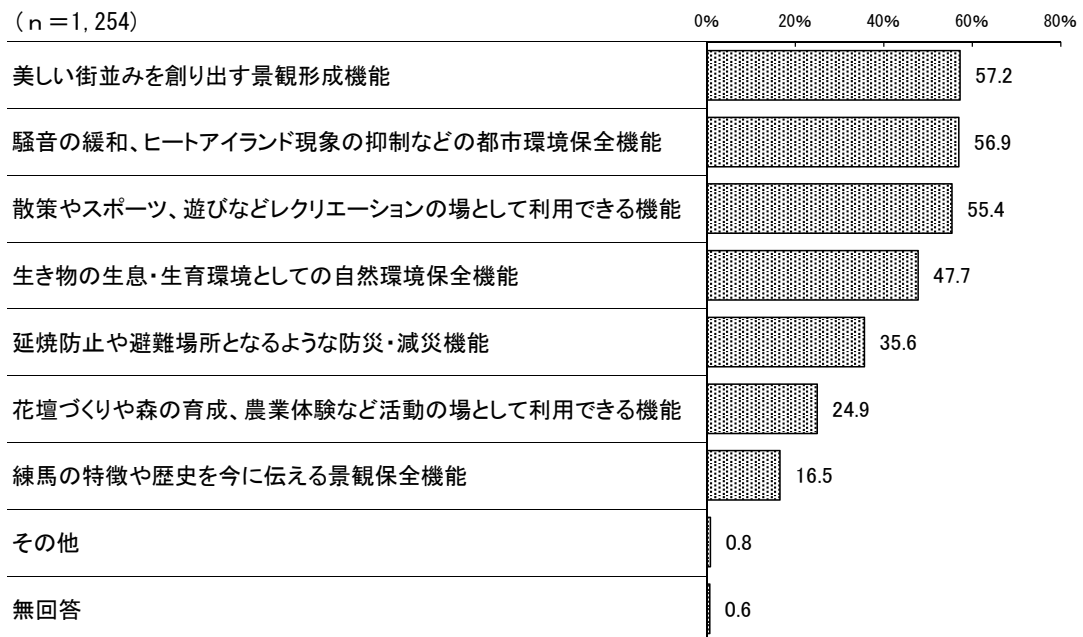
居住年数別にみると、『満足している』は1年以上5年未満の居住者で約8割と多くなっている。『満足していない』は30年以上の居住者で4割近くと多くなっている。(図1-4-5)

(5) 重要と思うみどりの機能

◇「美しい街並みを創り出す景観形成機能」が6割近く

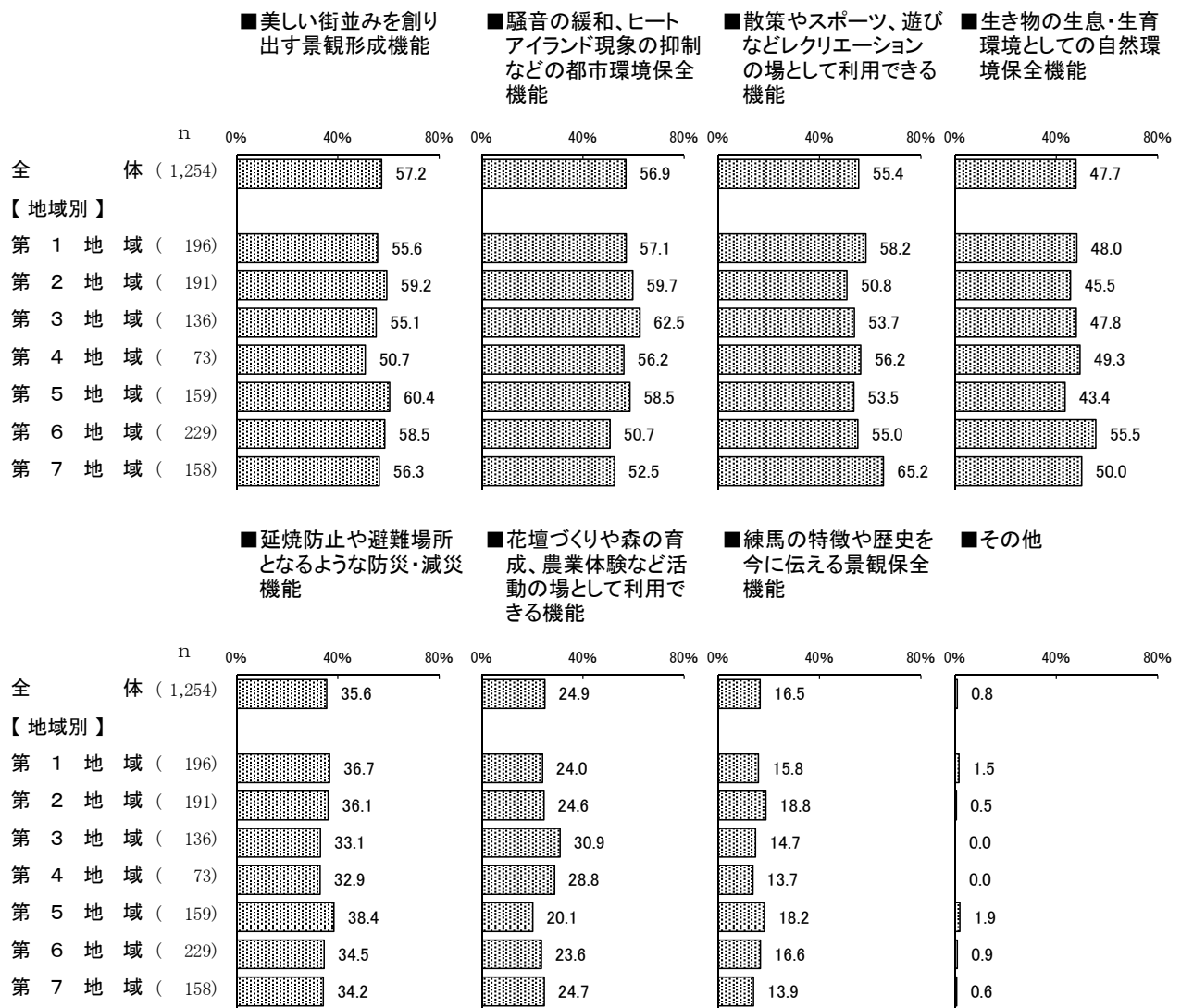
問5 都市のみどりには様々な機能があります。練馬区において、あなたが重要だと思うみどりの機能を次の中から3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。
(○は3つまで)

図1-5-1 重要と思うみどりの機能



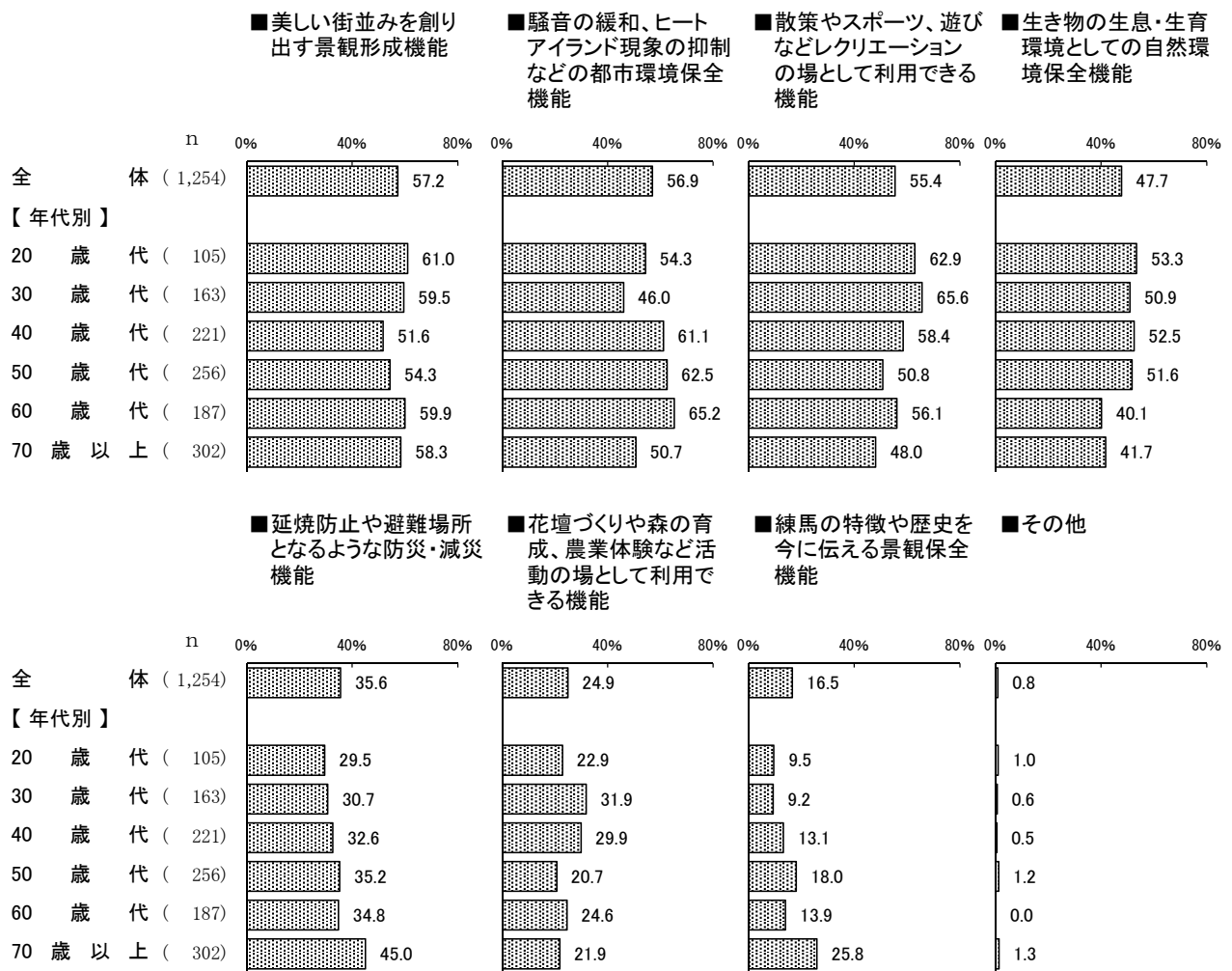
重要と思うみどりの機能を聞いたところ、「美しい街並みを創り出す景観形成機能」(57.2%)が6割近くと最も多く、次いで「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」(56.9%)、「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」(55.4%)、「生き物の生息・生育環境としての自然環境保全機能」(47.7%)、「延焼防止や避難場所となるような防災・減災機能」(35.6%)などの順となっている。(図1-5-1)

図1-5-2 重要と思うみどりの機能—地域別



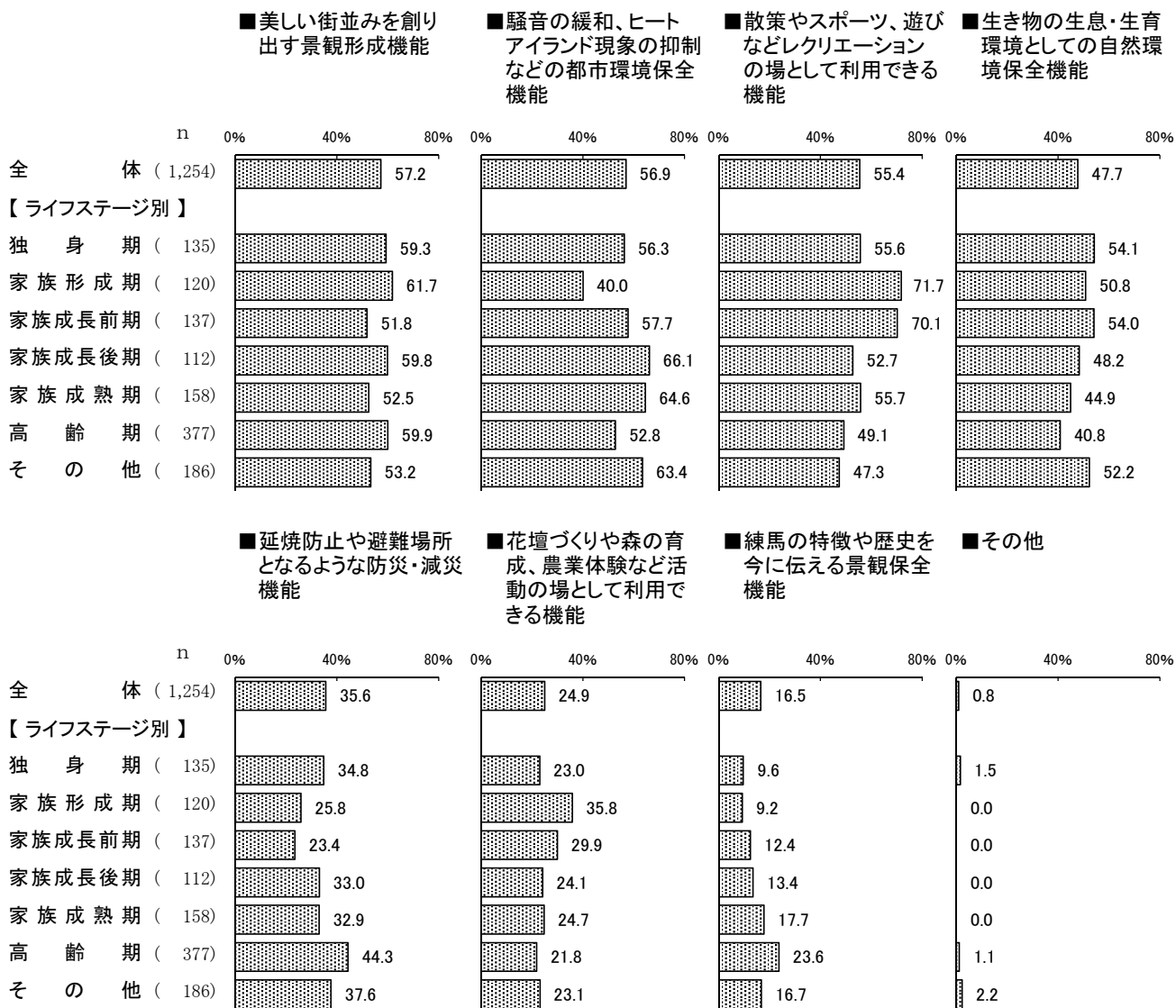
地域別にみると、「美しい街並みを創り出す景観形成機能」は第5地域で約6割となっている。「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」は第3地域で6割を超えて多くなっている。「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」は第7地域で6割台半ばと多くなっている。「生き物の生息・生育環境としての自然環境保全機能」は第6地域で5割台半ばと多くなっている。(図1-5-2)

図1-5-3 重要と思うみどりの機能—年代別



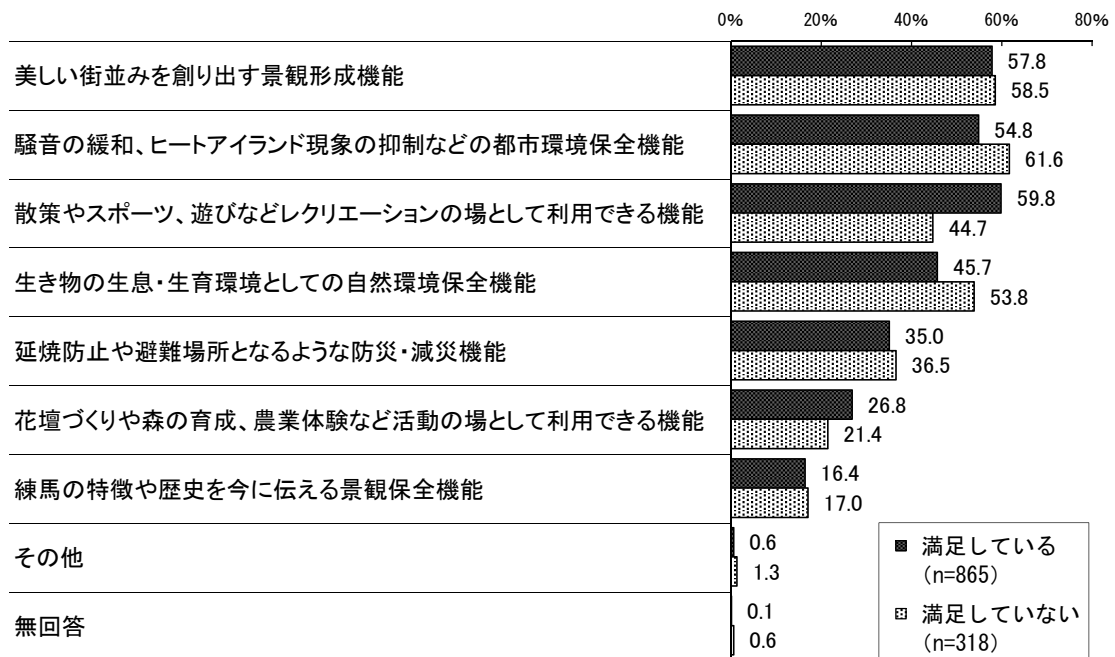
年代別にみると、「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」は60歳代で6割台半ばと多くなっている。「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」は30歳代で6割台半ばと多くなっている。「延焼防止や避難場所となるような防災・減災機能」は70歳以上で4割台半ばと多くなっている。(図1-5-3)

図1-5-4 重要と思うみどりの機能－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」は家族成長後期、家族成熟期で6割台半ばと多くなっている。「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」は家族形成期、家族成長前期で7割を超えて多くなっている。「延焼防止や避難場所となるような防災・減災機能」は高齢期で4割台半ばと多くなっている。「花壇づくりや森の育成、農業体験など活動の場として利用できる機能」は家族形成期で3割台半ばと多くなっている。(図1-5-4)

図1-5-5 重要と思うみどりの機能—区全体の「みどり」に対する満足度別



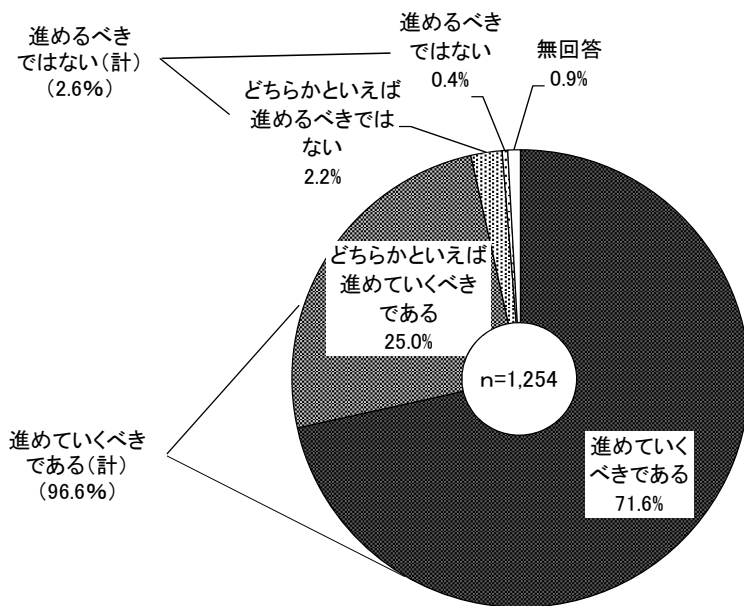
区全体の「みどり」に対する満足度別にみると、満足していると回答した人は「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」が15.1ポイント、「花壇づくりや森の育成、農業体験など活動の場として利用できる機能」が5.4ポイント高くなっている。満足していないと回答した人は「生き物の生息・生育環境としての自然環境保全機能」が8.1ポイント、「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」が6.8ポイント高くなっている。(図1-5-5)

(6) 樹木の管理方法についての考え

◇『進めていくべきである』が9割台半ば

問6 公園の樹木や街路樹は、樹木の健全な育成を図りつつ、歩行者や周囲の安全を確保するために、せんだいに加え、樹木の更新や間引きを進めています。このことについて、あなたの考えに一番近いものをお答えください。(〇は1つ)

図1-6-1 樹木の管理方法についての考え



樹木の管理方法についての考えを聞いたところ、「進めていくべきである」(71.6%)と「どちらかといえば進めていくべきである」(25.0%)を合わせた『進めていくべきである』(96.6%)が9割台半ばとなっている。(図1-6-1)

(7) 練馬らしいみどりの保全

◇民有の樹林地は「地域の樹林地を守るために、区が樹林地を買い取り、区民が利用できる緑地として整備すべきである」が5割近く

◇農地は「区が農地を買い取り、区民が利用できる農園や公園として整備すべきである」が約4割

問7 練馬区の豊かなみどりは、屋敷林などの民有の樹林地や農地に支えられてきましたが、こうしたみどりは宅地化の進展や相続、農業の後継者不足などにより、年々減少しています。

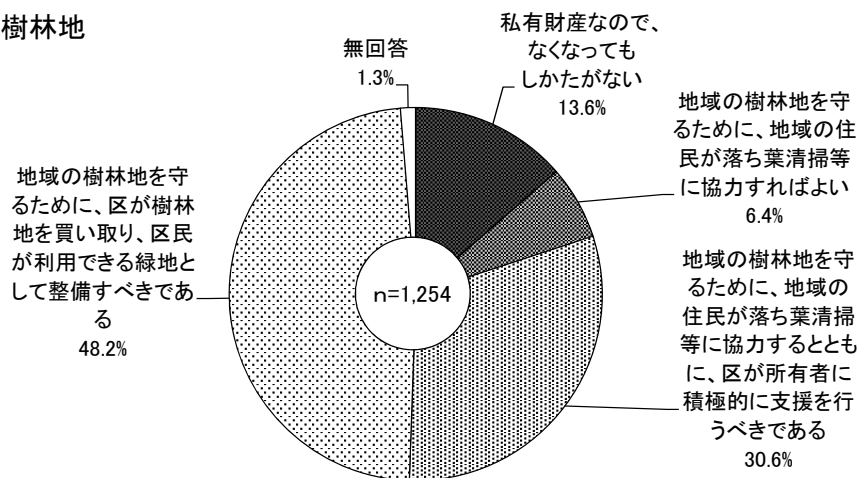
(1) 民有の樹林地の保全について、あなたの考えに一番近いものをお答えください。(○は1つ)

(○は1つ)

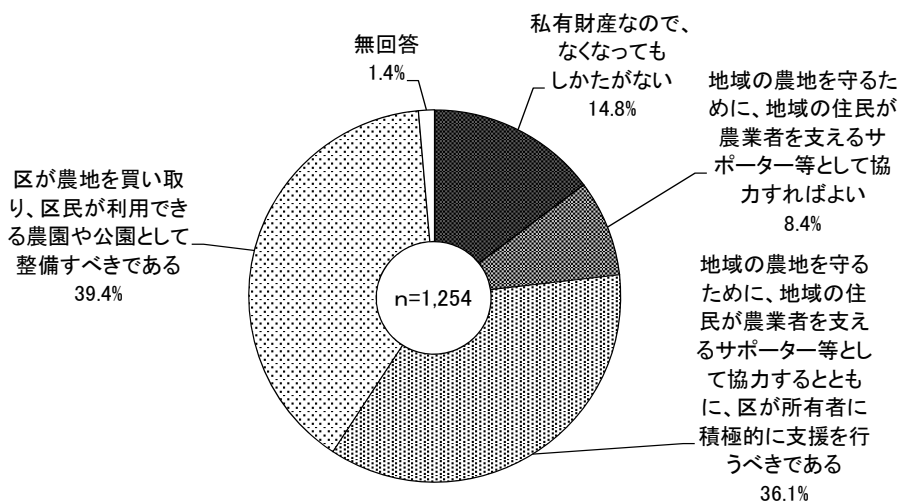
(2) 農地の保全について、あなたの考えに一番近いものをお答えください。(○は1つ)

図1-7-1 練馬らしいみどりの保全

(1) 民有の樹林地



(2) 農地



練馬らしいみどりの保全を聞いたところ、(1) 民有の樹林地は「地域の樹林地を守るために、区が樹林地を買い取り、区民が利用できる緑地として整備すべきである」(48.2%)が5割近くと最も多く、次いで「地域の樹林地を守るために、地域の住民が落ち葉清掃等に協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」(30.6%)となっている。

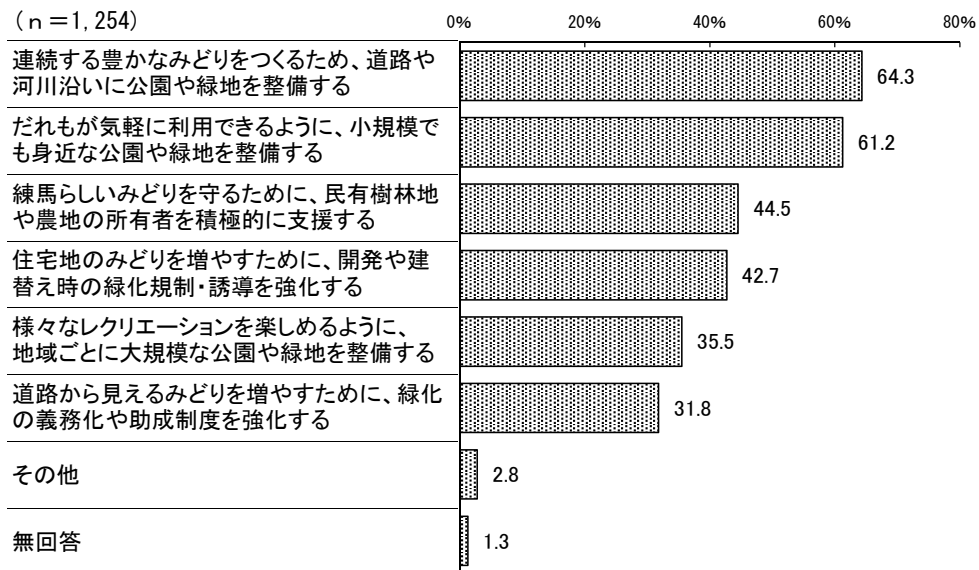
(2) 農地は「区が農地を買い取り、区民が利用できる農園や公園として整備すべきである」(39.4%)が約4割と最も多く、次いで「地域の農地を守るために、地域の住民が農業者を支えるサポーター等として協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」(36.1%)となっている。(図1-7-1)

(8) みどりの保全と創出に必要な取組

◇「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」が6割台半ば

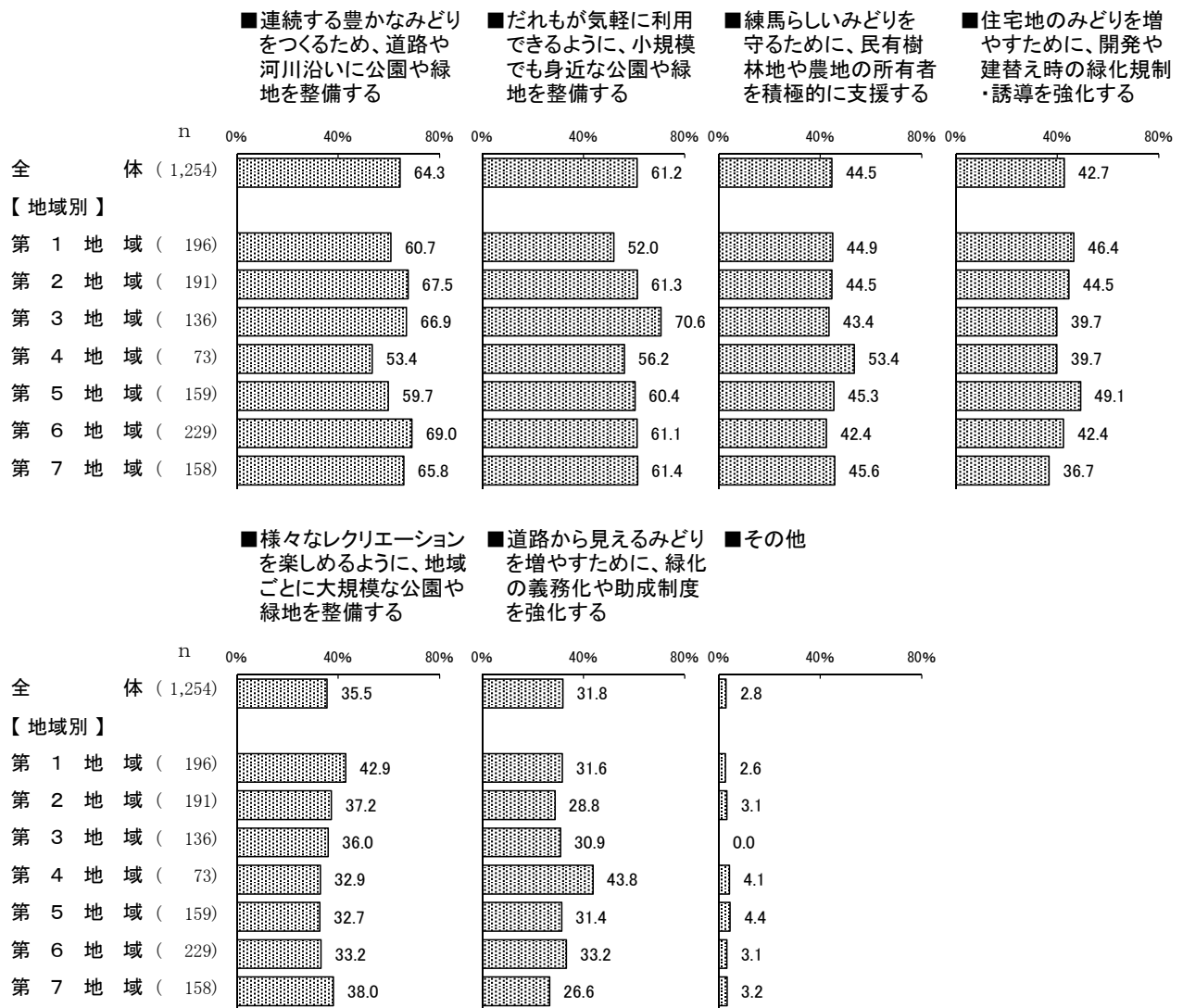
問8 今後、みどりを守り増やすために、どのような取組が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。(○は3つまで)

図1-8-1 みどりの保全と創出に必要な取組



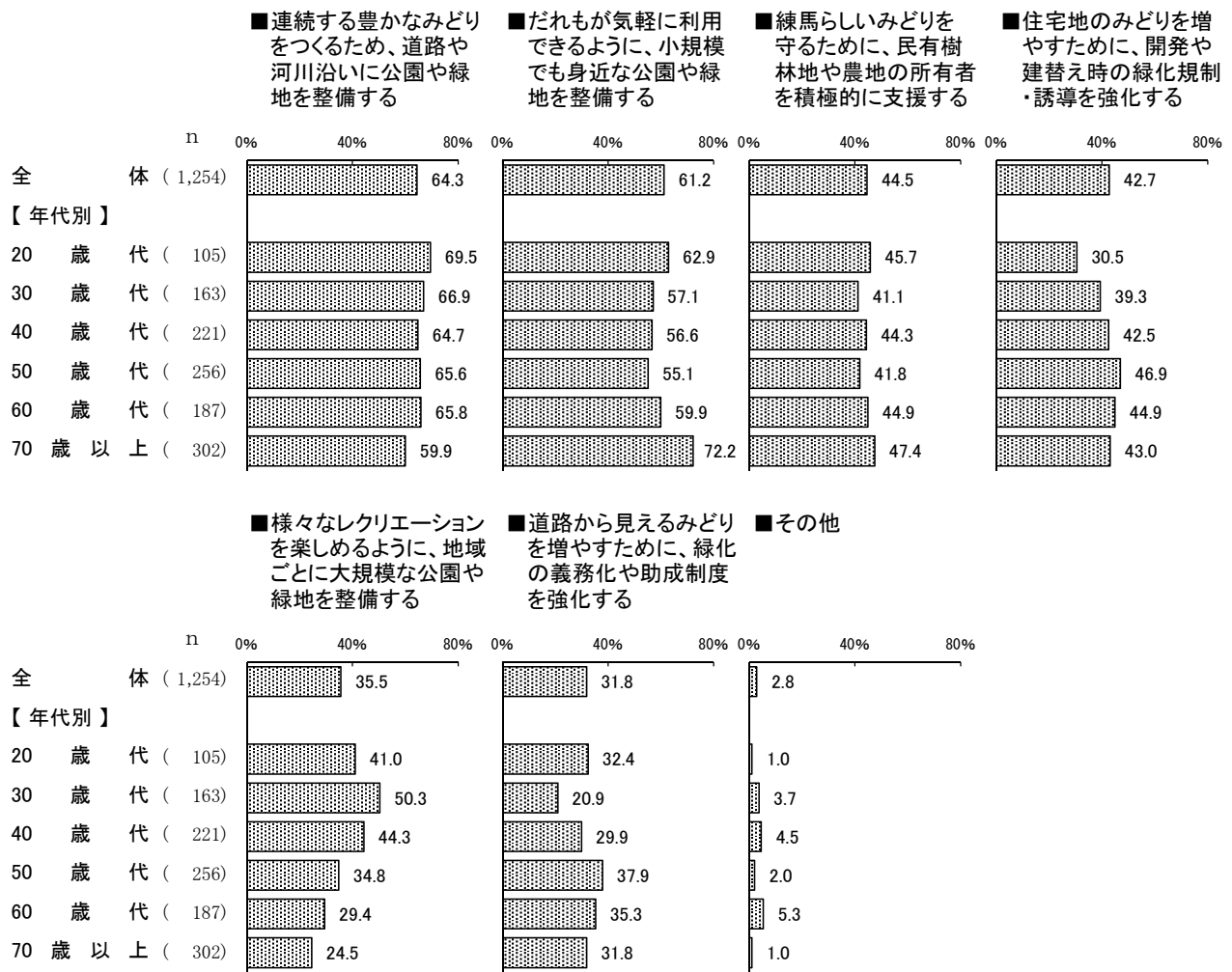
みどりの保全と創出に必要な取組を聞いたところ、「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」(64.3%)が6割台半ばと最も多く、次いで「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する」(61.2%)、「練馬らしいみどりを守るために、民有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する」(44.5%)、「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」(42.7%)などの順となっている。(図1-8-1)

図1-8-2 みどりの保全と創出に必要な取組—地域別



地域別にみると、「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する」は第3地域で約7割と多くなっている。「練馬らしいみどりを守るために、私有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する」は第4地域で5割を超えて多くなっている。「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」は第5地域で約5割と多くなっている。(図1-8-2)

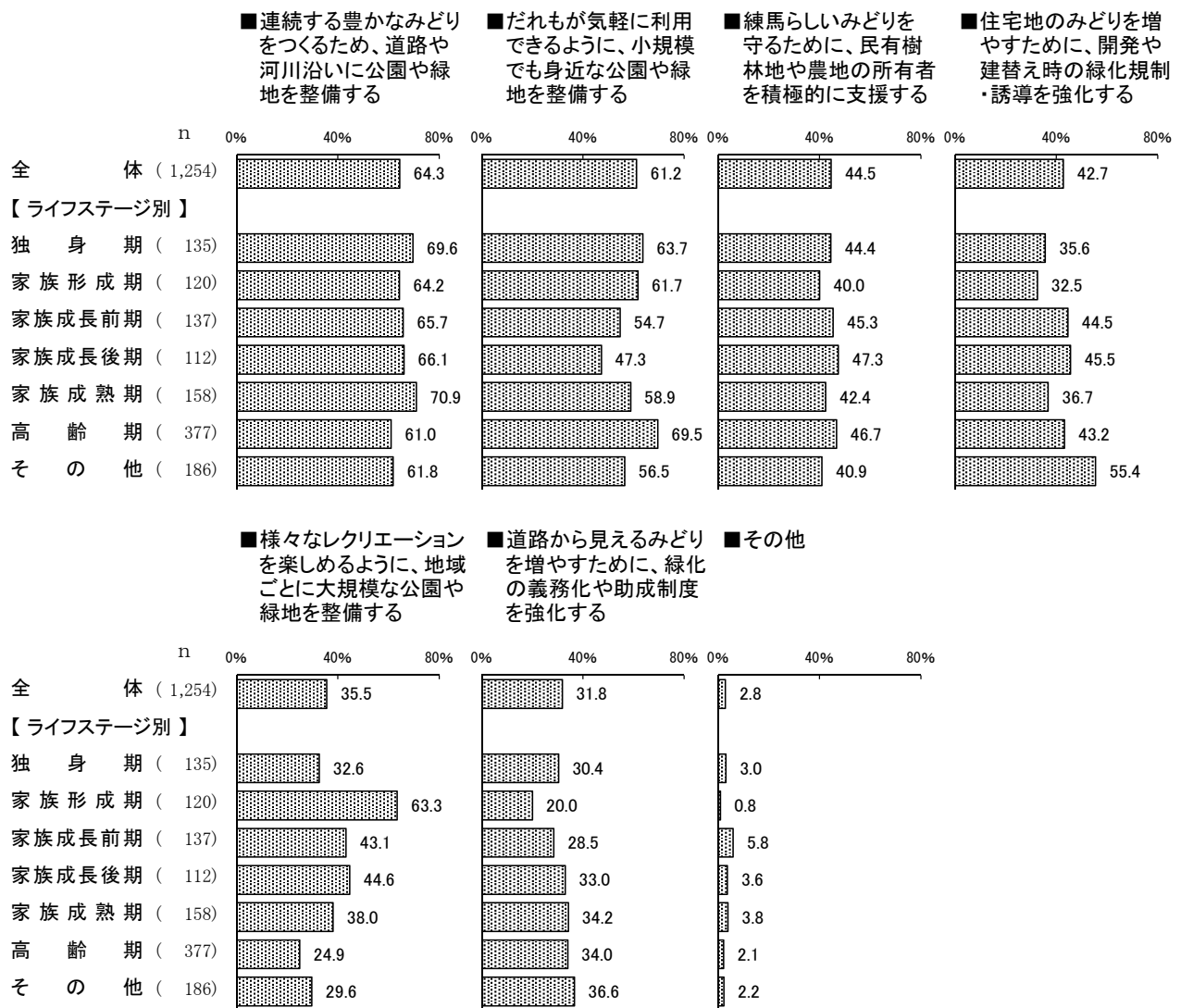
図1-8-3 みどりの保全と創出に必要な取組一年代別



年代別にみると、「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する」は70歳以上で7割を超えて多くなっている。「様々なレクリエーションを楽しめるように、地域ごとに大規模な公園や緑地を整備する」は30歳代で約5割と多くなっている。

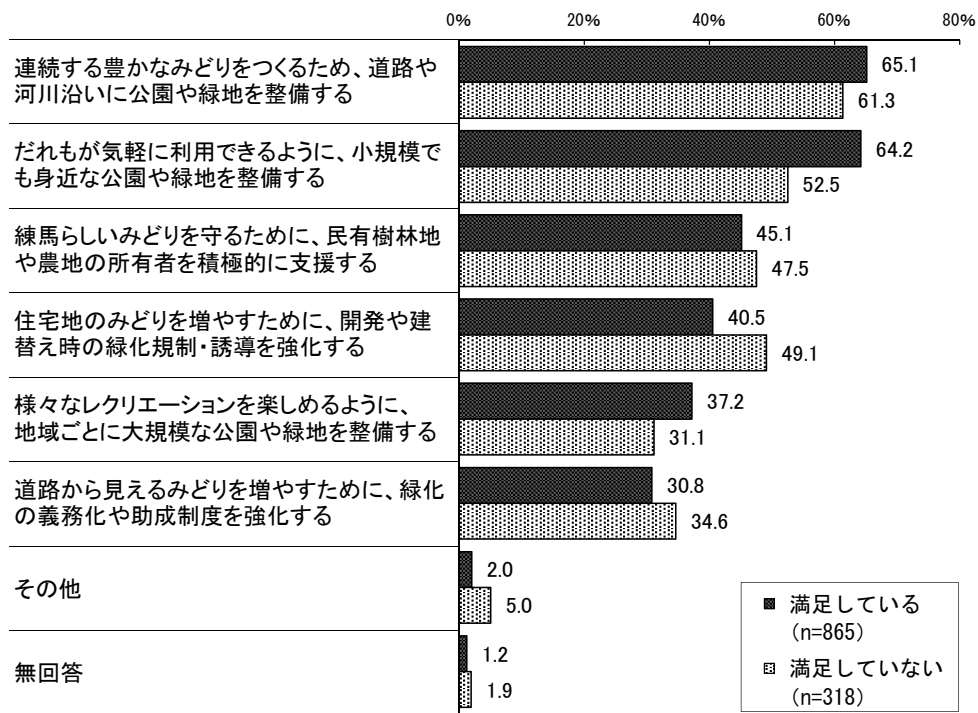
(図1-8-3)

図1-8-4 みどりの保全と創出に必要な取組—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」は家族成熟期で約7割と多くなっている。「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する」は高齢期で約7割と多くなっている。「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」その他で5割台半ばと多くなっている。「様々なレクリエーションを楽しめるように、地域ごとに大規模な公園や緑地を整備する」は家族形成期で6割を超えて多くなっている。(図1-8-4)

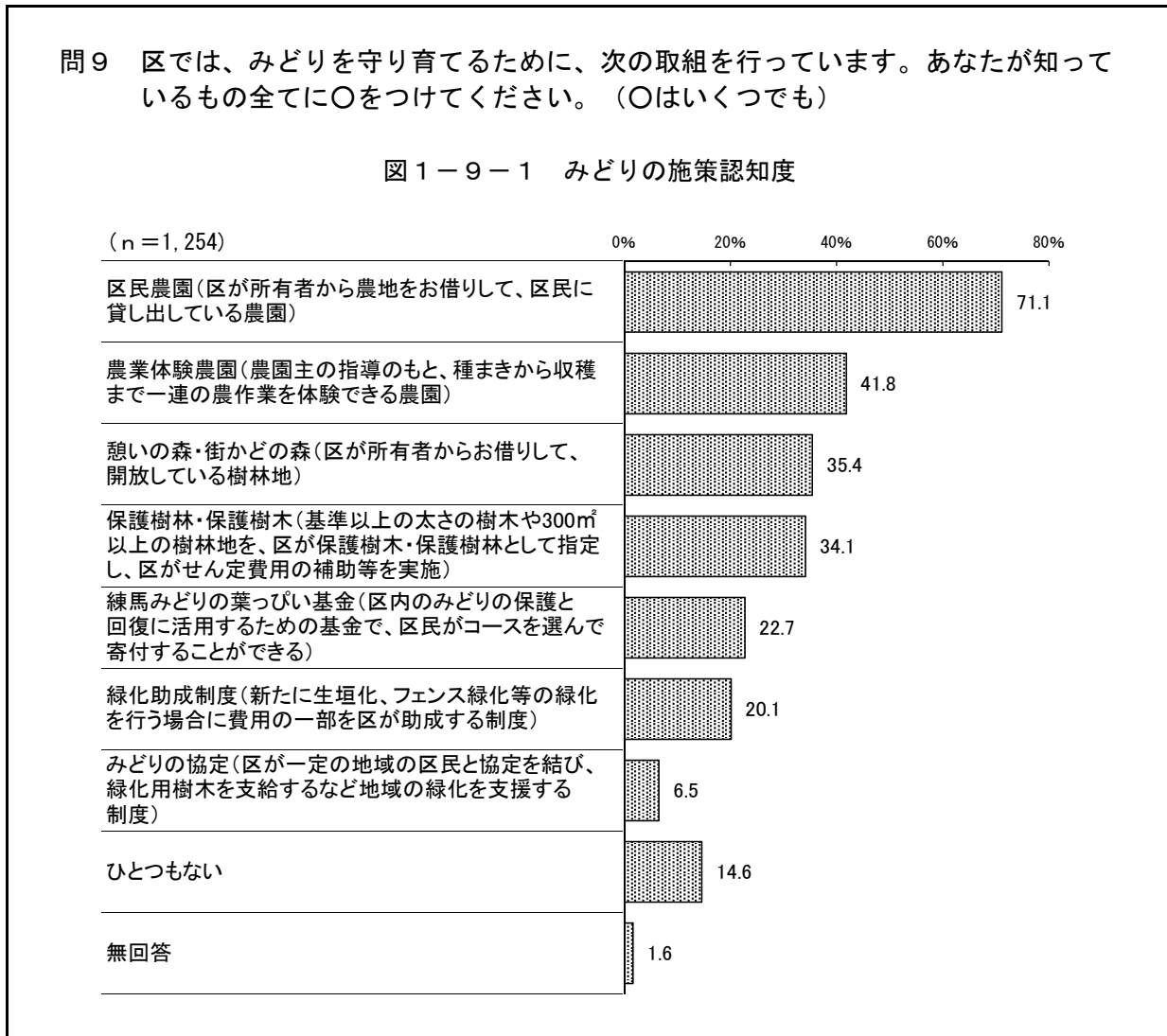
図1-8-5 みどりの保全と創出に必要な取組—区全体の「みどり」に対する満足度別



区全体の「みどり」に対する満足度別にみると、満足していると回答した人は「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する」が11.7ポイント、「様々なレクリエーションを楽しめるように、地域ごとに大規模な公園や緑地を整備する」が6.1ポイント高くなっている。満足していないと回答した人は「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」が8.6ポイント、「道路から見えるみどりを増やすために、緑化の義務化や助成制度を強化する」が3.8ポイント高くなっている。（図1-8-5）

(9) みどりの施策認知度

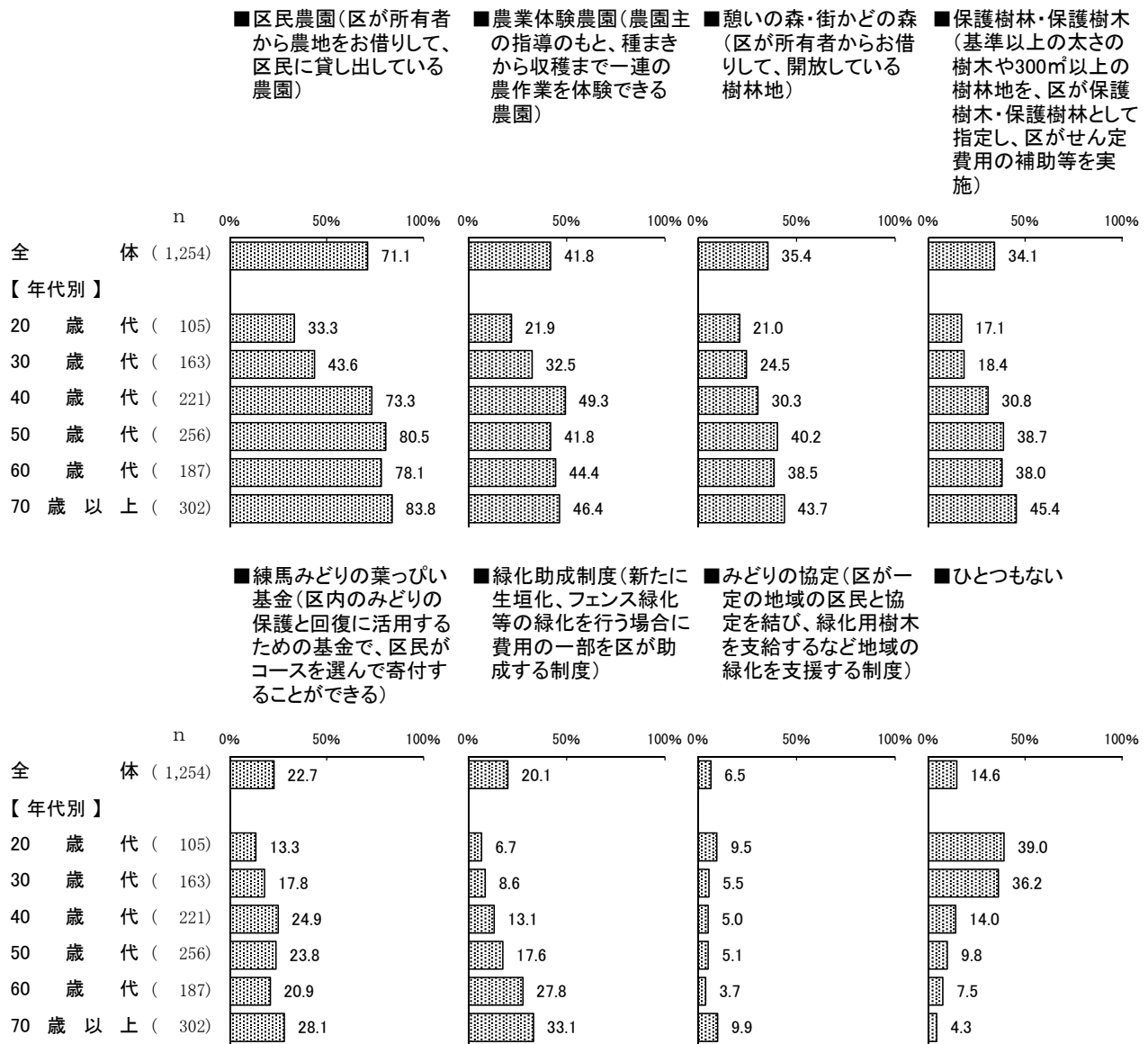
◇「区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園）」が7割を超える



みどりの施策認知度を聞いたところ、「区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園）」（71.1%）が7割を超えて最も多く、次いで「農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園）」（41.8%）、「憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地）」（35.4%）、「保護樹林・保護樹木（基準以上の太さの樹木や300㎡以上の樹林地を、区が保護樹木・保護樹林として指定し、区がせん定費用の補助等を実施）」（34.1%）などの順となっている。

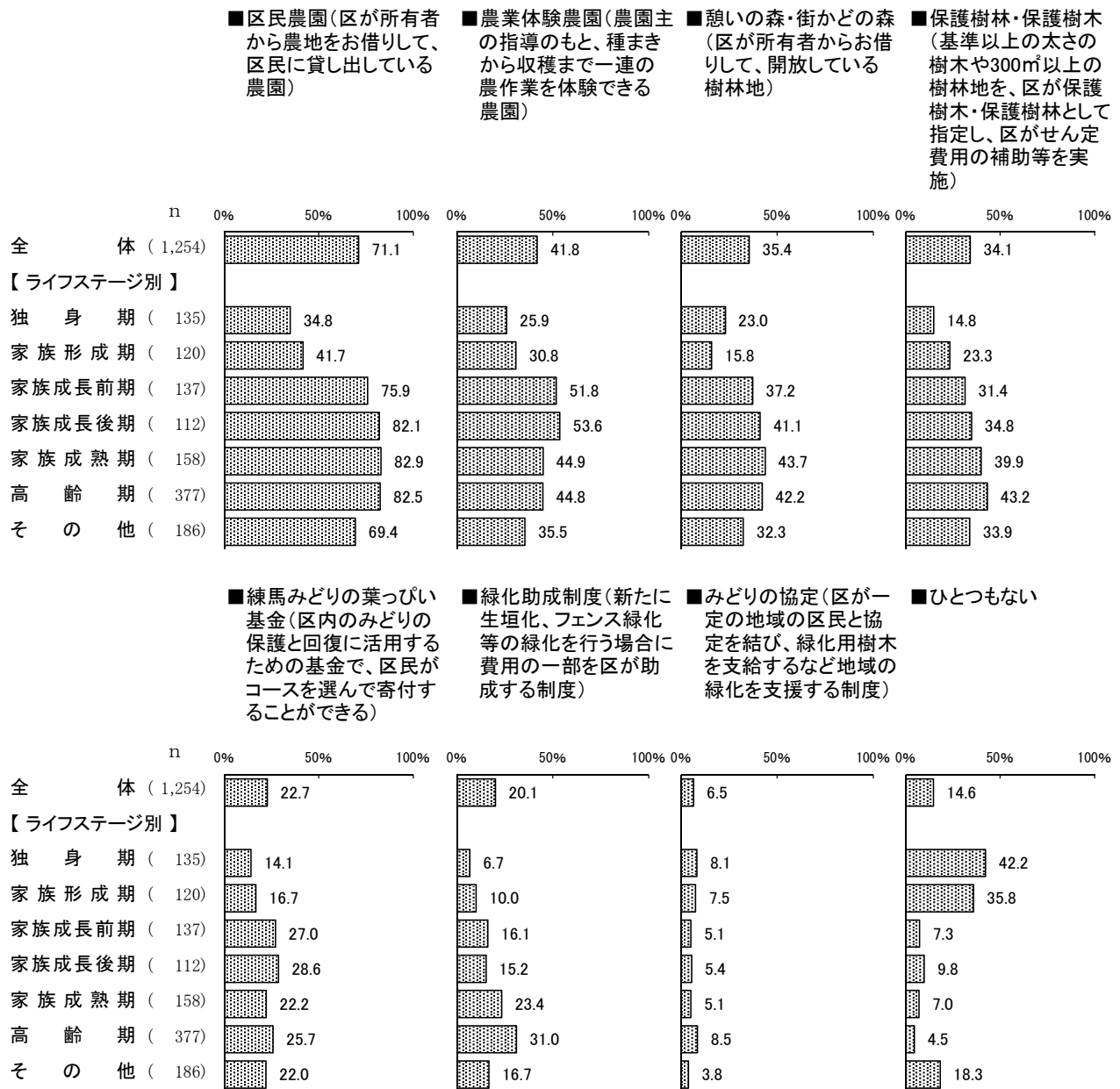
(図1-9-1)

図1-9-2 みどりの施策認知度—年代別



年代別にみると、「区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園）」は50歳代、70歳以上で8割を超えて多くなっている。「農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園）」は40歳代で約5割と多くなっている。「憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地）」は50歳代、70歳以上で4割台前半と多くなっている。「保護樹林・保護樹木（基準以上の太さの樹木や300㎡以上の樹林地を、区が保護樹木・保護樹林として指定し、区がせん定費用の補助等を実施）」は70歳以上で4割台半ばと多くなっている。一方、「ひとつもない」は20歳代で約4割、30歳代で3割代半ばと多くなっている。（図1-9-2）

図1-9-3 みどりの施策認知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園）」は家族成長後期、家族成熟期、高齢期で8割を超えて多くなっている。「農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園）」は家族成長前期、家族成長後期で5割を超えて多くなっている。「保護樹林・保護樹木（基準以上の太さの樹木や300㎡以上の樹林地を、区が保護樹木・保護樹林として指定し、区がせん定費用の補助等を実施）」は高齢期で4割を超えて多くなっている。「緑化助成制度（新たに生垣化、フェンス緑化等の緑化を行う場合に費用の一部を区が助成する制度）」は高齢期で3割を超えて多くなっている。一方、「ひとつもない」は独身期で4割を超え、家族形成期で3割台半ばと多くなっている。（図1-9-3）

(10) 緑化活動について

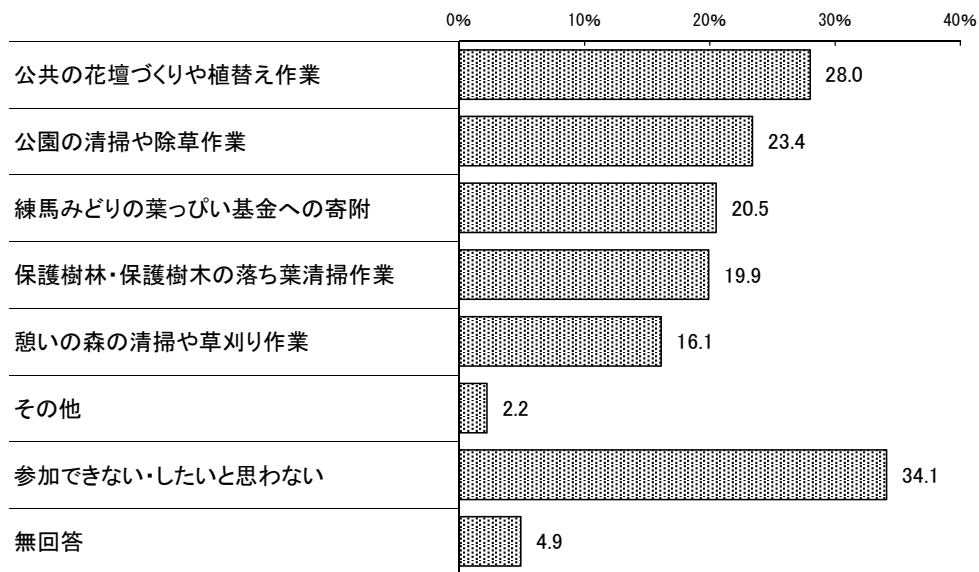
①今後参加したい緑化活動

◇「公共の花壇づくりや植替え作業」が3割近く

問10 区では、区民のみなさんと協力してみどりを守り育てる活動を行っています。

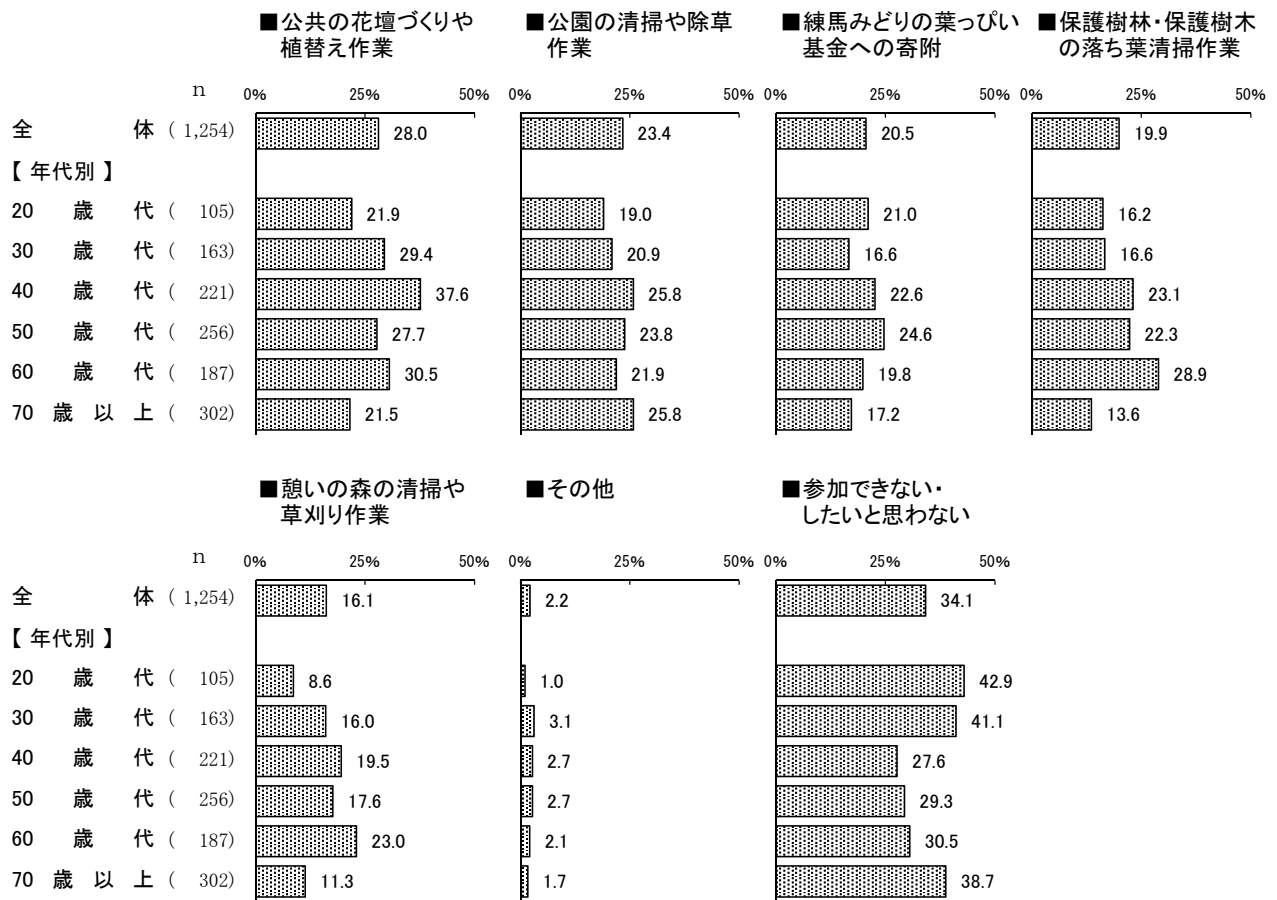
(1) 1～7の活動のうち、あなたが今後参加したいもの全てに○をつけてください。
(○はいくつでも)

図1-10-1 今後参加したい緑化活動



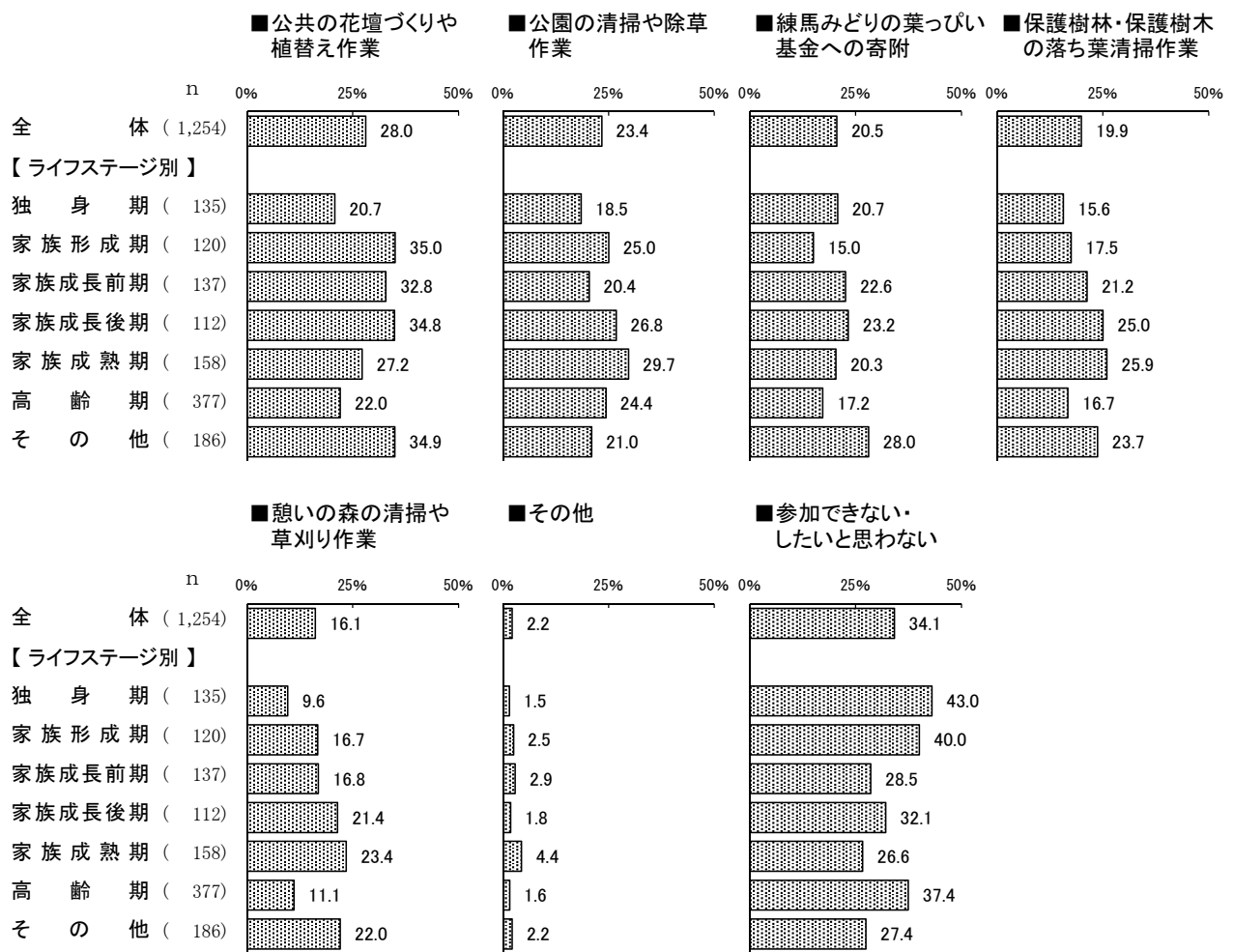
今後参加したい緑化活動を聞いたところ、「公共の花壇づくりや植替え作業」(28.0%)が3割近くと最も多く、次いで「公園の清掃や除草作業」(23.4%)、「練馬みどりの葉っぱい基金への寄附」(20.5%)、「保護樹林・保護樹木の落ち葉清掃作業」(19.9%)などの順となっている。(図1-10-1)

図1-10-2 今後参加したい緑化活動一年代別



年代別にみると、「公共の花壇づくりや植替え作業」は40歳代で4割近くと多くなっている。「練馬みどりの葉っぱい基金への寄附」は50歳代で2割台半ばとなっている。「保護樹林・保護樹木の落ち葉清掃作業」は60歳代で3割近くと多くなっている。「憩いの森の清掃や草刈り作業」は60歳代で2割を超えている。一方、「参加できない・したいと思わない」は20歳代、30歳代で4割を超えている。(図1-10-2)

図1-10-3 今後参加したい緑化活動－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「公共の花壇づくりや植替え作業」は家族形成期、家族成長前期、その他で3割台半ばとなっている。「公園の清掃や除草作業」は家族成熟期で約3割となっている。「練馬みどりの葉っぱい基金への寄附」はその他で3割近くとなっている。「保護樹林・保護樹木の落ち葉清掃作業」は家族成長後期、家族成熟期で2割台半ばとなっている。一方、「参加できない・したいと思わない」は独身期で4割を超えている。(図1-10-3)

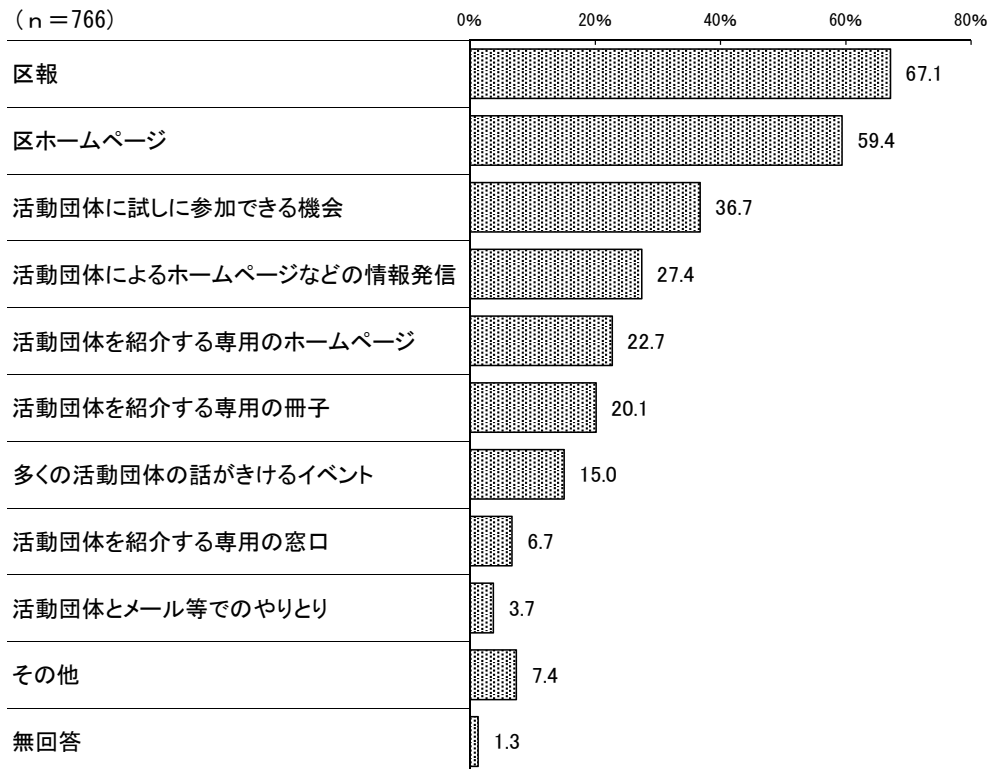
②緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向

◇「区報」が7割近く

【問10（1）で1～6に○をつけた方へ】

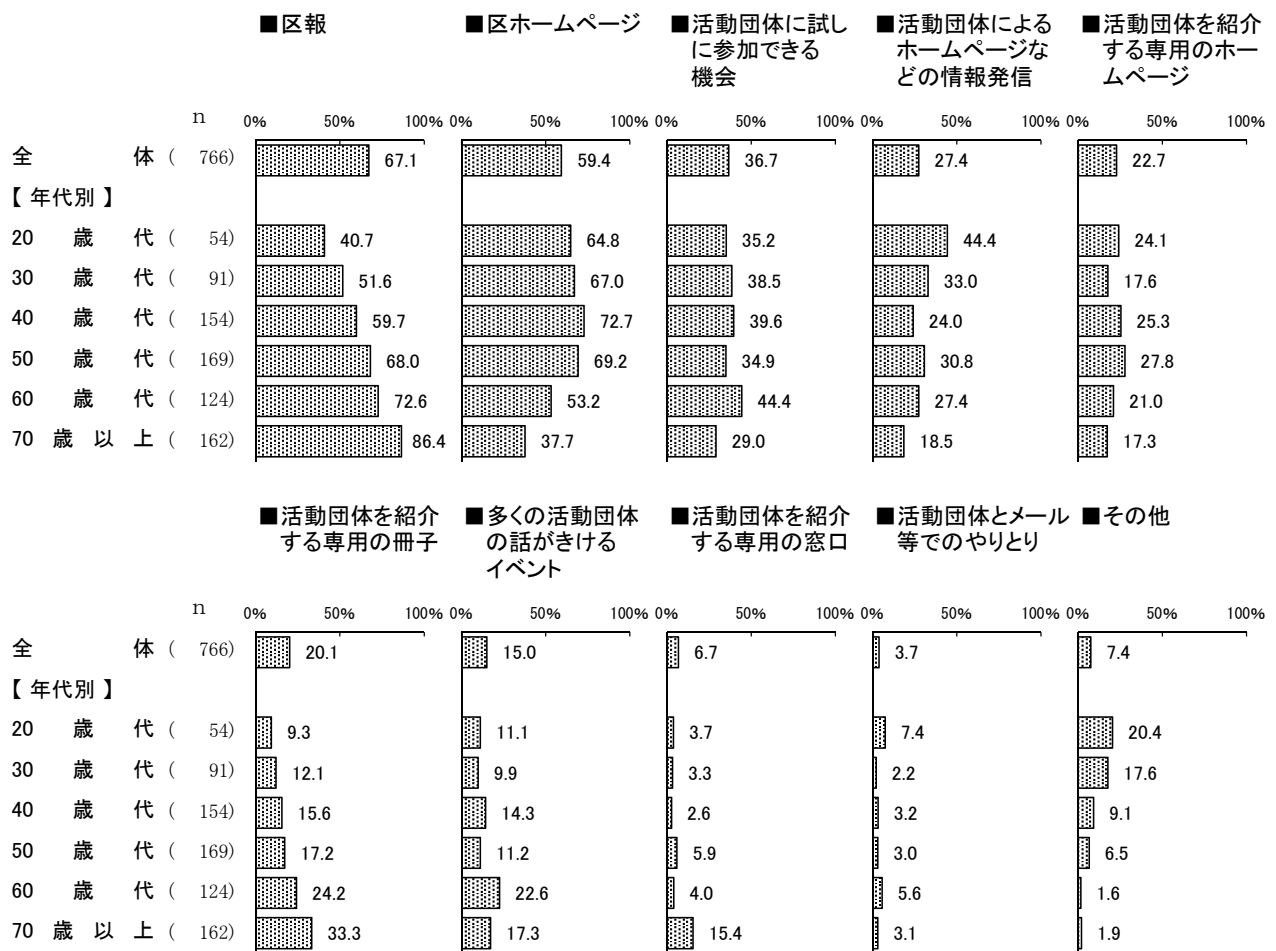
（2）こうした活動に参加、利用するにあたって、情報はどのように入手できるとよいですか。次の中から3つまで選んで下の欄に番号をご記入ください。
（○は3つまで）

図1-10-4 緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向



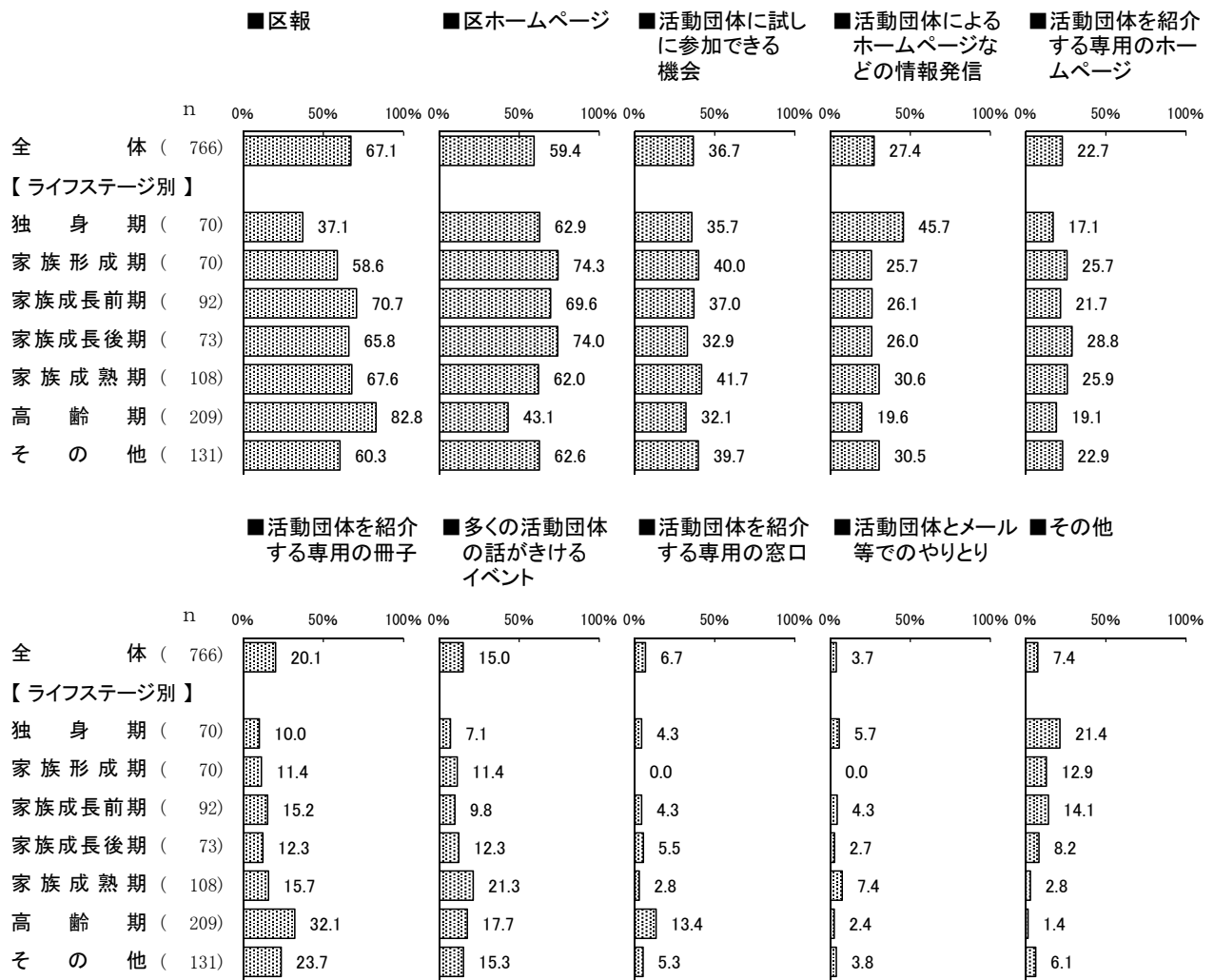
今後参加したい緑化活動がある方に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向を聞いたところ、「区報」（67.1%）が7割近くと最も多く、次いで「区ホームページ」（59.4%）、「活動団体に試しに参加できる機会」（36.7%）、「活動団体によるホームページなどの情報発信」（27.4%）、「活動団体を紹介する専用のホームページ」（22.7%）などの順となっている。（図1-10-4）

図1-10-5 緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向一年代別



年代別にみると、「区報」は70歳以上で8割台半ばと多くなっている。「区ホームページ」は30歳代、40歳代、50歳代で7割前後と多くなっている。「活動団体によるホームページなどの情報発信」は20歳代で4割台半ばと多くなっている。(図1-10-5)

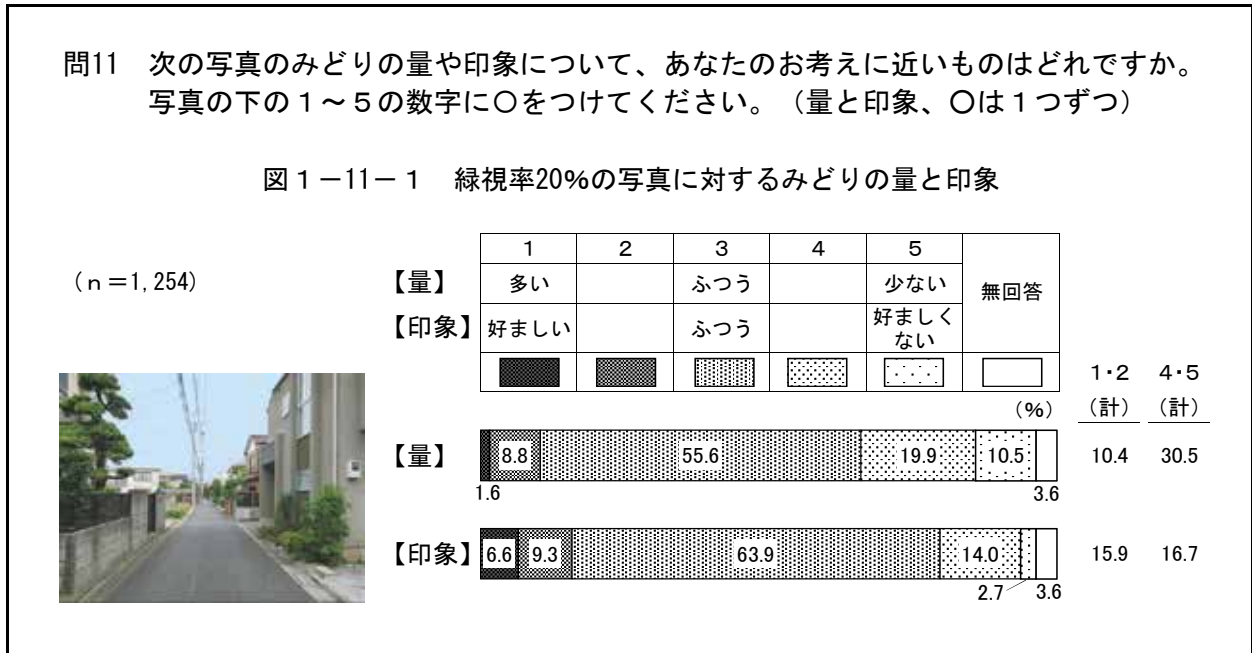
図1-10-6 緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「区報」は高齢期で8割を超えて多くなっている。「区ホームページ」は家族形成期、家族成長後期で7割台半ばと多くなっている。「活動団体によるホームページなどの情報発信」は独身期で4割台半ばと多くなっている。(図1-10-6)

(11) 緑視率20%の写真に対するみどりの量と印象

◇量は「ふつう」が5割台半ば、印象は「ふつう」が6割台前半



緑視率20%の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、量が「1 多い」(1.6%)、「2」(8.8%)を合わせた『多い』(10.4%)が約1割、「ふつう」(55.6%)が5割台半ば、「4」(19.9%)と「5 少ない」(10.5%)を合わせた『少ない』(30.5%)が約3割となっている。

印象は「1 好ましい」(6.6%)と「2」(9.3%)を合わせた『好ましい』(15.9%)が1割台半ば、「ふつう」(63.9%)が6割台前半、「4」(14.0%)と「5 好ましくない」(2.7%)を合わせた『好ましくない』(16.7%)は1割台半ばとなっている。(図1-11-1)

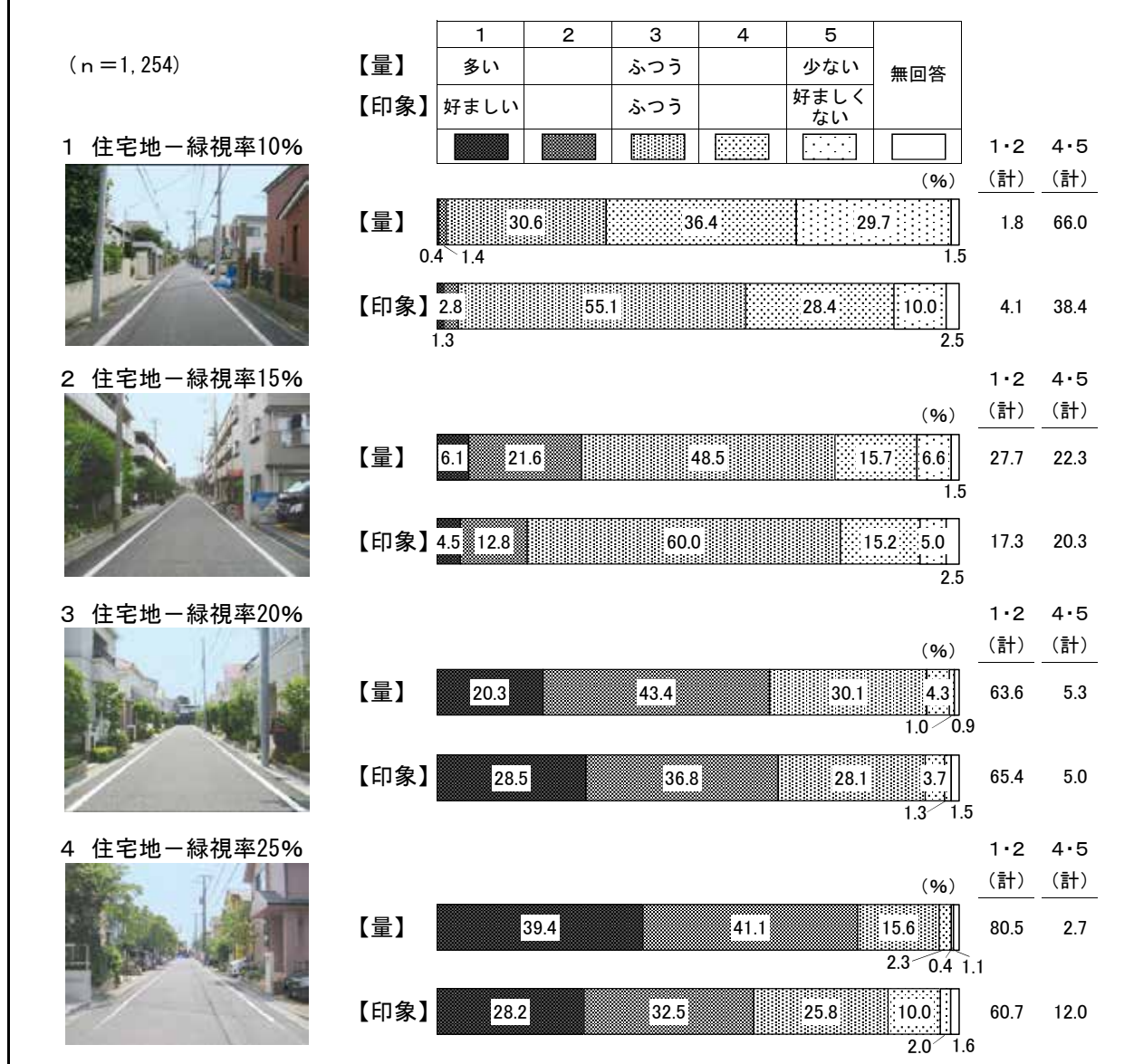
(12) 異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象

①住宅地

◇「量が多い」は緑視率25%、「好ましい」は緑視率20%

問12 次の写真は、緑視率の異なる写真です。それぞれの写真のみどりの量や印象について、あなたのお考えに近いものはどれですか。写真の下の1～5の数字に○をつけてください。同じ評価のものが複数あっても構いません。（それぞれの写真について、量と印象、○は1つずつ）

図1-12-1 異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象①住宅地

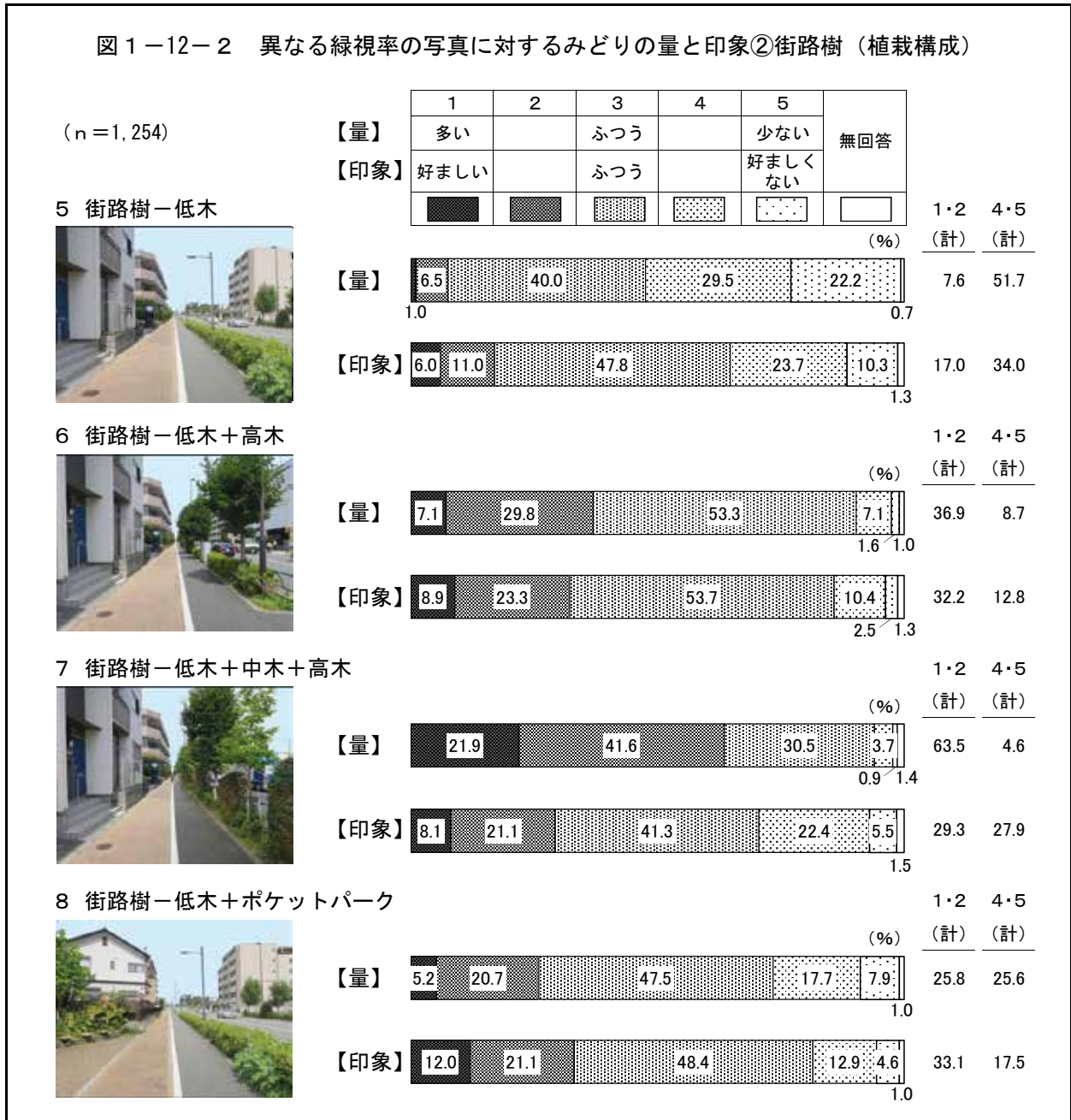


住宅地について異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は緑視率25%、20%、15%、10%の順となっている。「好ましい」は緑視率20%、25%、15%、10%の順となっている。（図1-12-1）

量が多い順		好ましい順	
①緑視率25%	(80.5%)	①緑視率20%	(65.4%)
②緑視率20%	(63.6%)	②緑視率25%	(60.7%)
③緑視率15%	(27.7%)	③緑視率15%	(17.3%)
④緑視率10%	(1.8%)	④緑視率10%	(4.1%)

②街路樹（植栽構成）

◇「量が多い」は低木+中木+高木、「好ましい」は低木+ポケットパーク、低木+高木



街路樹（植栽構成）について異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は低木+中木+高木、低木+高木、低木+ポケットパーク、低木の順となっている。「好ましい」は低木+ポケットパーク、低木+高木、低木+中木+高木、低木の順となっている。（図1-12-2）

量が多い順	
①低木+中木+高木	(63.5%)
②低木+高木	(36.9%)
③低木+ポケットパーク	(25.8%)
④低木	(7.6%)

好ましい順	
①低木+ポケットパーク	(33.1%)
②低木+高木	(32.2%)
③低木+中木+高木	(29.3%)
④低木	(17.0%)

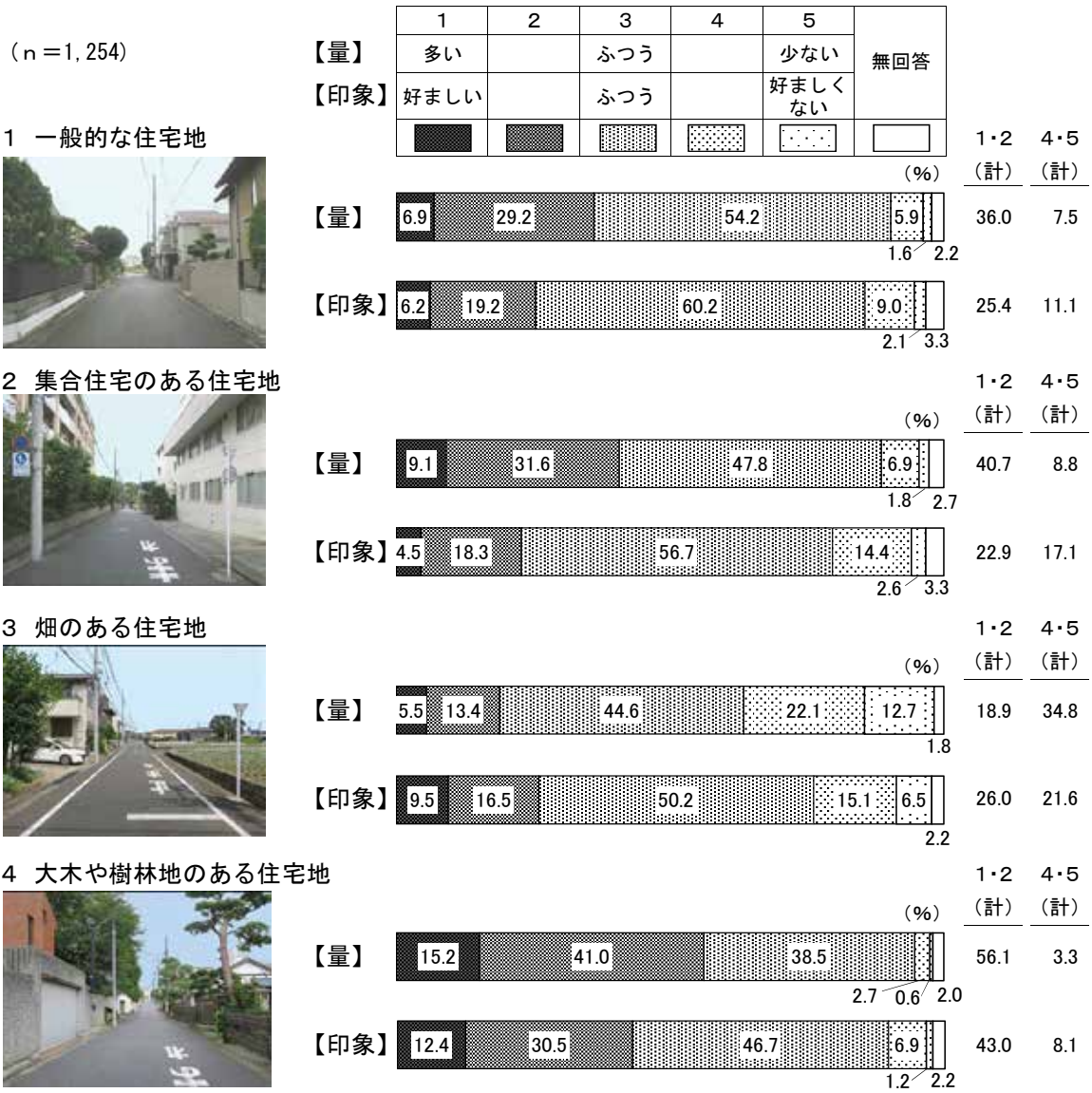
(13) おおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象

①住宅地（植栽構成）

◇「量が多い」「好ましい」ともに大木や樹林地のある住宅地

問13 次の写真は、緑視率がおおむね同じ写真です。それぞれの写真のみどりの量や印象について、あなたのお考えに近いものはどれですか。写真の下の1～5の数字に○をつけてください。同じ評価のものが複数あっても構いません。（それぞれの写真について、量と印象、○は1つずつ）

図1-13-1 おおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象①住宅地(植栽構成)

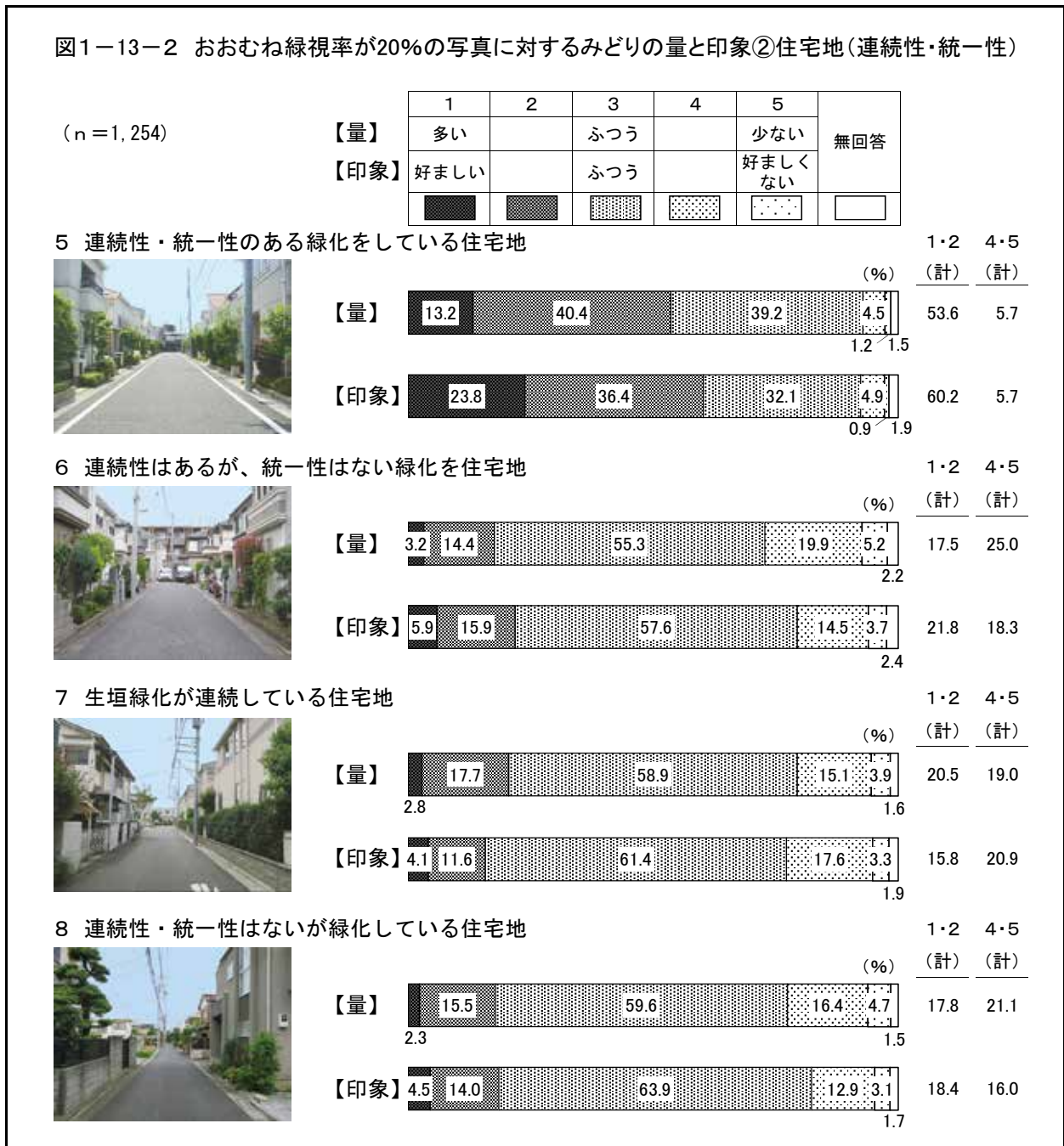


住宅地（植栽構成）についておおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は大木や樹林地のある住宅地、集合住宅のある住宅地、一般的な住宅地、畑のある住宅地の順となっている。「好ましい」は大木や樹林地のある住宅地、畑のある住宅地、一般的な住宅地、集合住宅のある住宅地の順となっている。（図1-13-1）

量が多い順		好ましい順	
①大木や樹林地のある住宅地	(56.1%)	①大木や樹林地のある住宅地	(43.0%)
②集合住宅のある住宅地	(40.7%)	②畑のある住宅地	(26.0%)
③一般的な住宅地	(36.0%)	③一般的な住宅地	(25.4%)
④畑のある住宅地	(18.9%)	④集合住宅のある住宅地	(22.9%)

②住宅地（連続性・統一性）

◇「量が多い」「好ましい」とともに連続性・統一性のある緑化をしている住宅地



住宅地（連続性・統一性）についておおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は連続性・統一性のある緑化をしている住宅地、生垣緑化が連続している住宅地の順となっている。「好ましい」は連続性・統一性のある緑化をしている住宅地、連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地の順となっている。（図1-13-2）

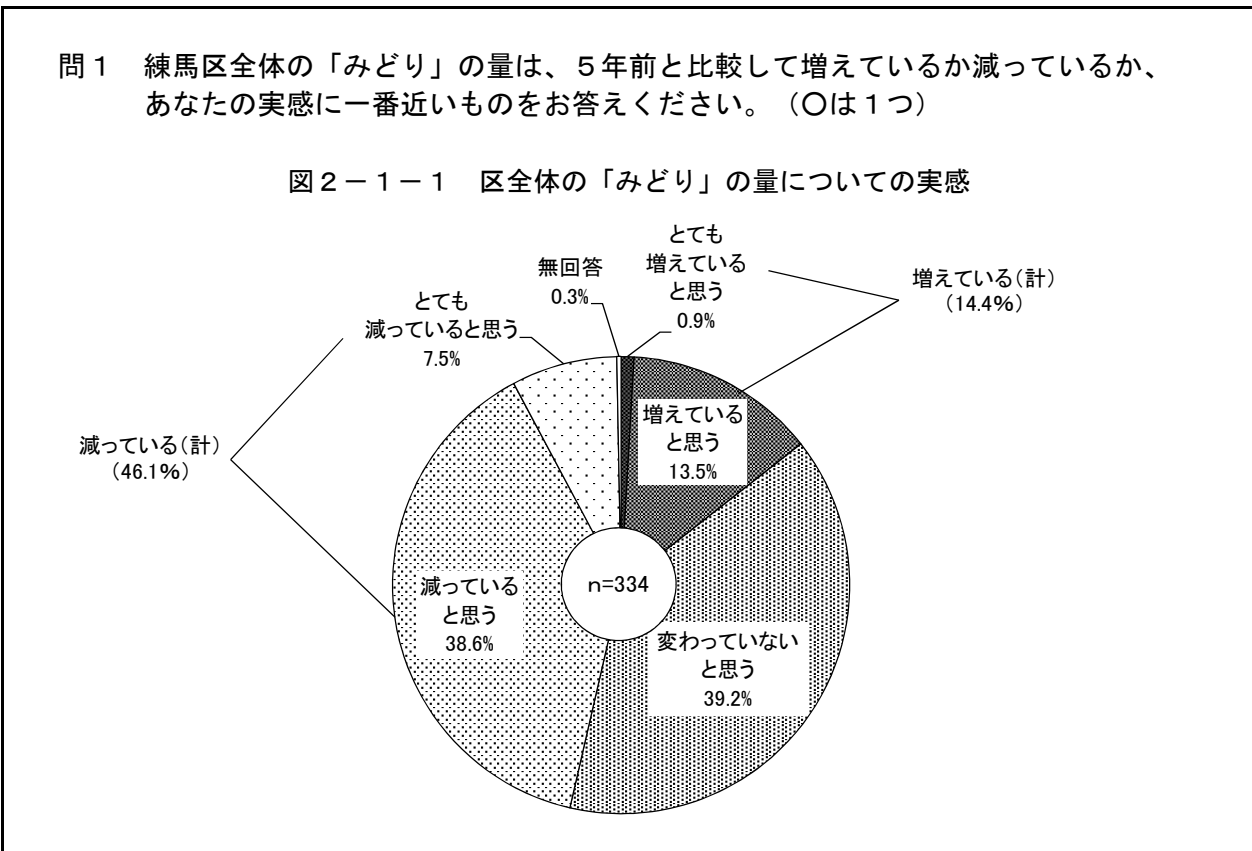
量が多い順	
①連続性・統一性のある緑化をしている住宅地	(53.6%)
②生垣緑化が連続している住宅地	(20.5%)
③連続性・統一性はないが緑化している住宅地	(17.8%)
④連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地	(17.5%)

好ましい順	
①連続性・統一性のある緑化をしている住宅地	(60.2%)
②連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地	(21.8%)
③連続性・統一性はないが緑化している住宅地	(18.4%)
④生垣緑化が連続している住宅地	(15.8%)

4 調査結果 みどりの活動参加者調査（500人調査）

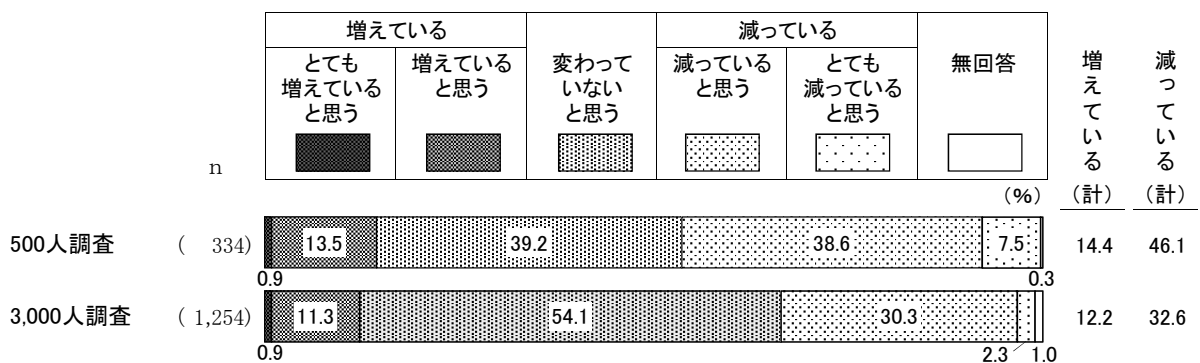
(1) 区全体の「みどり」の量についての実感

◇『減っている』が4割台半ば、「あまり変わっていないと思う」が約4割



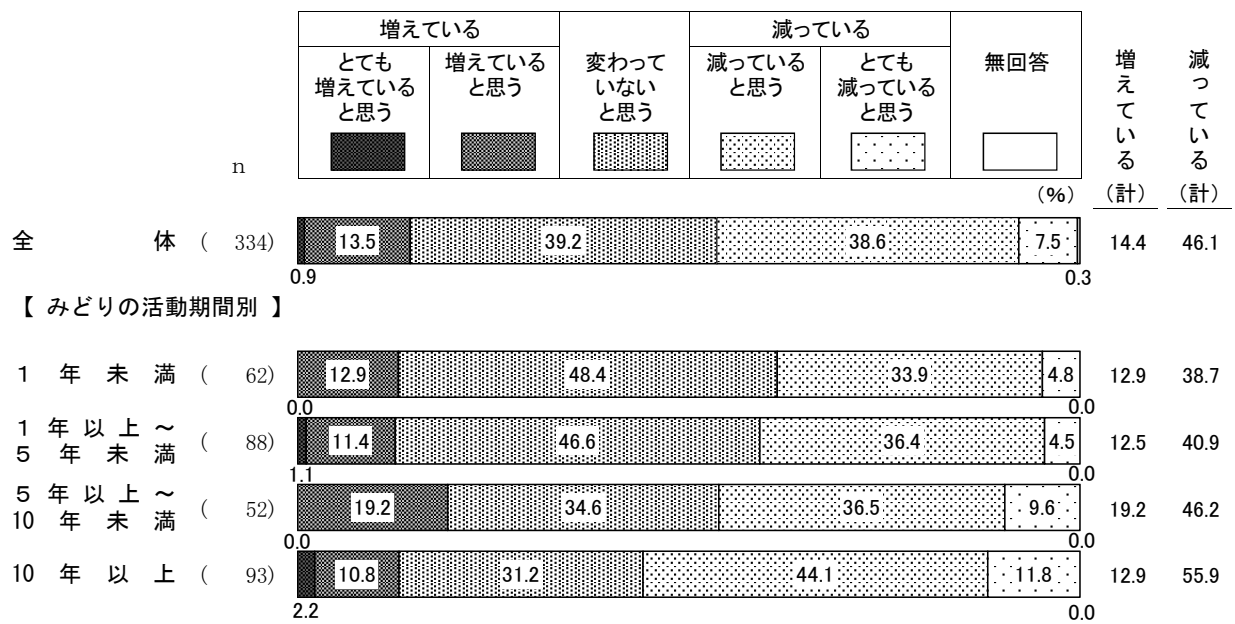
区全体の「みどり」の量についての実感を聞いたところ、「とても増えていると思う」（0.9%）と「増えていると思う」（13.5%）を合わせた『増えている』（14.4%）が1割台半ばとなっている。一方、「減っていると思う」（38.6%）と「とても減っていると思う」（7.5%）を合わせた『減っている』（46.1%）が4割台半ばとなっている。「変わっていないと思う」（39.2%）が約4割となっている。（図2-1-1）

図2-1-2 区全体の「みどり」の量についての実感-3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、『減っている』が13.5ポイント高くなっている。（図2-1-2）

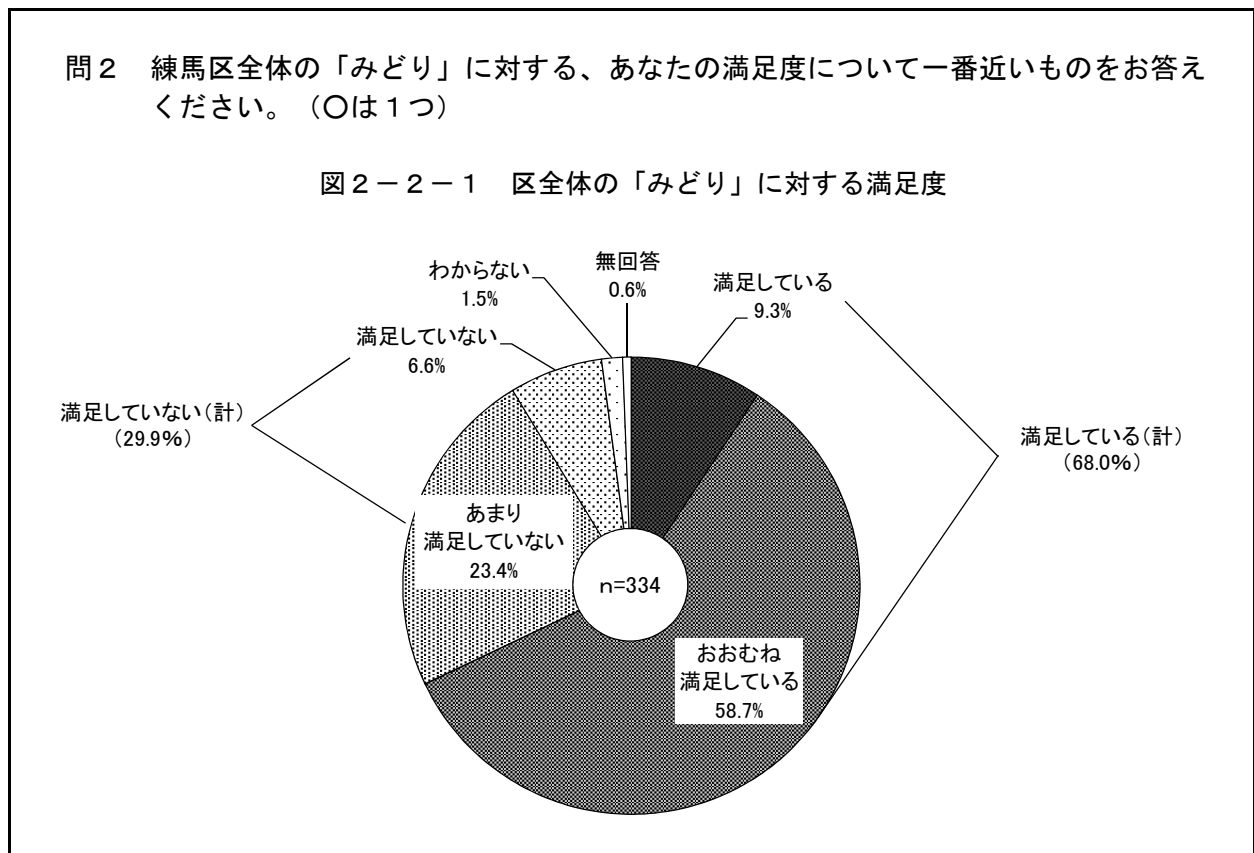
図2-1-3 区全体の「みどり」の量についての実感—みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、『増えている』は5年以上～10年未満で約2割と多くなっている。『減っている』は10年以上で5割台半ばと多くなっている。(図2-1-3)

(2) 区全体の「みどり」に対する満足度

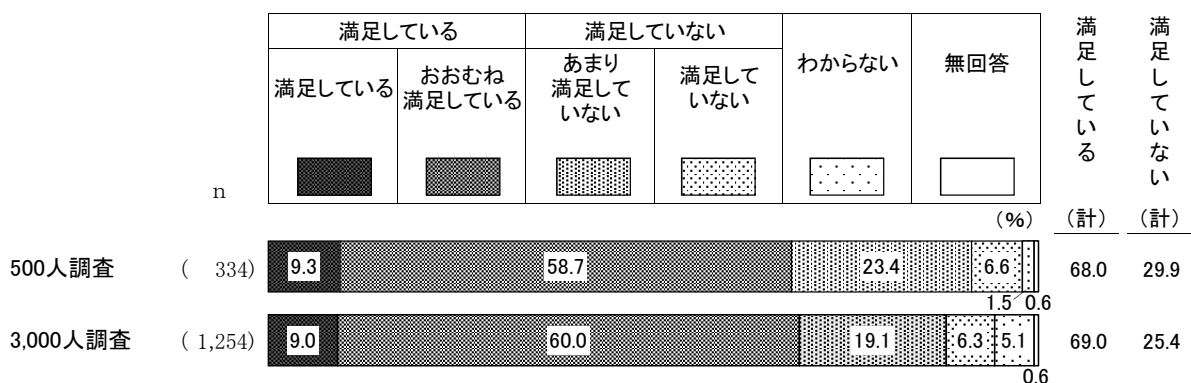
◇『満足している』が7割近く



区全体の「みどり」に対する満足度を聞いたところ、「満足している」(9.3%)が約1割、「おおむね満足している」(58.7%)が6割近く、この2つを合わせた『満足している』(68.0%)が7割近くとなっている。一方、「あまり満足していない」(23.4%)と「満足していない」(6.6%)を合わせた『満足していない』(29.9%)が約3割となっている。

(図2-2-1)

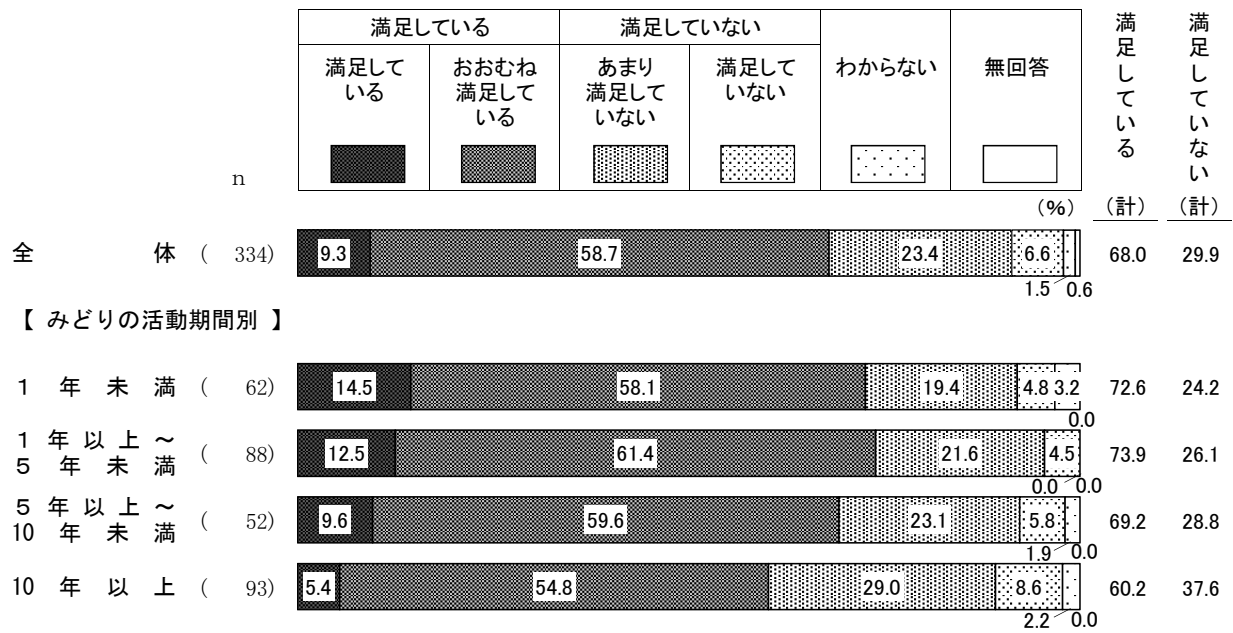
図2-2-2 区全体の「みどり」に対する満足度—3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、『満足していない』が4.5ポイント高くなっている。

(図2-2-2)

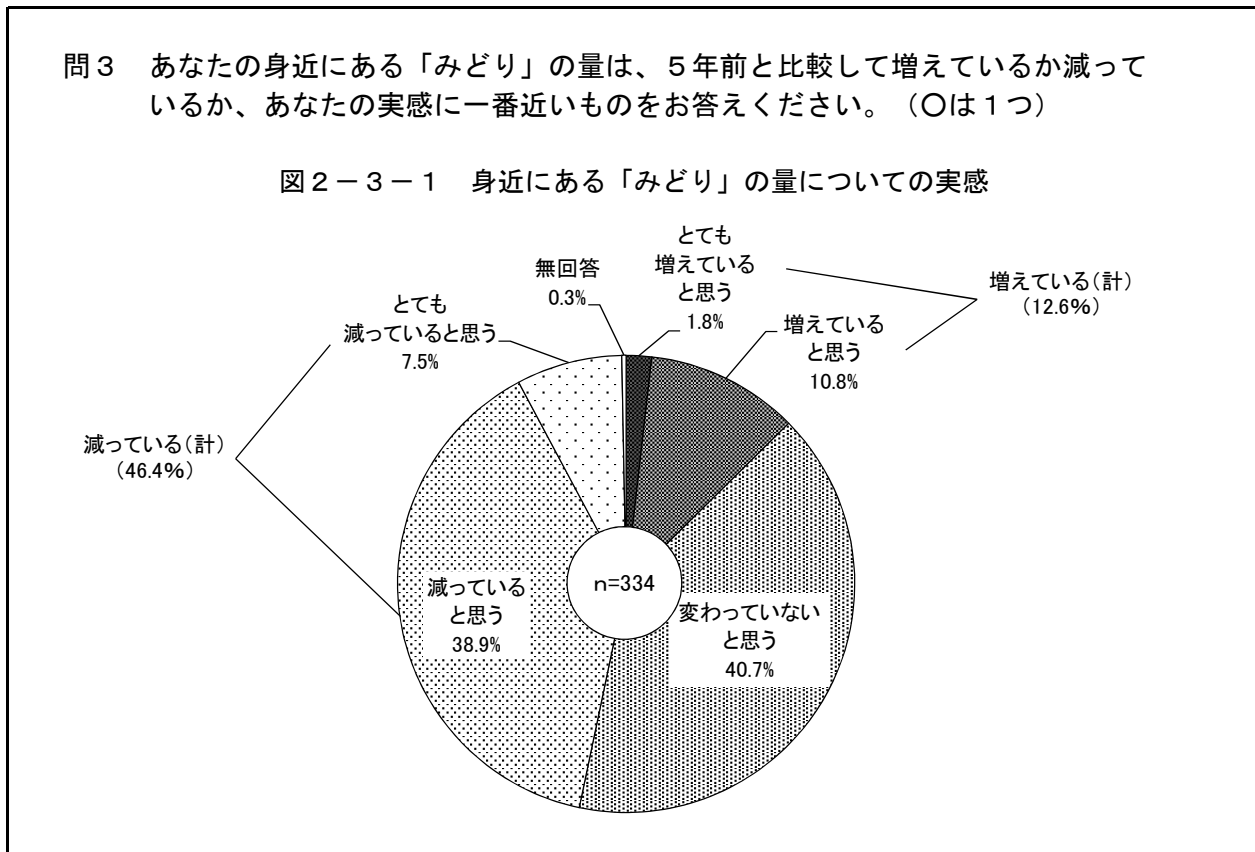
図2-2-3 区全体の「みどり」に対する満足度—みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、『満足している』は1年未満、1年以上～5年未満で7割を超えている。『満足していない』は10年以上で4割近くとなっている。(図2-2-3)

(3) 身近にある「みどり」の量についての実感

◇『減っている』が4割台半ば、「あまり変わっていないと思う」が約4割



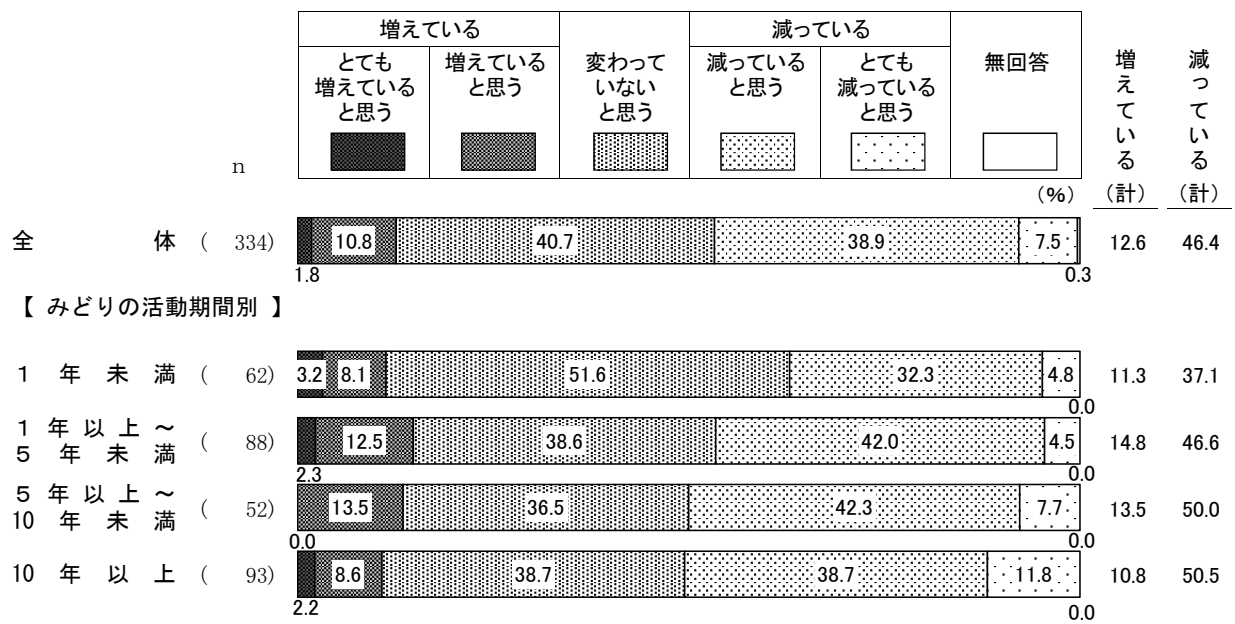
身近にある「みどり」の量についての実感を聞いたところ、「とても増えていると思う」(1.8%)と「増えていると思う」(10.8%)を合わせた『増えている』(12.6%)が1割を超えている。一方、「減っていると思う」(38.9%)と「とても減っていると思う」(7.5%)を合わせた『減っている』(46.4%)が4割台半ばとなっている。「変わらないと思う」(40.7%)が約4割となっている。(図2-3-1)

図2-3-2 身近にある「みどり」の量についての実感-3,000人調査との比較

	増えている		変わっていないと思う	減っている		無回答	増えている(計)	減っている(計)
	とても増えていると思う	増えていると思う		減っていると思う	とても減っていると思う			
n							(%)	(計)
500人調査 (334)	10.8	40.7		38.9	7.5		12.6	46.4
	1.8				0.3			
3,000人調査 (1,254)	10.0	55.1		29.2	3.7		11.3	32.9
	1.4				0.6			

3,000人調査と比較すると、『減っている』が13.5ポイント高くなっている。(図2-3-2)

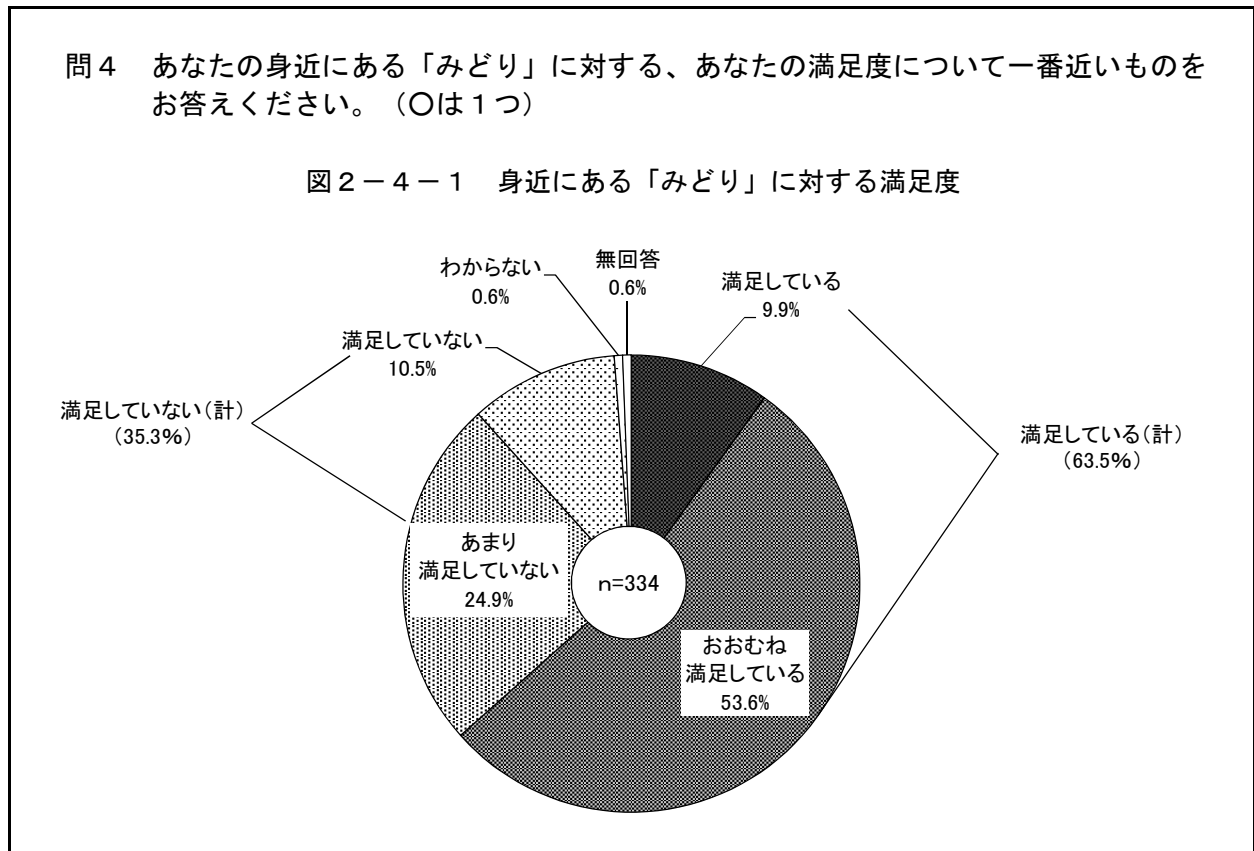
図2-3-3 身近にある「みどり」の量についての実感—みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、『増えている』は差はみられないが、『減っている』は5年以上～10年未満、10年以上で約5割となっている。(図2-3-3)

(4) 身近にある「みどり」に対する満足度

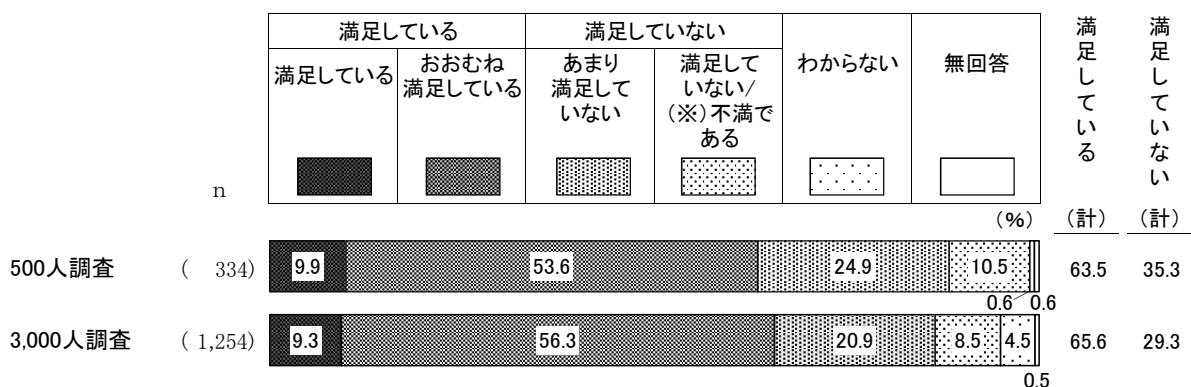
◇『満足している』が6割台前半



身近にある「みどり」に対する満足度を聞いたところ、「満足している」(9.9%)が約1割、「おおむね満足している」(53.6%)が5割台前半、この2つを合わせた『満足している』(63.5%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(24.9%)と「満足していない」(10.5%)を合わせた『満足していない』(35.3%)が3割台半ばとなっている。

(図2-4-1)

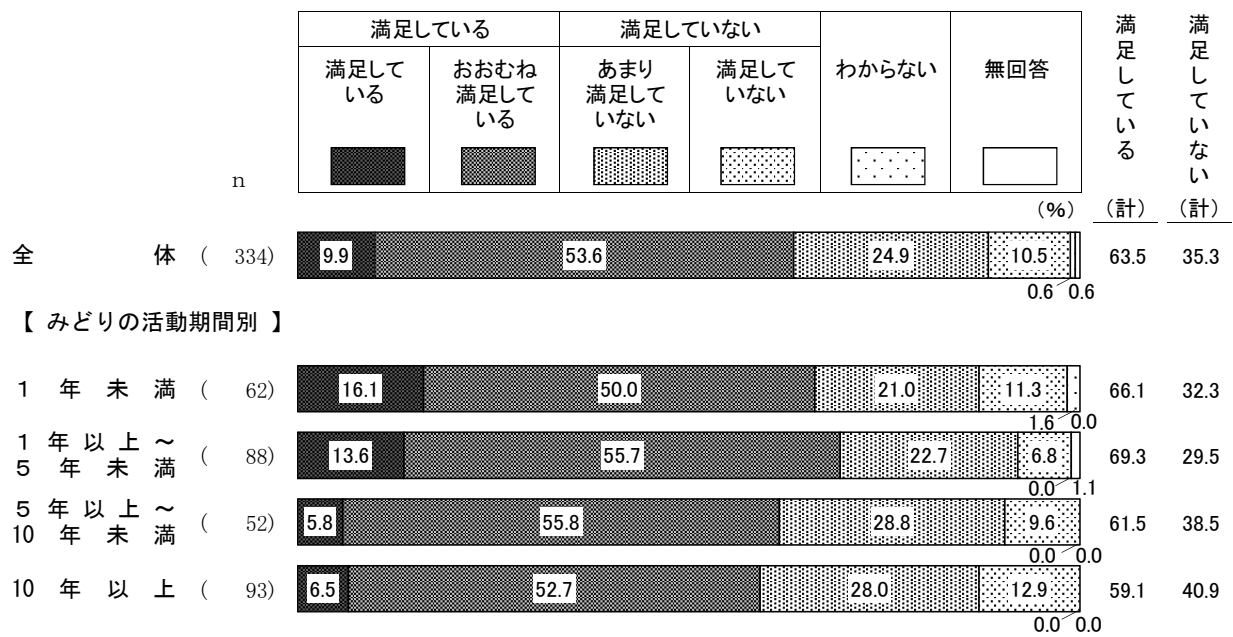
図2-4-2 身近にある「みどり」に対する満足度—3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、『満足していない』が6.0ポイント高くなっている。

(図2-4-2)

図2-4-3 身近にある「みどり」に対する満足度—みどりの活動期間別



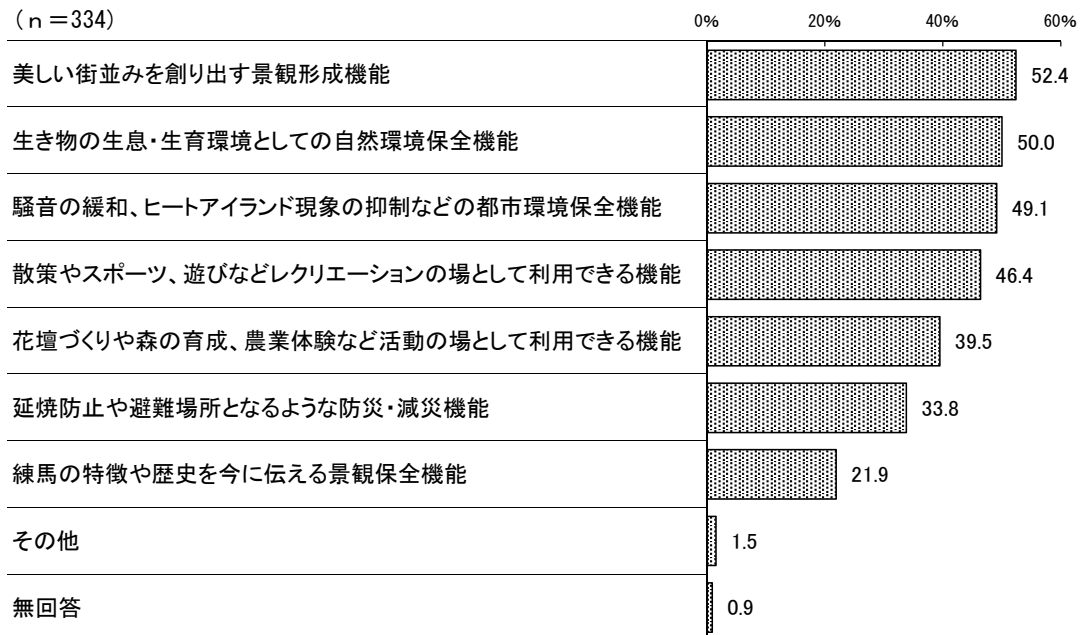
みどりの活動期間別にみると、『満足している』は1年以上～5年未満で約7割となっている。『満足していない』は10年以上で約4割となっている。(図2-4-3)

(5) 重要と思うみどりの機能

◇「美しい街並みを創り出す景観形成機能」が5割を超える

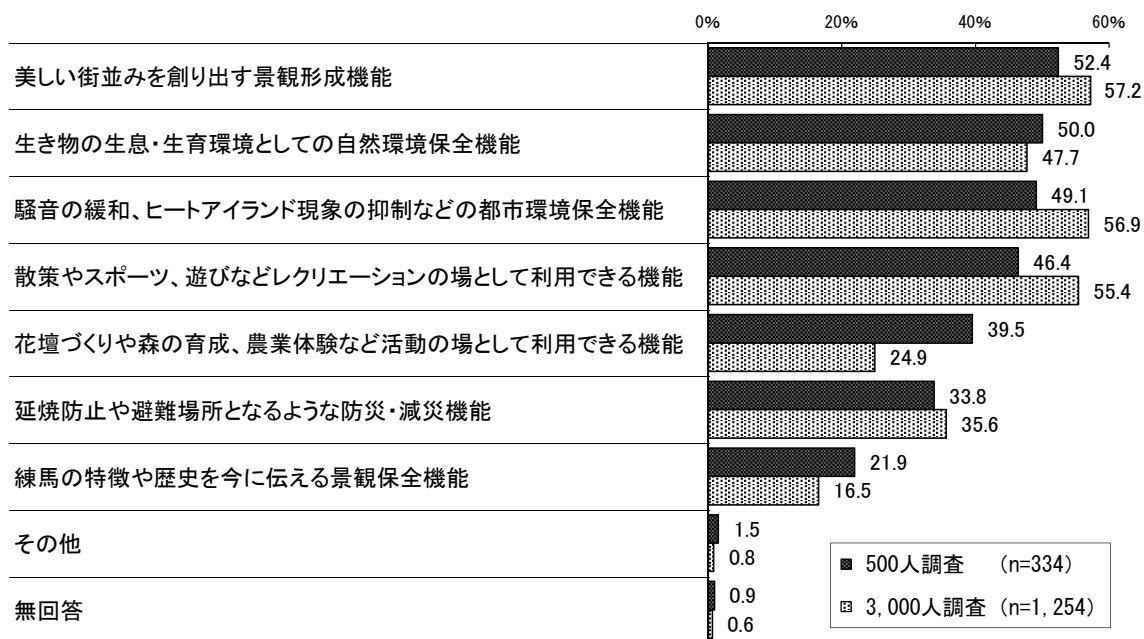
問5 都市のみどりには様々な機能があります。練馬区において、あなたが重要だと思うみどりの機能を次の中から3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。
(〇は3つまで)

図2-5-1 重要と思うみどりの機能



重要と思うみどりの機能を聞いたところ、「美しい街並みを創り出す景観形成機能」(52.4%)が5割を超えて最も多く、次いで「生き物の生息・生育環境としての自然環境保全機能」(50.0%)、「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」(49.1%)、「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」(46.4%)、「花壇づくりや森の育成、農業体験など活動の場として利用できる機能」(39.5%)などの順となっている。(図2-5-1)

図2-5-2 重要と思うみどりの機能-3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、「花壇づくりや森の育成、農業体験など活動の場として利用できる機能」が14.6ポイント、「練馬の特徴や歴史を今に伝える景観保全機能」が5.4ポイント高くなっている。一方、「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」は9.0ポイント、「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」は7.8ポイント低くなっている。(図2-5-2)

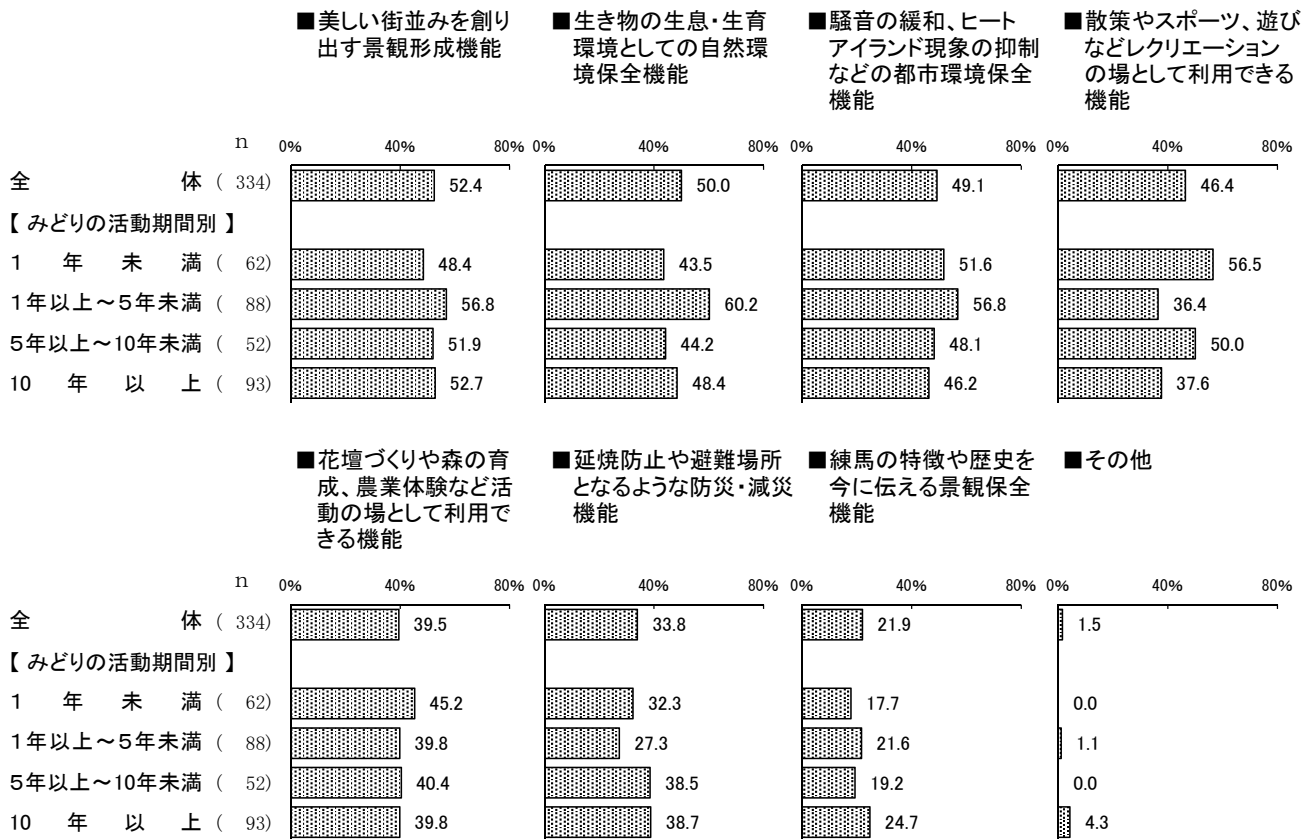
500人調査の順位

- ①美しい街並みを創り出す景観形成機能 (52.4%)
- ②生き物の生息・生育環境としての自然環境保全機能 (50.0%)
- ③騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能 (49.1%)

3,000人調査の順位

- ①美しい街並みを創り出す景観形成機能 (57.2%)
- ②騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能 (56.9%)
- ③散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能 (55.4%)

図2-5-3 重要と思うみどりの機能—みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、「生き物の生息・生育環境としての自然環境保全機能」は1年以上～5年未満で約6割と多くなっている。「騒音の緩和、ヒートアイランド現象の抑制などの都市環境保全機能」は1年以上～5年未満で5割台半ばと多くなっている。「散策やスポーツ、遊びなどレクリエーションの場として利用できる機能」は1年未満で5割台半ばと多くなっている。

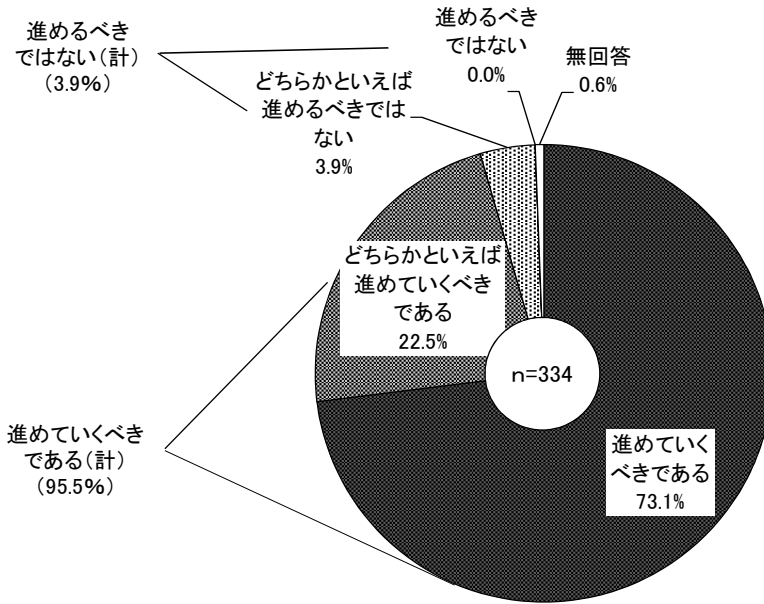
(図2-5-3)

(6) 樹木の管理方法についての考え

◇『進めていくべきである』が9割台半ば

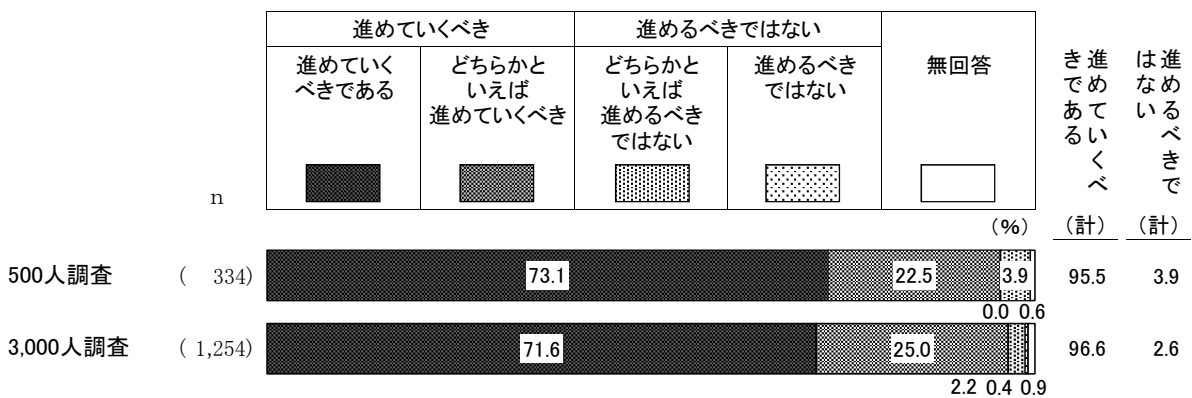
問6 公園の樹木や街路樹は、樹木の健全な育成を図りつつ、歩行者や周囲の安全を確保するために、せんだいに加え、樹木の更新や間引きを進めています。このことについて、あなたの考えに一番近いものをお答えください。(〇は1つ)

図2-6-1 樹木の管理方法についての考え



樹木の管理方法についての考えを聞いたところ、「進めていくべきである」(73.1%)と「どちらかといえば進めていくべきである」(22.5%)を合わせた『進めていくべきである』(95.5%)が9割台半ばとなっている。(図2-6-1)

図2-6-2 樹木の管理方法についての考え-3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、差はみられない。(図2-6-2)

(7) 練馬らしいみどりの保全

◇民有の樹林地は「地域の樹林地を守るために、区が樹林地を買い取り、区民が利用できる緑地として整備すべきである」が5割近く

◇農地は「地域の農地を守るために、地域の住民が農業者を支えるサポーター等として協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」が5割近く

問7 練馬区の豊かなみどりは、屋敷林などの民有の樹林地や農地に支えられてきましたが、こうしたみどりは宅地化の進展や相続、農業の後継者不足などにより、年々減少しています。

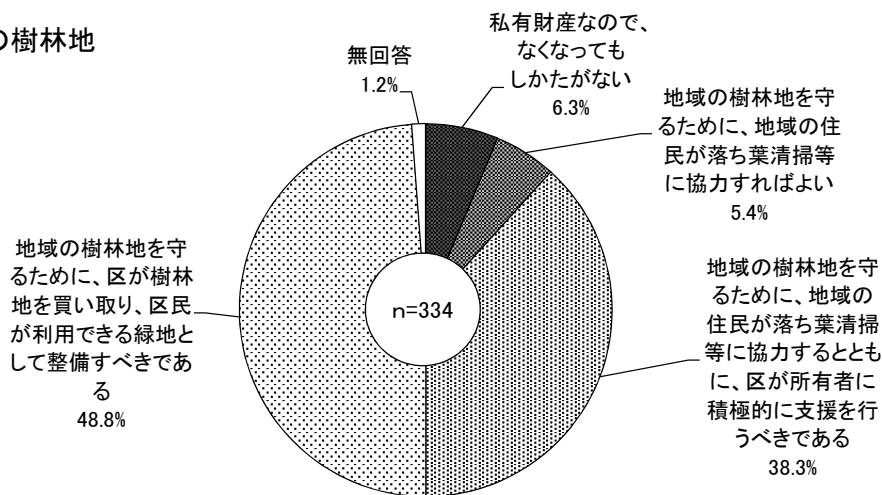
(1) 民有の樹林地の保全について、あなたの考えに一番近いものをお答えください。(○は1つ)

(○は1つ)

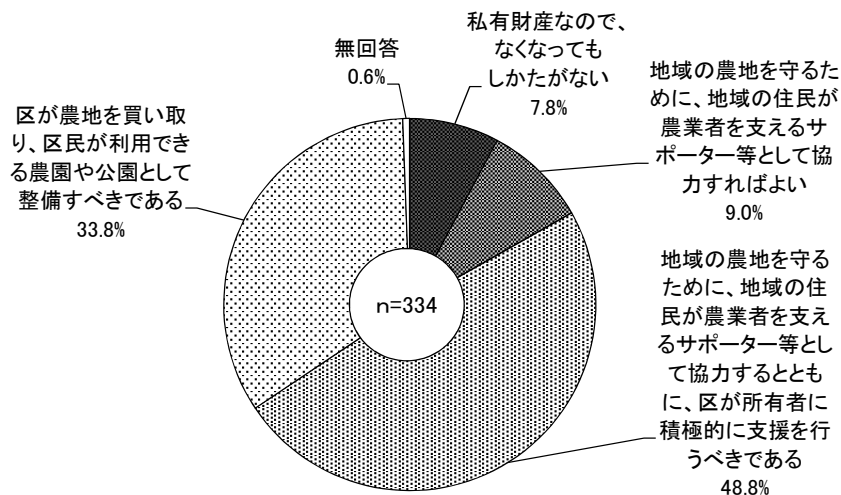
(2) 農地の保全について、あなたの考えに一番近いものをお答えください。(○は1つ)

図2-7-1 練馬らしいみどりの保全

(1) 民有の樹林地



(2) 農地

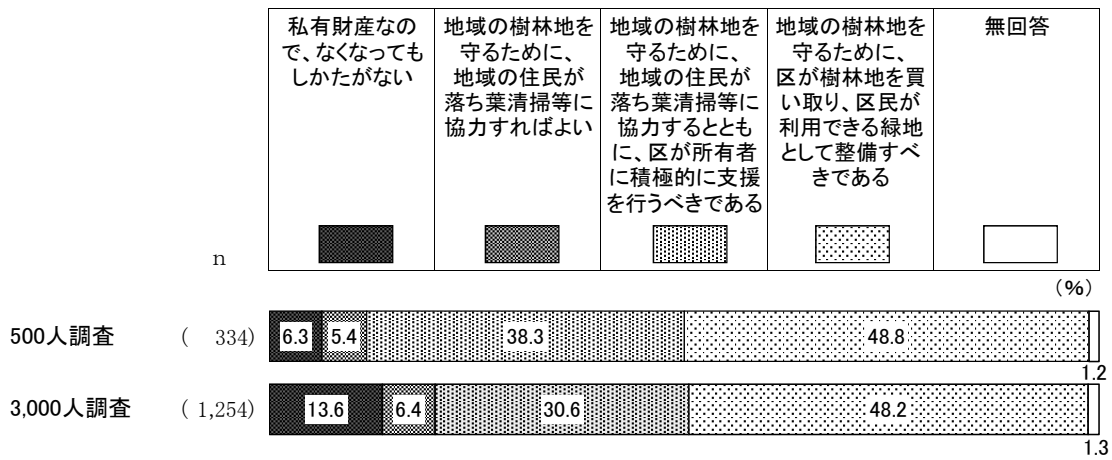


練馬らしいみどりの保全を聞いたところ、(1) 民有の樹林地は「地域の樹林地を守るために、区が樹林地を買い取り、区民が利用できる緑地として整備すべきである」(48.8%)が5割近くと最も多く、次いで「地域の樹林地を守るために、地域の住民が落ち葉清掃等に協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」(38.3%)となっている。

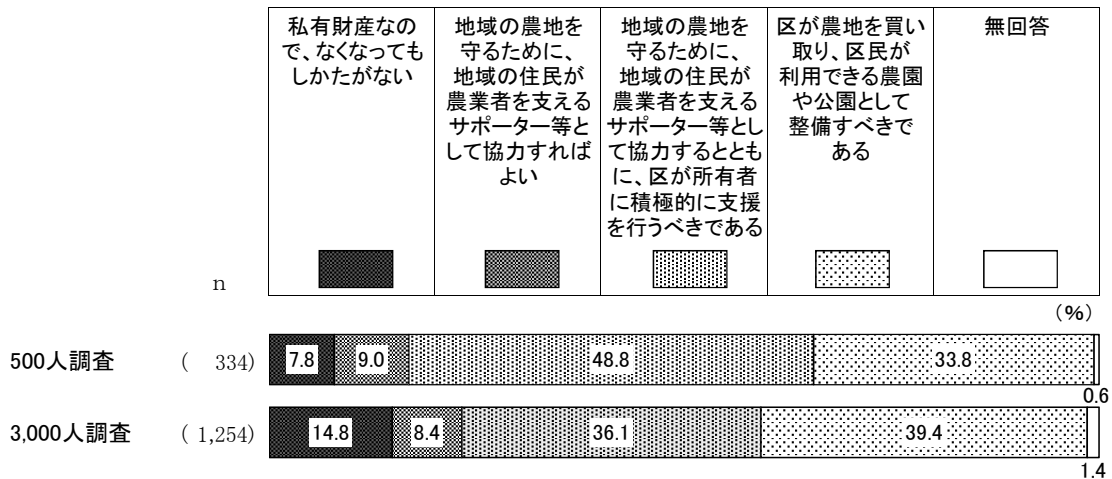
(2) 農地は「地域の農地を守るために、地域の住民が農業者を支えるサポーター等として協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」(48.8%)が5割近くと最も多く、次いで「区が農地を買い取り、区民が利用できる農園や公園として整備すべきである」(33.8%)となっている。(図2-7-1)

図2-7-2 練馬らしいみどりの保全-3,000人調査との比較

(1) 民有の樹林地



(2) 農地



3,000人調査と比較すると、(1) 民有の樹林地は「地域の樹林地を守るために、地域の住民が落ち葉清掃等に協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」が7.7ポイント高く、「私有財産なので、なくなってもしかたがない」が7.3ポイント低くなっている。

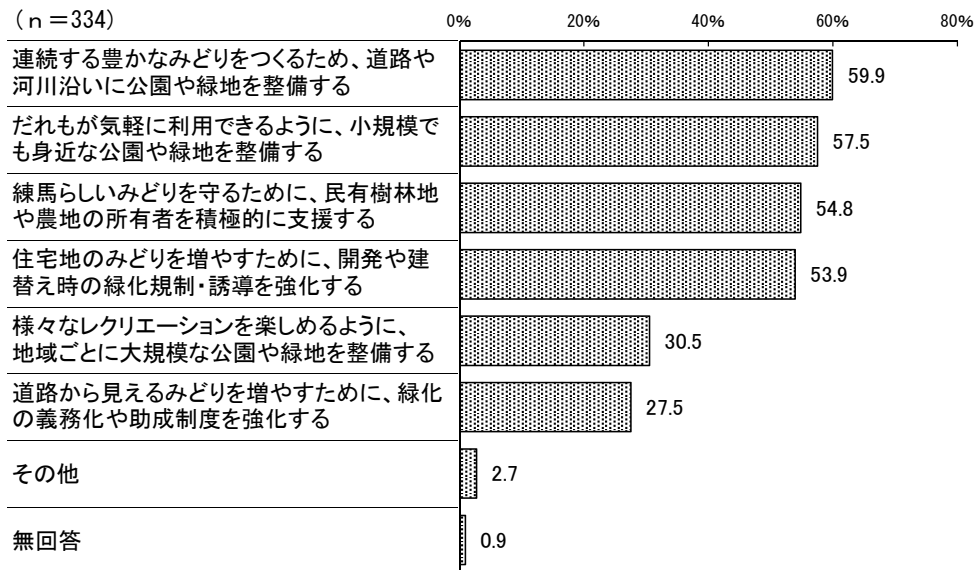
(2) 農地は「地域の農地を守るために、地域の住民が農業者を支えるサポーター等として協力するとともに、区が所有者に積極的に支援を行うべきである」が12.7ポイント高く、「私有財産なので、なくなってもしかたがない」が7.0ポイント低くなっている。(図2-7-2)

(8) みどりの保全と創出に必要な取組

◇「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」が約6割

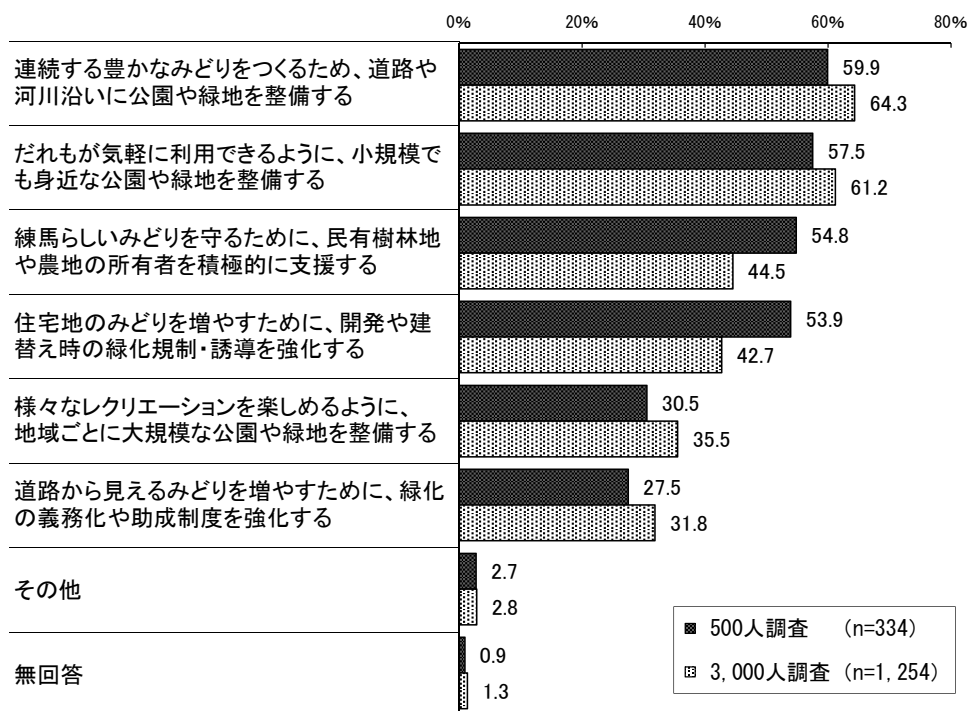
問8 今後、みどりを守り増やすために、どのような取組が必要だと思いますか。
次の中から3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。(〇は3つまで)

図2-8-1 みどりの保全と創出に必要な取組



みどりの保全と創出に必要な取組を聞いたところ、「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」(59.9%)が約6割と最も多く、次いで「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する」(57.5%)、「練馬らしいみどりを守るために、民有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する」(54.8%)、「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」(53.9%)などの順となっている。(図2-8-1)

図2-8-2 みどりの保全と創出に必要な取組—3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」は11.2ポイント、「練馬らしいみどりを守るために、民有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する」は10.3ポイント高くなっている。「様々なレクリエーションを楽しめるように、地域ごとに大規模な公園や緑地を整備する」は5.0ポイント、「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」は4.4ポイント低くなっている。
(図2-8-2)

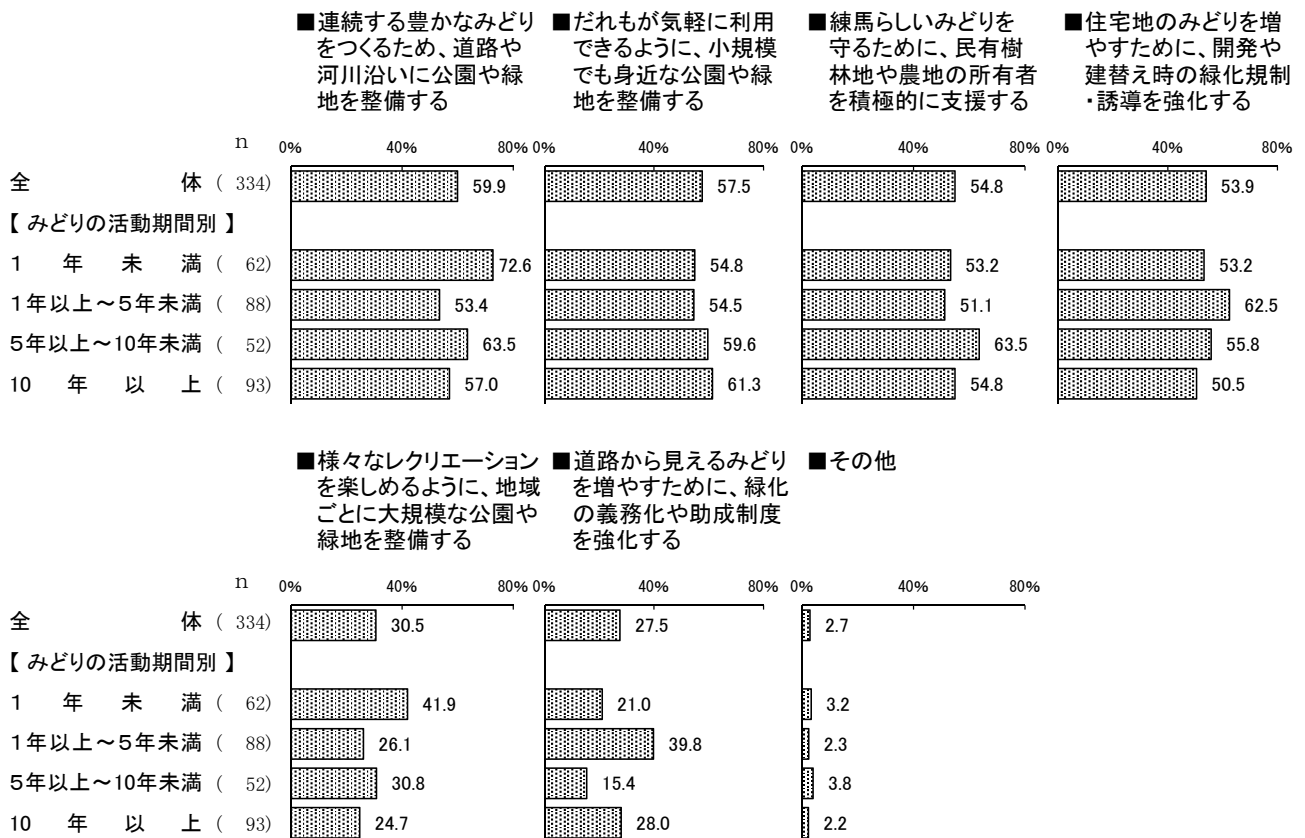
500人調査の順位

- ①連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する (59.9%)
- ②だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する (57.5%)
- ③練馬らしいみどりを守るために、民有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する (54.8%)

3,000人調査の順位

- ①連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する (64.3%)
- ②だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を整備する (61.2%)
- ③練馬らしいみどりを守るために、民有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する (44.5%)

図2-8-3 みどりの保全と創出に必要な取組—みどりの活動期間別

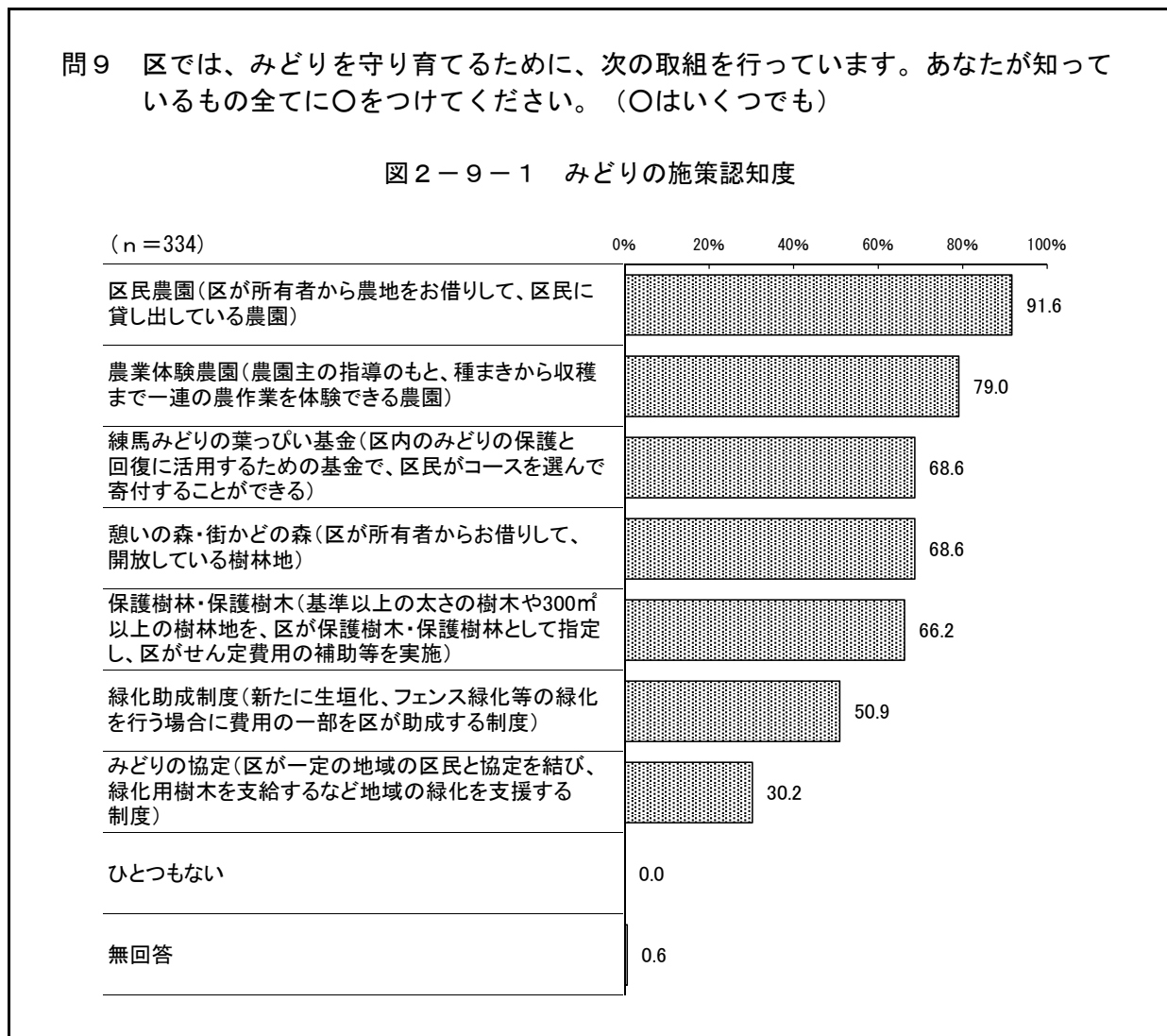


みどりの活動期間別にみると、「連続する豊かなみどりをつくるため、道路や河川沿いに公園や緑地を整備する」は1年未満で7割を超えて多くなっている。「練馬らしいみどりを守るために、民有樹林地や農地の所有者を積極的に支援する」は5年以上～10年未満で6割を超えて多くなっている。「住宅地のみどりを増やすために、開発や建替え時の緑化規制・誘導を強化する」は1年以上～5年未満で6割を超えて多くなっている。「様々なレクリエーションを楽しめるように、地域ごとに大規模な公園や緑地を整備する」は1年未満で4割を超えて多くなっている。

(図2-8-3)

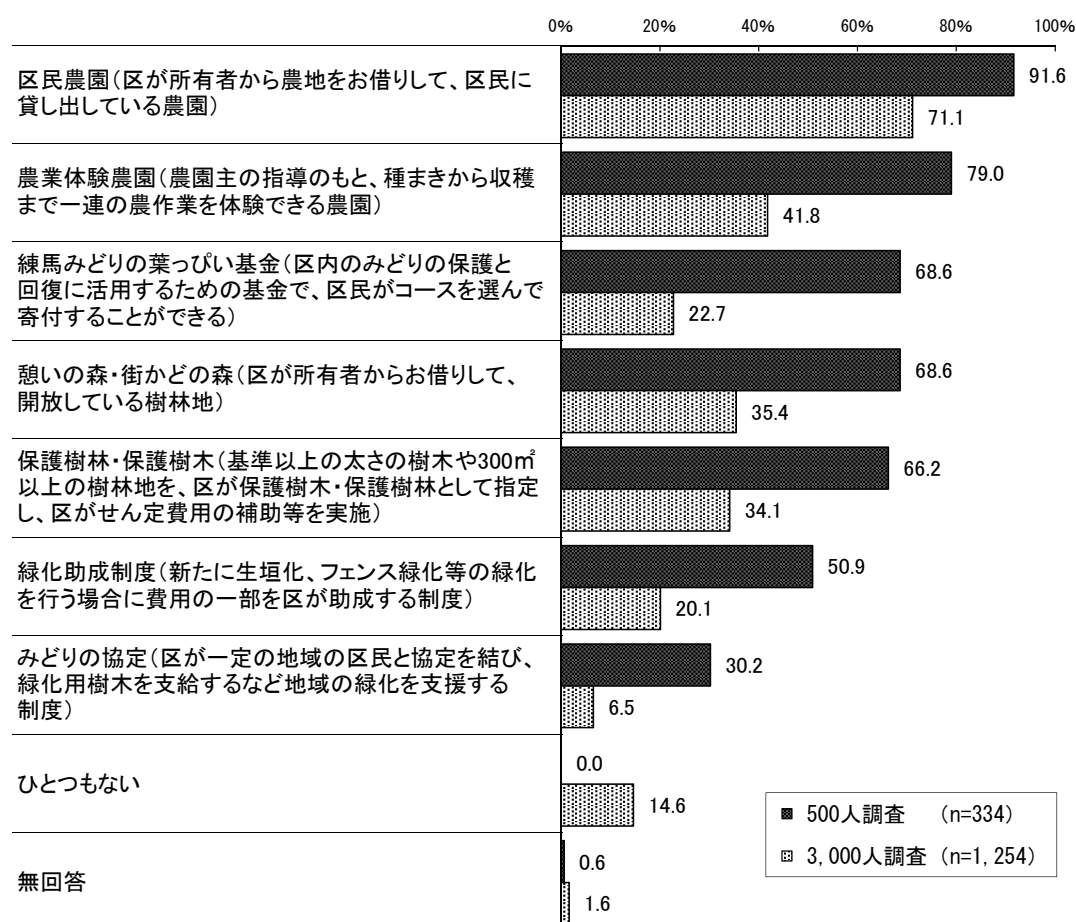
(9) みどりの施策認知度

◇「区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園）」が9割を超える



みどりの施策認知度を聞いたところ、「区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園）」（91.6%）が9割を超えて最も多く、次いで「農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園）」（79.0%）、「練馬みどりの葉っぱい基金（区内のみどりの保護と回復に活用するための基金で、区民がコースを選んで寄付することができる）」、「憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地）」（ともに68.6%）などの順となっている。（図2-9-1）

図2-9-2 みどりの施策認知度-3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、「練馬みどりの葉っぱい基金（区内のみどりの保護と回復に活用するための基金で、区民がコースを選んで寄付することができる）」は45.9ポイント、「農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園）」は37.2ポイント、「憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地）」は33.2ポイント、「保護樹林・保護樹木（基準以上の太さの樹木や300㎡以上の樹林地を、区が保護樹木・保護樹林として指定し、区がせん定費用の補助等を実施）」は32.1ポイント高くなっている。（図2-9-2）

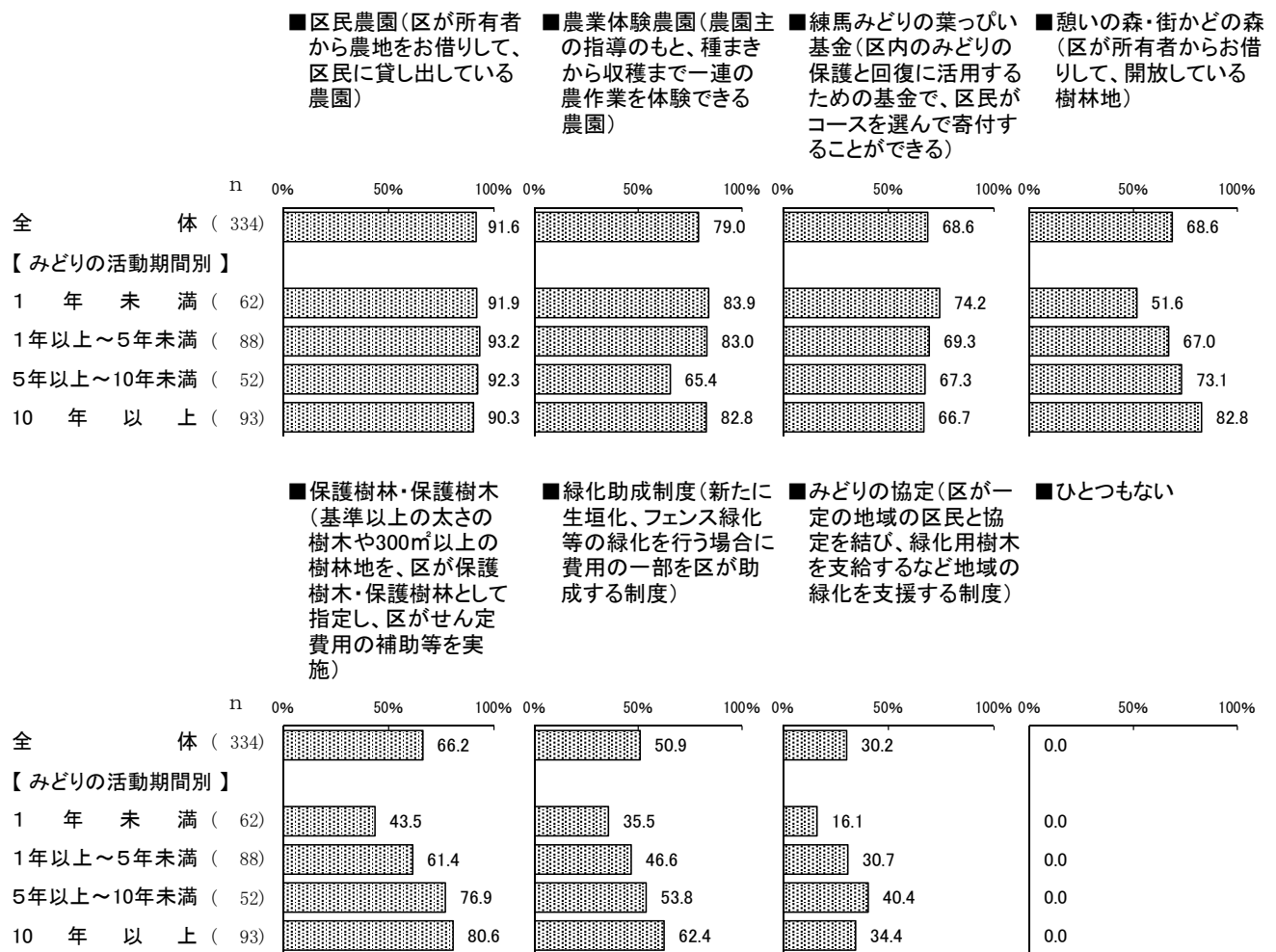
500人調査の順位

- ①区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園） (91.6%)
- ②農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園） (79.0%)
- ③練馬みどりの葉っぱい基金 (68.6%)
（区内のみどりの保護と回復に活用するための基金で、区民がコースを選んで寄付することができる）
- ③憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地） (68.6%)

3,000人調査の順位

- ①区民農園（区が所有者から農地をお借りして、区民に貸し出している農園） (71.1%)
- ②農業体験農園（農園主の指導のもと、種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる農園） (41.8%)
- ③憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地） (35.4%)

図2-9-3 みどりの施策認知度—みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、「憩いの森・街かどの森（区が所有者からお借りして、開放している樹林地）」は10年以上で8割を超えて多くなっている。「保護樹林・保護樹木（基準以上の太さの樹木や300㎡以上の樹林地を、区が保護樹木・保護樹林として指定し、区がせん定費用の補助等を実施）」は10年以上で約8割と多くなっている。「緑化助成制度（新たに生垣化、フェンス緑化等の緑化を行う場合に費用の一部を区が助成する制度）」は10年以上で6割を超えて多くなっている。（図2-9-3）

(10) 緑化活動について

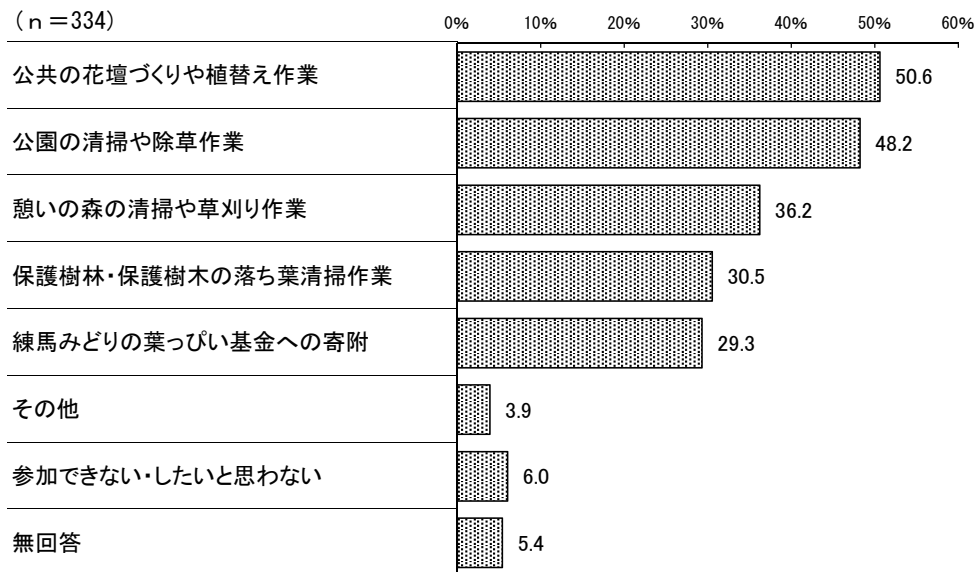
① 今後参加したい緑化活動

◇ 「公共の花壇づくりや植替え作業」が約5割

問10 区では、区民のみなさんと協力してみどりを守り育てる活動を行っています。

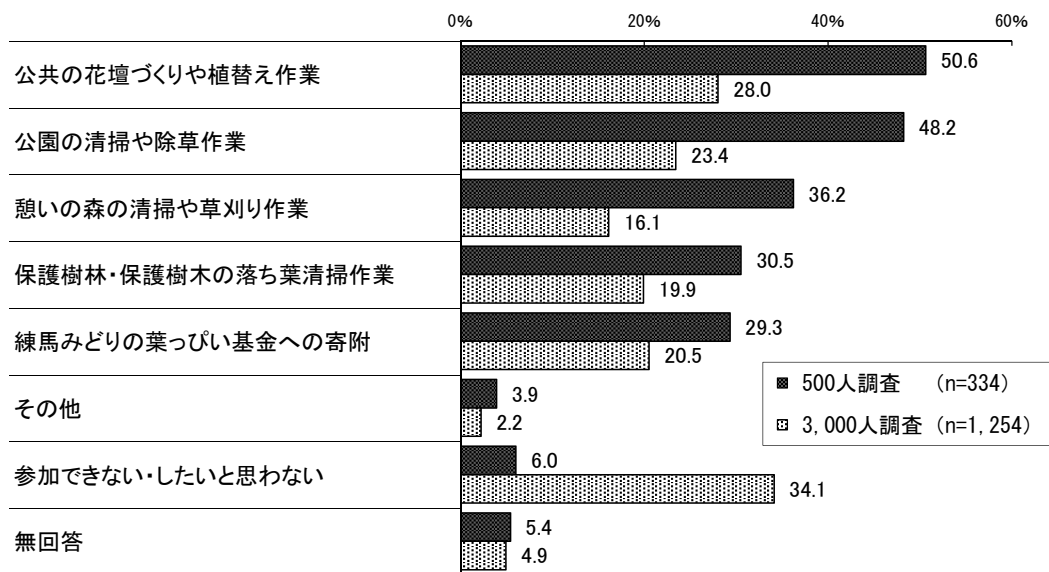
(1) 1～7の活動のうち、あなたが今後参加したいもの全てに○をつけてください。
(○はいくつでも)

図2-10-1 今後参加したい緑化活動



今後参加したい緑化活動を聞いたところ、「公共の花壇づくりや植替え作業」(50.6%)が約5割と最も多く、次いで「公園の清掃や除草作業」(48.2%)、「憩いの森の清掃や草刈り作業」(36.2%)、「保護樹林・保護樹木の落ち葉清掃作業」(30.5%)などの順となっている。(図2-10-1)

図2-10-2 今後参加したい緑化活動-3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、「公園の清掃や除草作業」は24.8ポイント、「公共の花壇づくりや植替え作業」は22.6ポイント、「憩いの森の清掃や草刈り作業」は20.1ポイント高くなっている。一方、「参加できない・したいと思わない」は28.1ポイント低くなっている。

(図2-10-2)

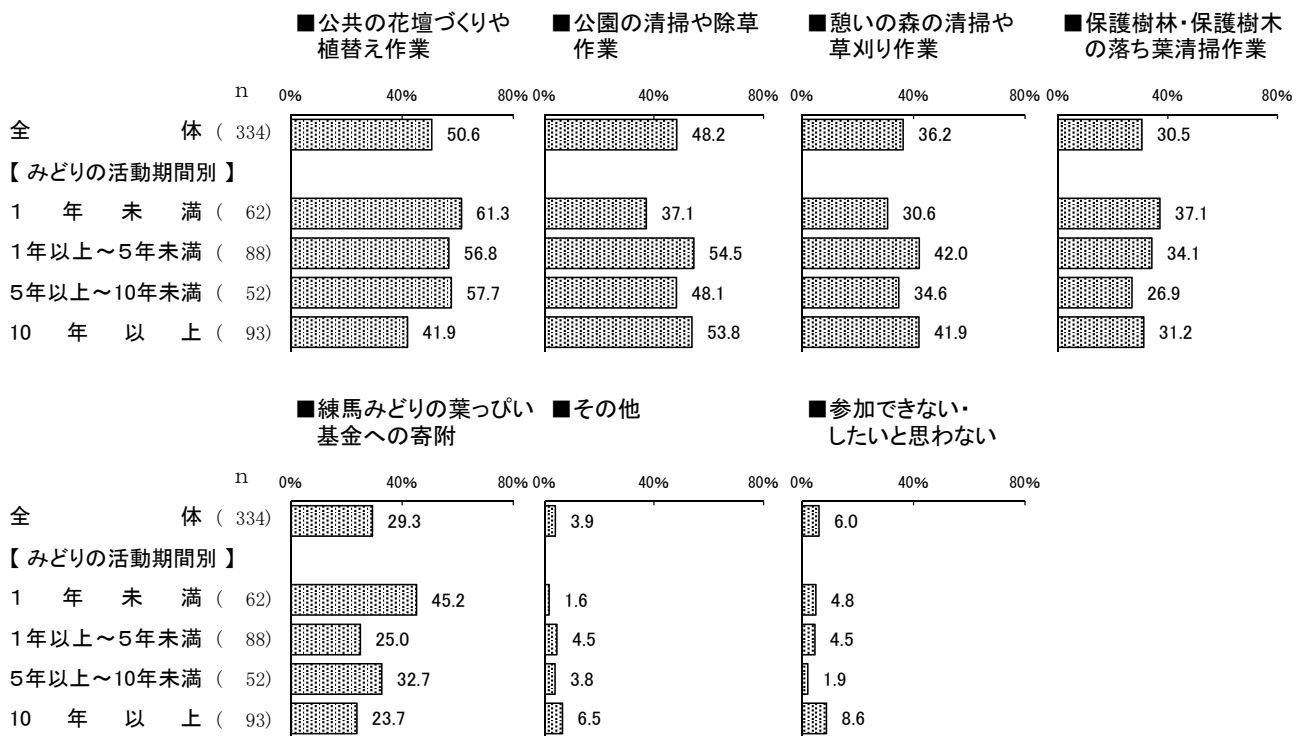
500人調査の順位

- ①公共の花壇づくりや植替え作業 (50.6%)
- ②公園の清掃や除草作業 (48.2%)
- ③憩いの森の清掃や草刈り作業 (36.2%)

3,000人調査の順位

- ①公共の花壇づくりや植替え作業 (28.0%)
- ②公園の清掃や除草作業 (23.4%)
- ③練馬みどりの葉っぱい基金への寄附 (20.5%)

図2-10-3 今後参加したい緑化活動－みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、「公共の花壇づくりや植替え作業」は1年未満で6割を超えて多くなっている。「公園の清掃や除草作業」は1年以上～5年未満、10年以上で5割台前半と多くなっている。「練馬みどりの葉っぱい基金への寄附」は1年未満で4割台半ばと多くなっている。

(図2-10-3)

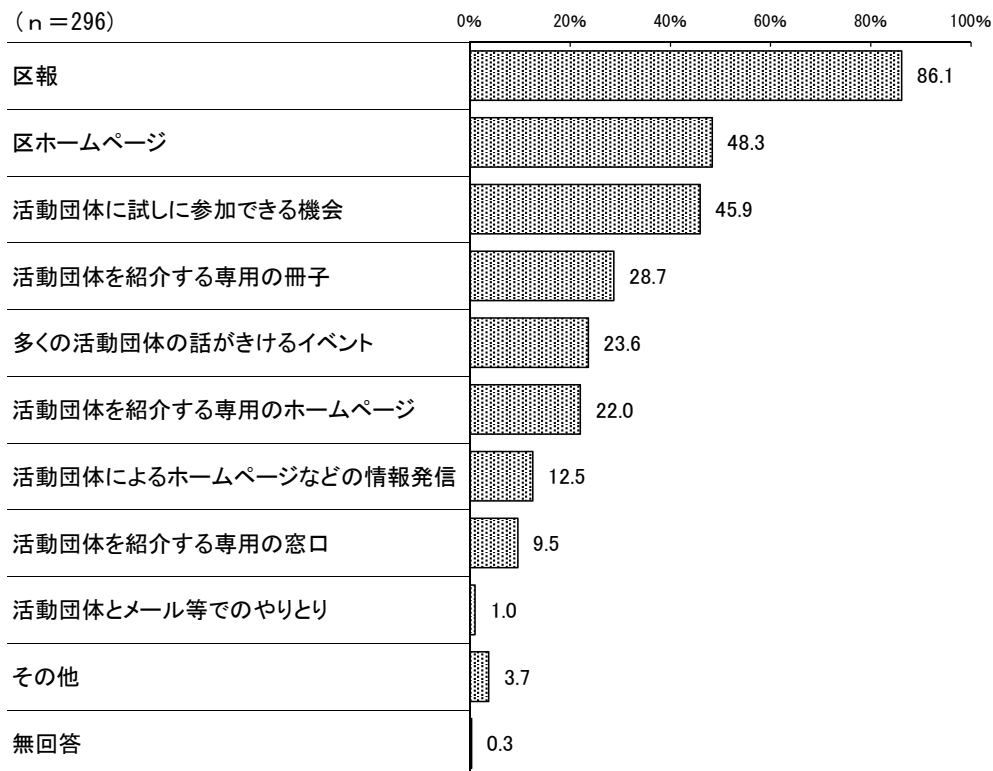
②緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向

◇「区報」が8割台半ば

【問10（1）で1～6に○をつけた方へ】

（2）こうした活動に参加、利用するにあたって、情報はどのように入手できるとよいですか。次の中から3つまで選んで下の欄に番号をご記入ください。
（○は3つまで）

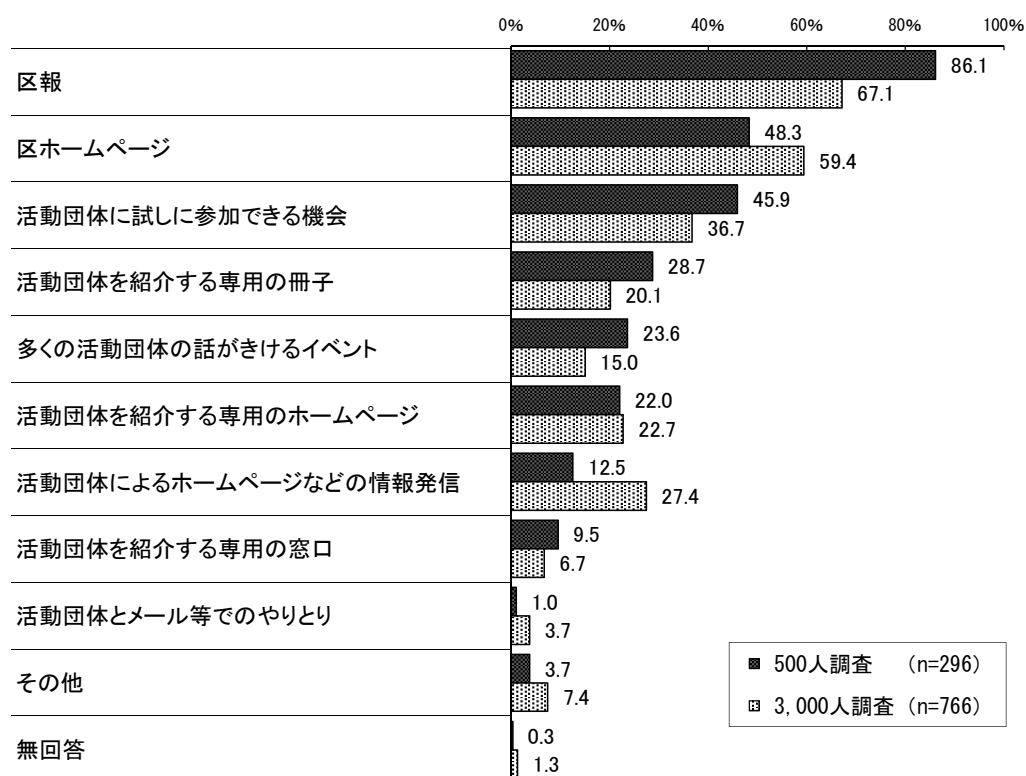
図2-10-4 緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向



今後参加したい緑化活動がある方に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向を聞いたところ、「区報」（86.1%）が8割台半ばと最も多く、次いで「区ホームページ」（48.3%）、「活動団体に試しに参加できる機会」（45.9%）、「活動団体を紹介する専用の冊子」（28.7%）、「多くの活動団体の話がきけるイベント」（23.6%）などの順となっている。

（図2-10-4）

図2-10-5 緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向—3,000人調査との比較



3,000人調査と比較すると、「区報」は19.0ポイント、「活動団体に試しに参加できる機会」は9.2ポイント、「活動団体を紹介する専用の冊子」、「多くの活動団体の話がきけるイベント」はともに8.6ポイント高くなっている。「活動団体によるホームページなどの情報発信」は14.9ポイント、「区ホームページ」は11.1ポイント低くなっている。(図2-10-5)

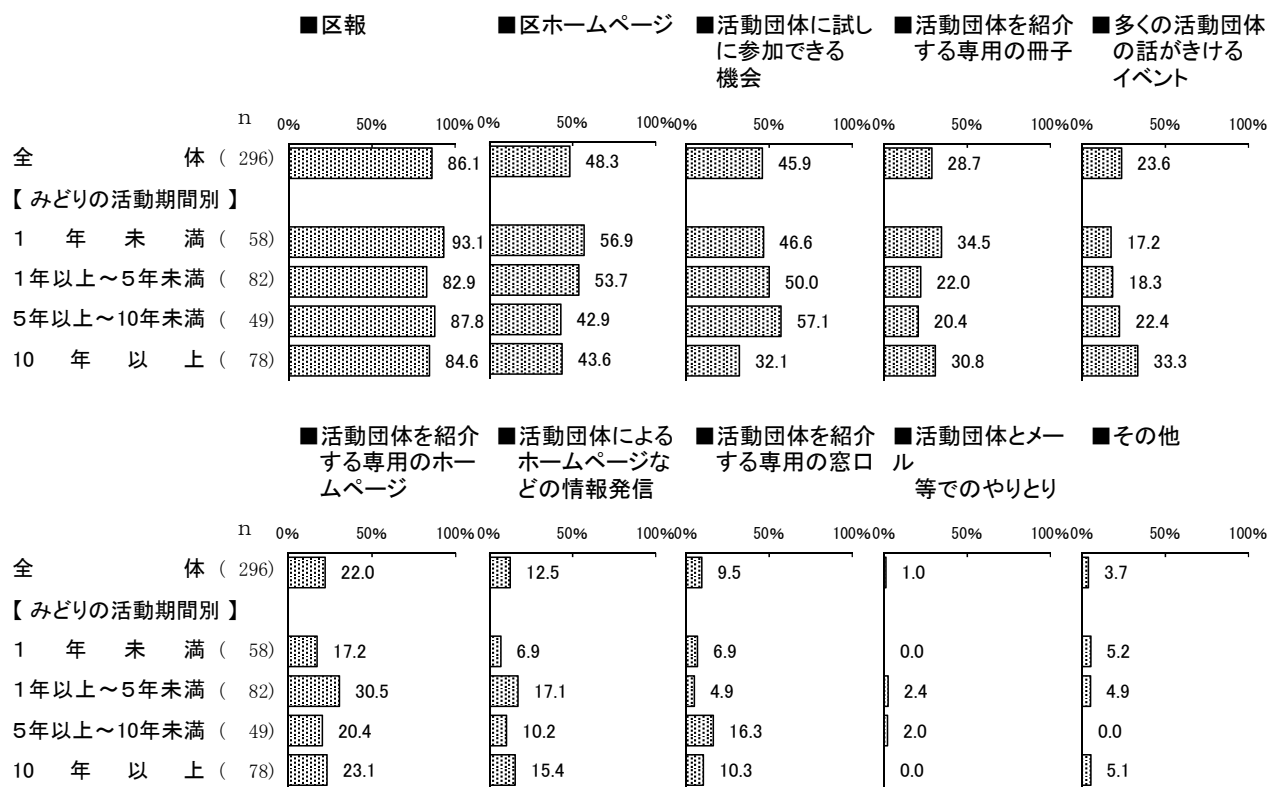
500人調査の順位

- ①区報 (86.1%)
- ②区ホームページ (48.3%)
- ③活動団体に試しに参加できる機会 (45.9%)

3,000人調査の順位

- ①区報 (67.1%)
- ②区ホームページ (59.4%)
- ③活動団体に試しに参加できる機会 (36.7%)

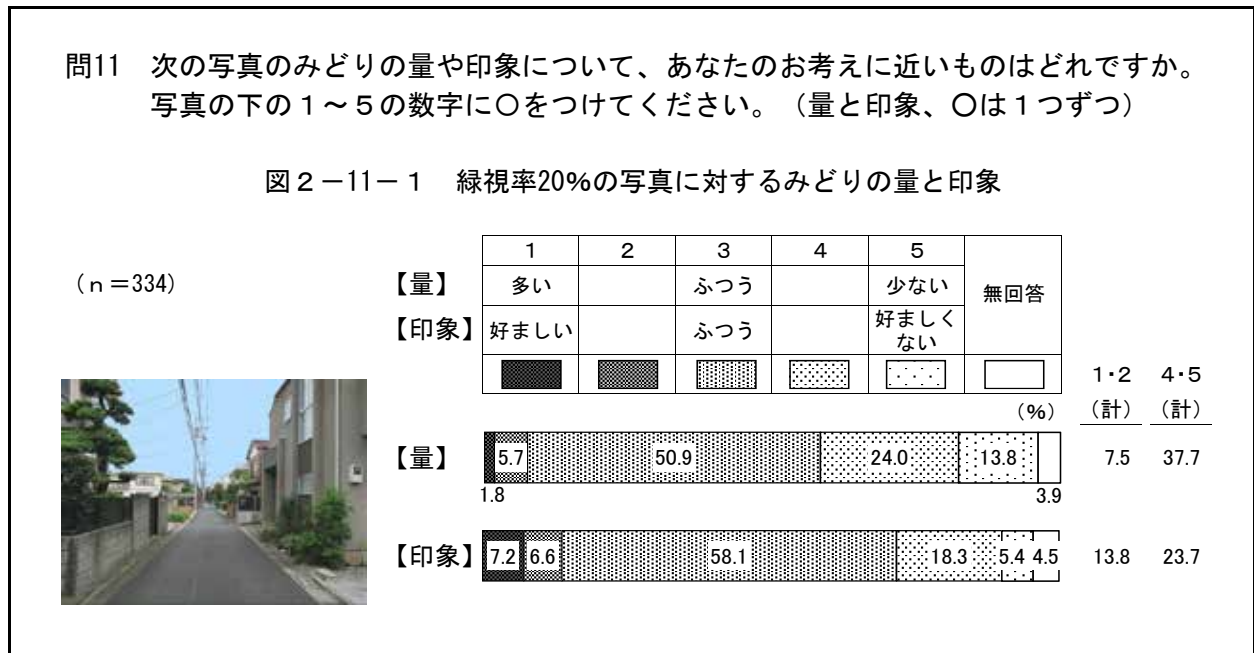
図2-10-6 緑化活動に参加・利用にあたっての情報入手方法の意向—みどりの活動期間別



みどりの活動期間別にみると、「区ホームページ」は1年未満で5割台半ばと多くなっている。「活動団体に試しに参加できる機会」は5年以上～10年未満で6割近くと多くなっている。「多くの活動団体の話がきけるイベント」は10年以上で3割を超えて多くなっている。(図2-10-6)

(11) 緑視率20%の写真に対するみどりの量と印象

◇量は「ふつう」が約5割、印象は「ふつう」が6割近く



緑視率20%の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、量が「1 多い」(1.8%)、「2」(5.7%)を合わせた『多い』(7.5%)が1割未満、「ふつう」(50.9%)が約5割、「4」(24.0%)と「5 少ない」(13.8%)を合わせた『少ない』(37.7%)が4割近くとなっている。

印象は「1 好ましい」(7.2%)と「2」(6.6%)を合わせた『好ましい』(13.8%)が1割台前半、「ふつう」(58.1%)が6割近く、「4」(18.3%)と「5 好ましくない」(5.4%)を合わせた『好ましくない』(23.7%)は2割台前半となっている。(図2-11-1)

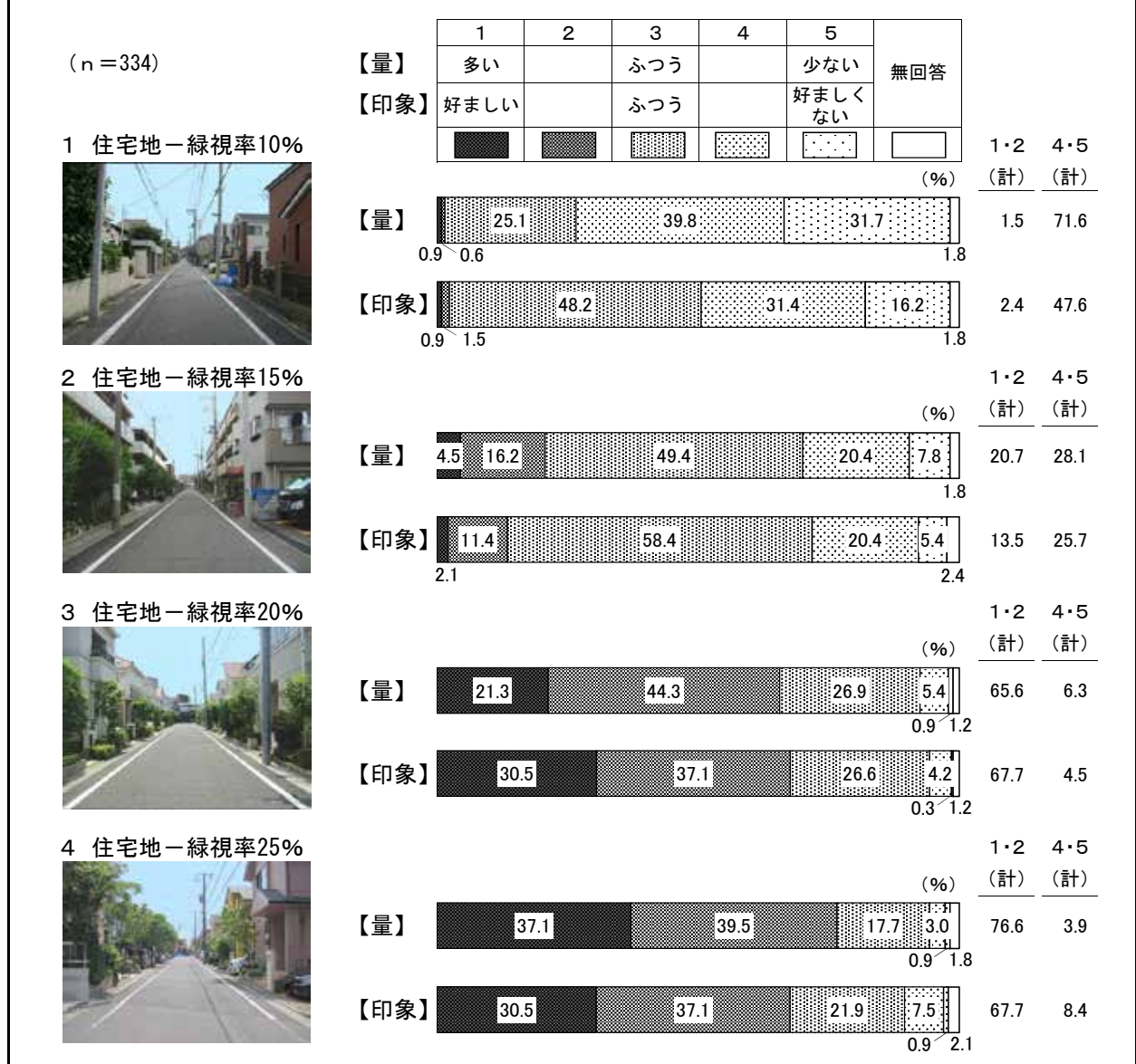
(12) 異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象

①住宅地

◇「量が多い」は緑視率25%、「好ましい」は緑視率20%

問12 次の写真は、緑視率の異なる写真です。それぞれの写真のみどりの量や印象について、あなたのお考えに近いものはどれですか。写真の下の1～5の数字に○をつけてください。同じ評価のものが複数あっても構いません。（それぞれの写真について、量と印象、○は1つずつ）

図2-12-1 異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象①住宅地



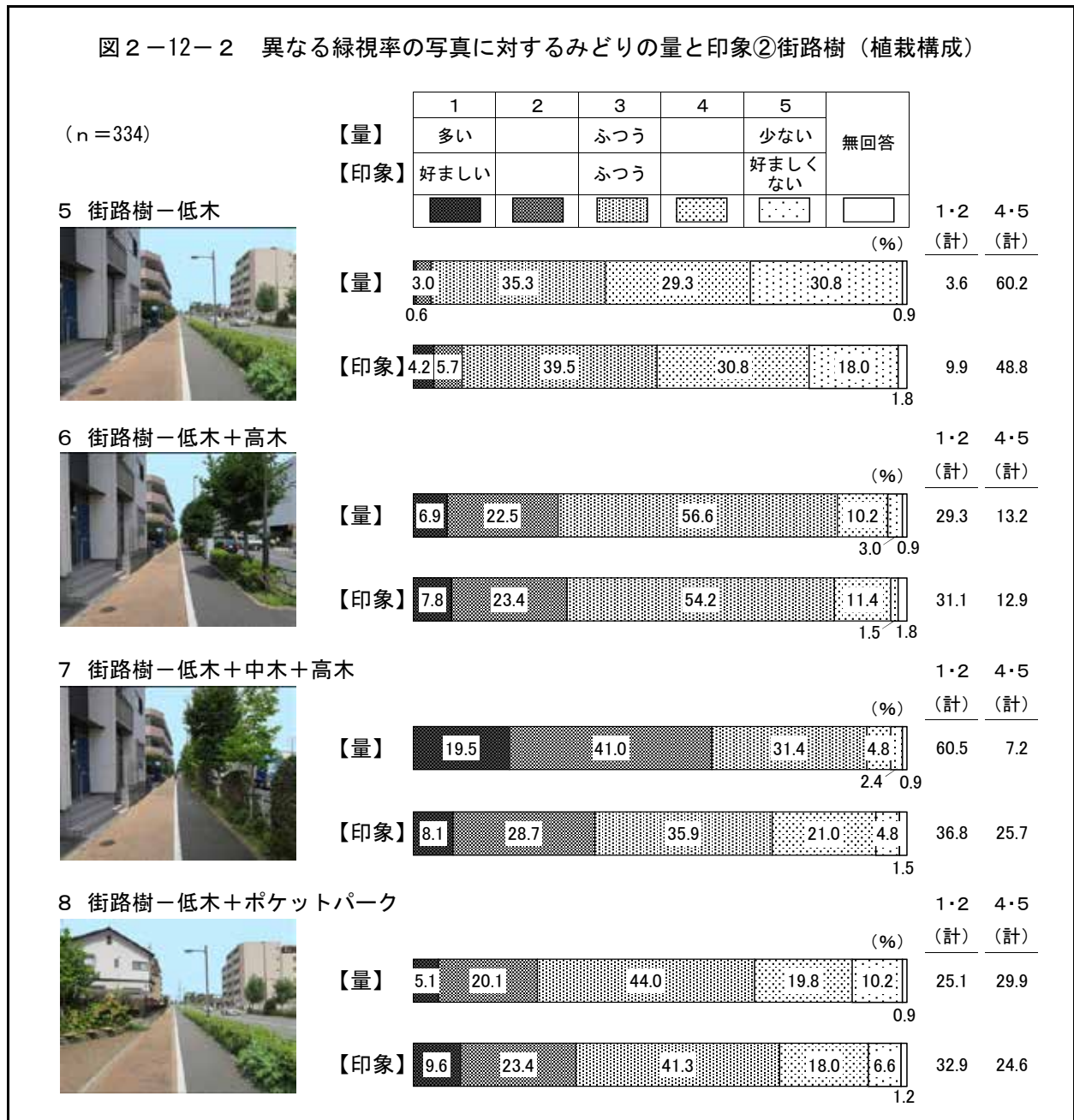
住宅地について異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は緑視率25%、20%、15%、10%の順となっている。「好ましい」は緑視率20%、25%、15%、10%の順となっている。（図2-12-1）

量が多い順		好ましい順	
①緑視率25%	(76.6%)	①緑視率20%	(67.7%)
②緑視率20%	(65.6%)	②緑視率25%	(67.7%)
③緑視率15%	(20.7%)	③緑視率15%	(13.5%)
④緑視率10%	(1.5%)	④緑視率10%	(2.4%)

※緑視率20%と同率だが、『好ましくない』割合が多いため順位を②としている。

②街路樹（植栽構成）

◇「量が多い」「好ましい」ともに低木+中木+高木



街路樹（植栽構成）について異なる緑視率の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は低木+中木+高木、低木+高木、低木+ポケットパーク、低木の順となっている。「好ましい」は低木+中木+高木、低木+ポケットパーク、低木+高木、低木の順となっている。（図2-12-2）

量が多い順	
①低木+中木+高木	(60.5%)
②低木+高木	(29.3%)
③低木+ポケットパーク	(25.1%)
④低木	(3.6%)

好ましい順	
①低木+中木+高木	(36.8%)
②低木+ポケットパーク	(32.9%)
③低木+高木	(31.1%)
④低木	(9.9%)

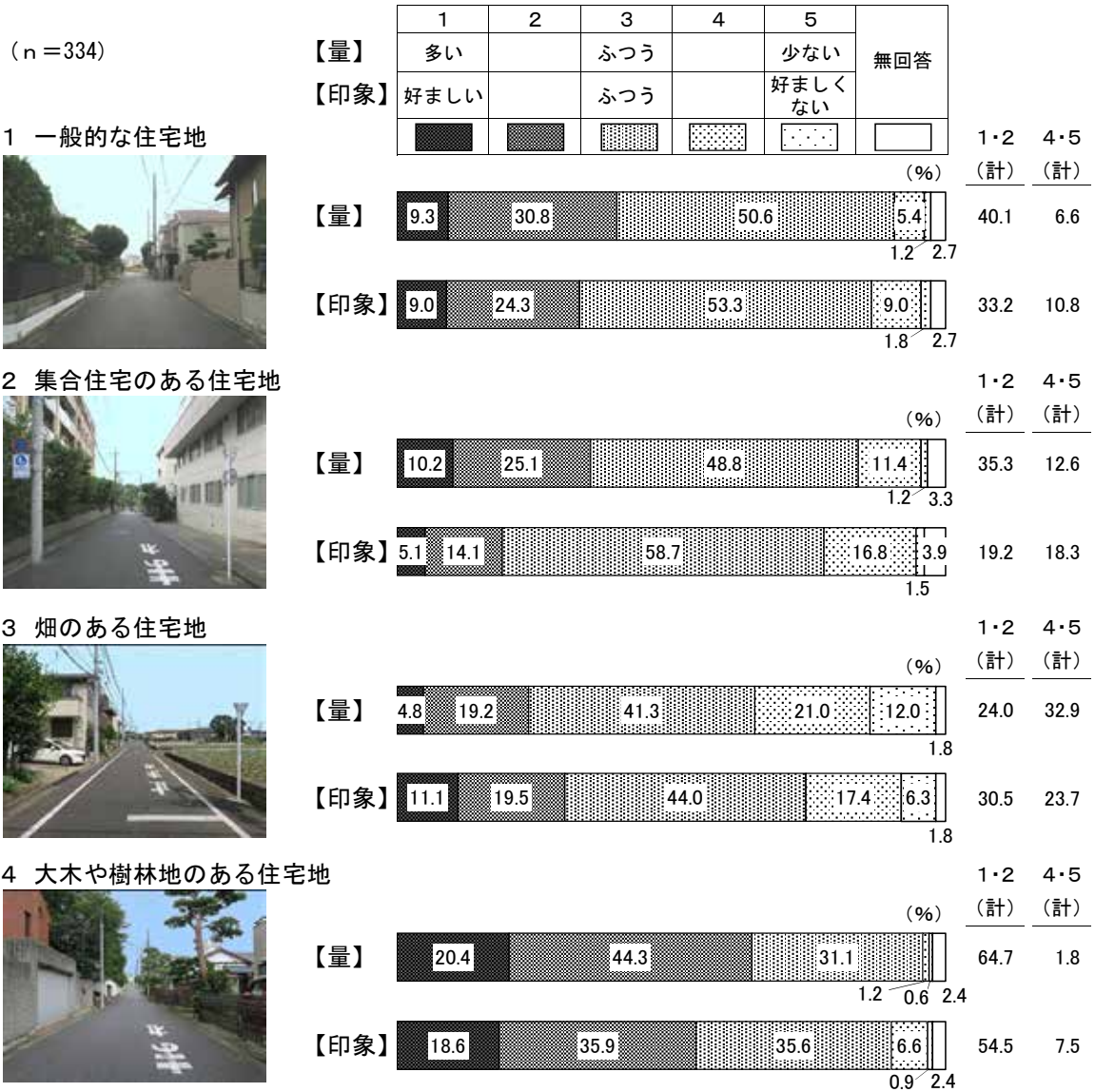
(13) おおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象

①住宅地（植栽構成）

◇「量が多い」「好ましい」ともに大木や樹林地のある住宅地

問13 次の写真は、緑視率がおおむね同じ写真です。それぞれの写真のみどりの量や印象について、あなたのお考えに近いものはどれですか。写真の下の1～5の数字に○をつけてください。同じ評価のものが複数あっても構いません。（それぞれの写真について、量と印象、○は1つずつ）

図2-13-1 おおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象①住宅地（植栽構成）

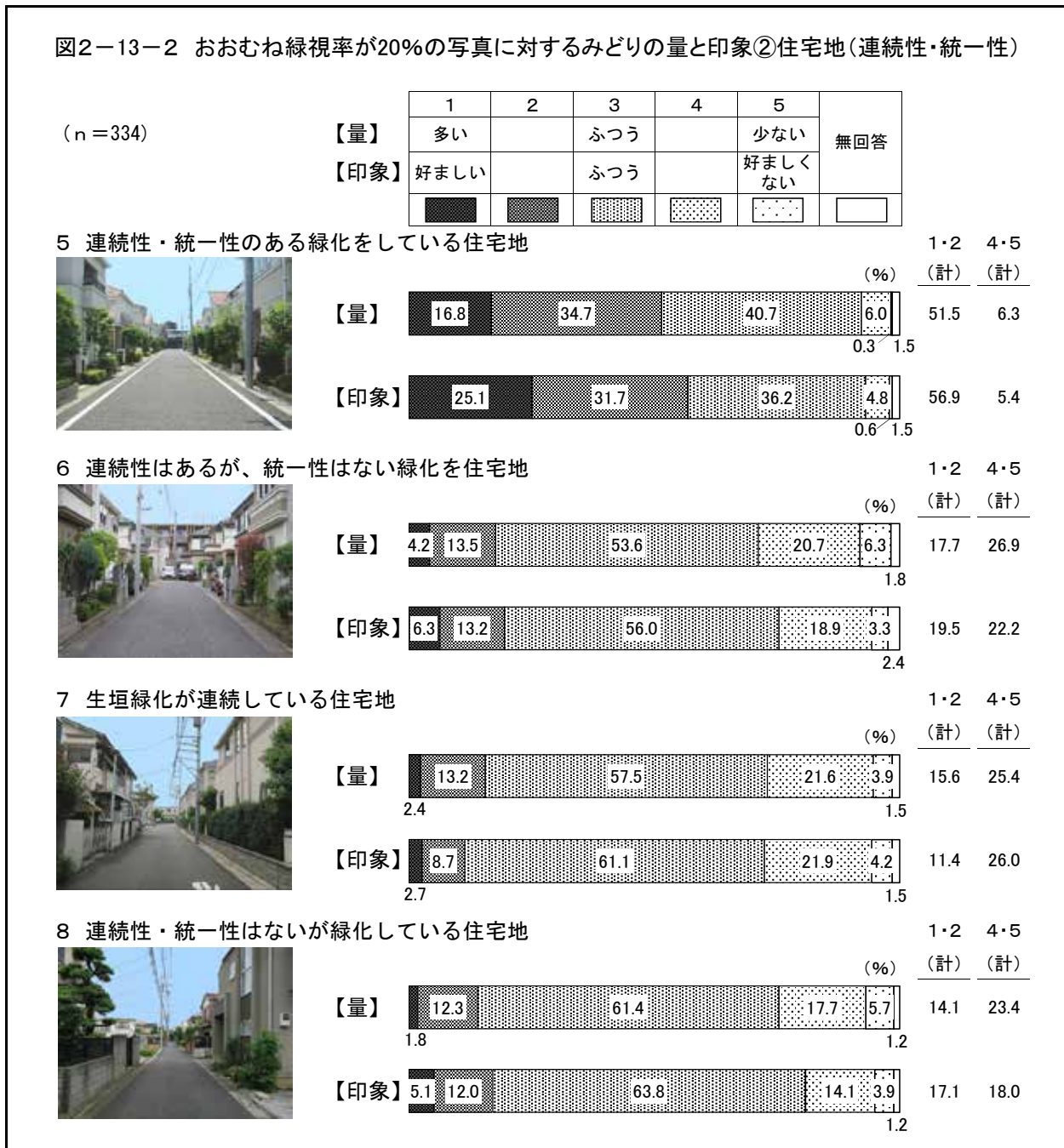


住宅地（植栽構成）についておおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は大木や樹林地のある住宅地、一般的な住宅地、集合住宅のある住宅地、畑のある住宅地の順となっている。「好ましい」は大木や樹林地のある住宅地、一般的な住宅地、畑のある住宅地、集合住宅のある住宅地の順となっている。（図2-13-1）

量が多い順		好ましい順	
①大木や樹林地のある住宅地	(64.7%)	①大木や樹林地のある住宅地	(54.5%)
②一般的な住宅地	(40.1%)	②一般的な住宅地	(33.2%)
③集合住宅のある住宅地	(35.3%)	③畑のある住宅地	(30.5%)
④畑のある住宅地	(24.0%)	④集合住宅のある住宅地	(19.2%)

②住宅地（連続性・統一性）

◇「量が多い」「好ましい」ともに連続性・統一性のある緑化をしている住宅地



住宅地（連続性・統一性）についておおむね緑視率が20%の写真に対するみどりの量と印象を聞いたところ、「量が多い」は連続性・統一性のある緑化をしている住宅地、連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地の順となっている。「好ましい」は連続性・統一性のある緑化をしている住宅地、連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地の順となっている。

(図2-13-2)

量が多い順

- ①連続性・統一性のある緑化をしている住宅地 (51.5%)
- ②連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地 (17.7%)
- ③生垣緑化が連続している住宅地 (15.6%)
- ④連続性・統一性はないが緑化している住宅地 (14.1%)

好ましい順

- ①連続性・統一性のある緑化をしている住宅地 (56.9%)
- ②連続性はあるが、統一性はない緑化を住宅地 (19.5%)
- ③連続性・統一性はないが緑化している住宅地 (17.1%)
- ④生垣緑化が連続している住宅地 (11.4%)

